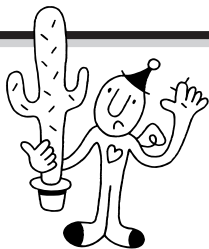




# もっともっと知ってパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！  
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！  
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！



## 周辺機器をつなぐには...

### 接続方法を読んでから

接続方法は周辺機器によって異なります。買っていきなり接続するのではなく、まずはこのマニュアル、周辺機器に添付のマニュアルをよく読んで、接続方法を理解してからにしましょう。

### 確実に

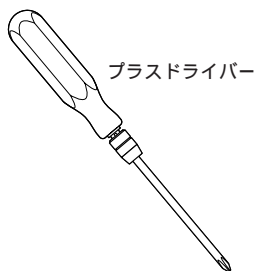
周辺機器の接続や操作、はずしたネジの取り付けなどは確実に行ってください。周辺機器やパソコンが動作しなくなる場合があります。また、ドライバーなどでパソコンや周辺機器を傷つけないようにしてください。

### あわてない

周辺機器を接続すると、ドライバなどのインストール画面が出てきます。意味がわからなくてもあわててはいけません。落ちついて画面の説明をよく読んでみましょう。

## 用意するもの

### 必要なもの



プラスドライバー

このパソコンのスタビライザを取り外したり、取り付けるときに必要です。また、周辺機器などを取り付けるときにあると便利です。周辺機器によっては、ネジの大きさが違うものがあるので、ドライバーは2、3種類の大きさを用意しましょう。

ドライバーは単品ではなく、セットになっているものを購入しておくとい良いでしょう。

### あると便利なもの



ピンセット

本体の中にネジを落としてしまったときなどにあります。

## はじめに

この本には、プリンタなどの周辺機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明や、パソコンの設定を変更したりするとき役に立つ情報が載っています。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分パソコンを使いこなしてください。

2001年1月 初版

2001年2月 2版

# 『もっと知りたいパソコン』の読み方

この「『もっと知りたいパソコン』の読み方」を参考にして、知りたい情報を探してください。

## あなたがやりたいことはどっち？

パソコンをパワーアップしたい

**PART 1~10**

パソコンをもっと知りたい、使いたい

**PART 12~ 付録**

このパソコンで使える周辺機器(PART1)

このパソコンに取り付けることができる周辺機器の説明です。

周辺機器を取り付けるときのポイント(PART1)

このパソコンに周辺機器を取り付けるときの、ポイントや注意です。

### 本体のコネクタに接続する周辺機器について

プリンタなどの周辺機器、本体の開け方と閉め方、USB 対応機器、IEEE1394 対応機器、PC カードの説明です。

**PART 1**

**PART 2**

**PART 3**

**PART 4**

**PART 5**

### 本体のカバーを開けて増設する周辺機器について

PCI ボード、メモリ、SCSI インターフェイス対応機器、ハードディスクなどの説明です。

**PART 6**

**PART 7**

**PART 8**

**PART 9**

### 困ったときの対処方法、ハードウェアを使うときのポイントなど

トラブルの対処法、ハードウェアの使用上の注意などの説明です。

**PART 10**

**PART 11**

### さらに使いこなす

**PART 12**

パソコンの使い方を広げるアプリケーションの紹介です。自分流のパソコンの使い方を楽しんでください。

### 詳しい使用環境の設定

**PART 13**

BIOSセットアップメニューとこのパソコンのリソースについての説明です。

### パソコンのお手入れ、本体の各部の名称、機能仕様など

**付 録**

このパソコンのお手入れについて確認したい場合はここをご覧ください。また、本体の各部の名称や機能仕様、FAX モデムボード機能仕様もここに記載しています。

## このマニュアルの表記について

### 手順は左、補足説明は右に (PART1 ~ PART9)

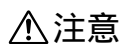
このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

### このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



**警告**

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



**注意**

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。

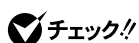


注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

### このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。





パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

## このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクタ」などの末尾に付く「ー」を省略して表記していません。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-R/RWドライブ	CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。
 「添付ソフトの使い方」	「スタート」-「NEC電子マニュアル」-「添付ソフトの使い方」を開き、各ソフトの使い方を参照することを示します。「添付ソフトの使い方」は、「ランチ-NX」から開くこともできます。
 「サポートセンタ」	「サポートセンタ」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は、画面右上の「サポートセンタ」をクリックして起動します。

## このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧ください。購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
液晶ディスプレイセットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CRTディスプレイセットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
ディスプレイなしモデル	ディスプレイが別売になっているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
TVモデル	テレビ/地上波データ放送を見るための機能を搭載したモデルのことです。 BSデジタルチューナボードを搭載したモデルでは、BSデジタル放送も楽しむことができます。
Office 2000モデル	Microsoft® Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです

型名	型番	表記の区分			
		内蔵CD-R/RWドライブ・DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	キーボード・マウス	添付アプリケーション
VC866J/6FD	PC-VC866J6FD	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル (15型液晶)	ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウス	Office 2000モデル
VC800J/6XD	PC-VC800J6XD	CD-R/RWモデル	液晶ディスプレイセットモデル (14.1型液晶)		
VT1000J/6FD	PC-VT1000J6FD	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル (15型液晶)	USBキーボード・USBマウス	
VT1000J/6JD4	PC-VT1000J6JD4		液晶ディスプレイセットモデル (15.3型ワイド液晶)		
VT800J/6JD	PC-VT800J6JD				
VT1000J/6ZD	PC-VT1000J6ZD		ディスプレイなしモデル		
VT866J/67D	PC-VT866J67D		CRTディスプレイセットモデル (17型CRT)		

### 本文中の画面、イラスト、ホームページのアドレス

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

### このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal( Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic )
MS-IME 2000	Microsoft® IME 2000
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3
NEC PC オーナーズ スケジューラ	NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBEスケジューラ

---

## 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-EJQ-ST

認証番号

電話回線：A00-0408JP

導入にあたっては、「MDMNEJQ.INF」または「MDEJQNT5.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。

使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

## 高調波電流規制について

この装置の本体および17型CRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

## レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが搭載されています。

---



## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Millennium Edition および本機に添付のCD-ROM は、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

---

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、Bookshelf、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「iモード」はNTTドコモの登録商標です。

携帯電話はSOURCENEXT株式会社の登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

Ulead、VideoStudioはUlead System, Incの登録商標です。

AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。

Intel、Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

nVIDIAおよびGeForce2 MXは、nVIDIA社の登録商標です。

Sageは、Sage社の米国における登録商標です。

T.M.D.Sは、米国シリコンイメージ社の商標です。

SmartVoice、BIGLOBE、BusBrain、SmartGalleryは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

---

---

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

#### 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

#### Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

---

# 目次

## CONTENTS

### PART

#### 1

はじめに .....	i
『もっと知りたいパソコン』の読み方 .....	ii
このマニュアルの表記について .....	iv
<b>このパソコンで使える周辺機器 .....</b>	<b>1</b>
<b>このパソコンに取り付けることができる周辺機器 .....</b>	<b>2</b>
本体前面に取り付けることができる周辺機器 .....	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器 .....	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器 .....	4
<b>周辺機器を取り付けるときのポイント .....</b>	<b>5</b>
周辺機器選びで失敗しないために .....	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう .....	6
電源を入れたまま取り付けられる周辺機器 .....	6
メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける .....	6
取り付けただけですぐに使えない周辺機器 .....	7
<b>プリンタ .....</b>	<b>8</b>
プリンタの種類 .....	8
プリンタを使えるようにする .....	9
<b>AV 機器を接続する .....</b>	<b>10</b>
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 .....	10
マイクロホン端子 .....	13
LINE IN 端子 .....	14
LINE OUT 端子 .....	14
ヘッドホン端子 .....	14
映像出力端子 (VT866J/67Dを除くTVモデルのみ) .....	15
<b>ターミナルアダプタ .....</b>	<b>16</b>
ISDN回線について .....	16
ターミナルアダプタを使う .....	16
<b>デジタルカメラ .....</b>	<b>18</b>
画像データを取り込む .....	18

PART

2

その他の機器のご紹介 .....	20
3.5 インチフロッピーディスクドライブ .....	20
DVD-ROM ドライブ .....	21
外付け用ハードディスク .....	21
MO ディスクドライブ .....	21
PCI ボード .....	22
デジタルビデオカメラ .....	23

**機器を取り付ける前に .....** 25

接続から準備完了までの流れ .....	26
ドライバなどをインストールする .....	27
周辺機器の取り外しと再接続 .....	29
機器を取り付けるときのご注意 .....	30
本体の開け方と閉め方 .....	31
用意するもの .....	31
ルーフカバーの外し方 .....	31
ルーフカバーの取り付け方 .....	34

PART

3

**USB 対応機器を使う .....** 37

USB とは .....	38
USB なら簡単接続 .....	38
USB コネクタについて .....	39
USB 対応機器を接続する .....	40
接続する前に .....	40
USB コネクタにプラグを差し込む .....	41
正しく接続できたかどうか確認する .....	44
USB 対応機器を取り外すときの注意 .....	44
USB 対応機器をお使いになる上で .....	45
ハイパワーデバイスについて .....	45
USB ハブを使う .....	46
USB 対応機器を使用するときの注意 .....	46

**PART**

**4**

**IEEE 1394 対応機器を使う ..... 47**

IEEE 1394 について ..... 48

IEEE 1394 って何? ..... 48

IEEE 1394 対応機器を接続する ..... 49

IEEE 1394 対応機器を取り外すときの注意 ..... 50

**PART**

**5**

**PC カードを使う ..... 51**

PC カードスロットについて ..... 52

PC カードの入れ方と出し方 ..... 53

PC カードをセットする前に ..... 53

PC カードをセットする ..... 54

PC カードを取り出す ..... 57

PC カードを使用するときの注意 ..... 59

**PART**

**6**

**PCI ボードを使う ..... 61**

PCI ボードについて ..... 62

いろいろな PCI ボード ..... 62

PCI スロット ..... 62

PCI ボードの取り付けと取り外し ..... 63

PCI ボードの取り付け方 ..... 63

PCI ボードの取り外し方 ..... 66

**PART**

**7**

**メモリを増やす ..... 67**

メモリを増やすには ..... 68

このパソコンで使える増設 RAM サブボード ..... 68

メモリの増やし方の例 ..... 69

増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し ..... 70

ボードを取り扱うときに気をつけること ..... 70

増設 RAM サブボードの取り付け方 ..... 70

RAM サブボードの取り外し方 ..... 72

**PART**

**8**

増やしたメモリを確認する ..... 73  
    確認のしかた ..... 73  
    メモリが増えていなかったら ..... 74

**SCSI インターフェイス対応機器を使う ..... 75**

SCSI 機器を使うには ..... 76  
SCSI インターフェイスについて ..... 77  
    接続できる SCSI 機器 ..... 77  
    SCSI に関する基礎知識 ..... 77  
    SCSI インターフェイスの種類 ..... 78  
用意するもの ..... 79  
SCSI インターフェイスボードを取り付ける ..... 80  
SCSI 機器を接続する ..... 81  
SCSI 機器がうまく動かないときは ..... 82

**PART**

**9**

**ハードディスクを増設する ..... 83**

ハードディスクを増設するには ..... 84  
用意するもの ..... 85  
本体にハードディスクを接続する ..... 86  
ハードディスクをフォーマットする ..... 88  
    増設したドライブのドライブ名について ..... 89  
    領域作成の準備をする ..... 90  
    領域を作成する ..... 92  
    増設したハードディスクを確認する ..... 94  
    ドライブをフォーマットする ..... 95

**PART**

**10**

**機器を取り付けた後で ..... 97**

困ったときのチェックポイント ..... 98  
リソースに関する問題 ..... 99  
    リソースって何? ..... 99

PART

11

リソースの競合とは .....	99
リソースが競合していたら .....	99
デバイスのリソース設定の変更 .....	100

**ハードウェアの活用術 .....** 103

<b>マウス</b> .....	104
スクロールボタンを使う .....	104
<b>キーボード</b> .....	106
キーの役割 .....	106
キーの名称 .....	106
ワンタッチスタートボタンの名前と役割 .....	108
PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い .....	110
<b>ハードディスク</b> .....	111
概要 .....	111
ハードディスクの取り扱い上の注意 .....	111
ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる .....	111
<b>省電力機能</b> .....	112
概要 .....	112
省電力機能を使う .....	113
省電力の設定を変える .....	115

PART

12

**さらに広がるパソコンワールド .....** 117

<b>携帯電話と連携する</b> .....	118
携帯電話に登録されている情報を編集する .....	118
パソコンで作成したデータをiモード機能のある 携帯電話で閲覧する .....	118
<b>CD-R や CD-RW にデータを書き込む</b> .....	121
CD-R と CD-RW の特長 .....	121
CD-R や CD-RW にデータを書き込むソフトについて .....	121
他の CD-ROM ドライブでメディアを読み込むときの注意 .....	122

**本機の設定を変更する** ..... 123**BIOS セットアップメニュー** ..... 124

BIOS セットアップメニューを使ってできること ..... 124

BIOS セットアップメニューを使う ..... 124

パスワードの解除 ..... 125

**このパソコンが使用しているリソース** ..... 128

割り込みレベル(IRQ)..... 128

DMA チャンネル ..... 128

**付 録** ..... 129**パソコンのお手入れ** ..... 130

準備するもの ..... 130

電源を切って、電源ケーブルを外す ..... 130

清掃する ..... 131

電池切れにご注意(ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウスの場合)  
..... 132

マウスのクリーニング ..... 132

**本体の各部の名称**..... 133**機能仕様** ..... 137**FAX モデムボード機能仕様** ..... 146**索 引** ..... 149





P A R T

# 1

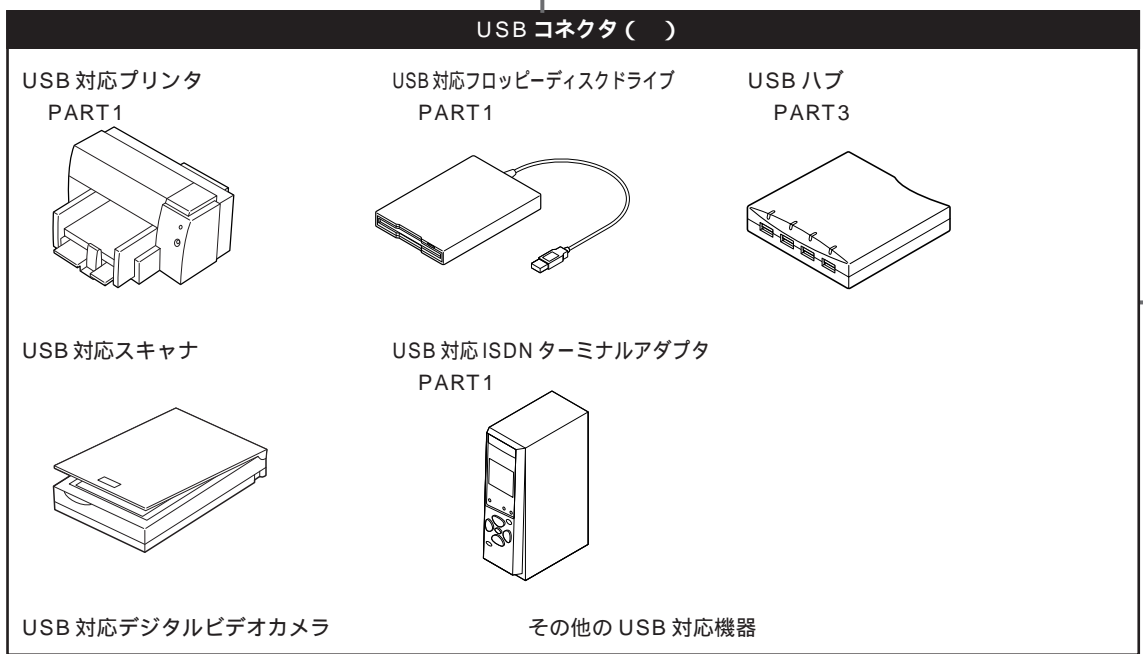
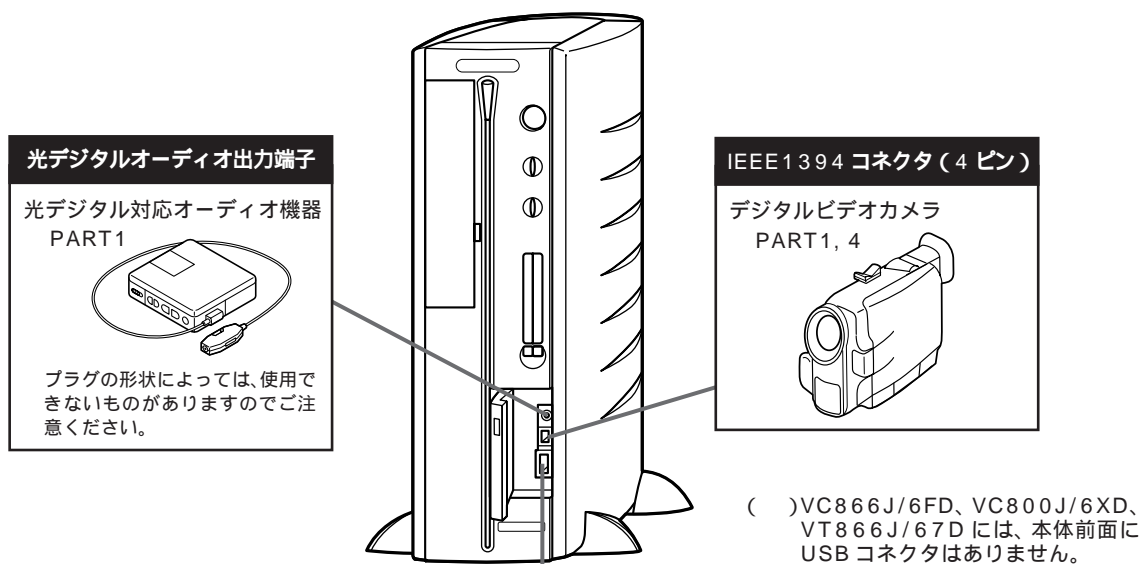
## このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

# このパソコンに取り付けることができる周辺機器

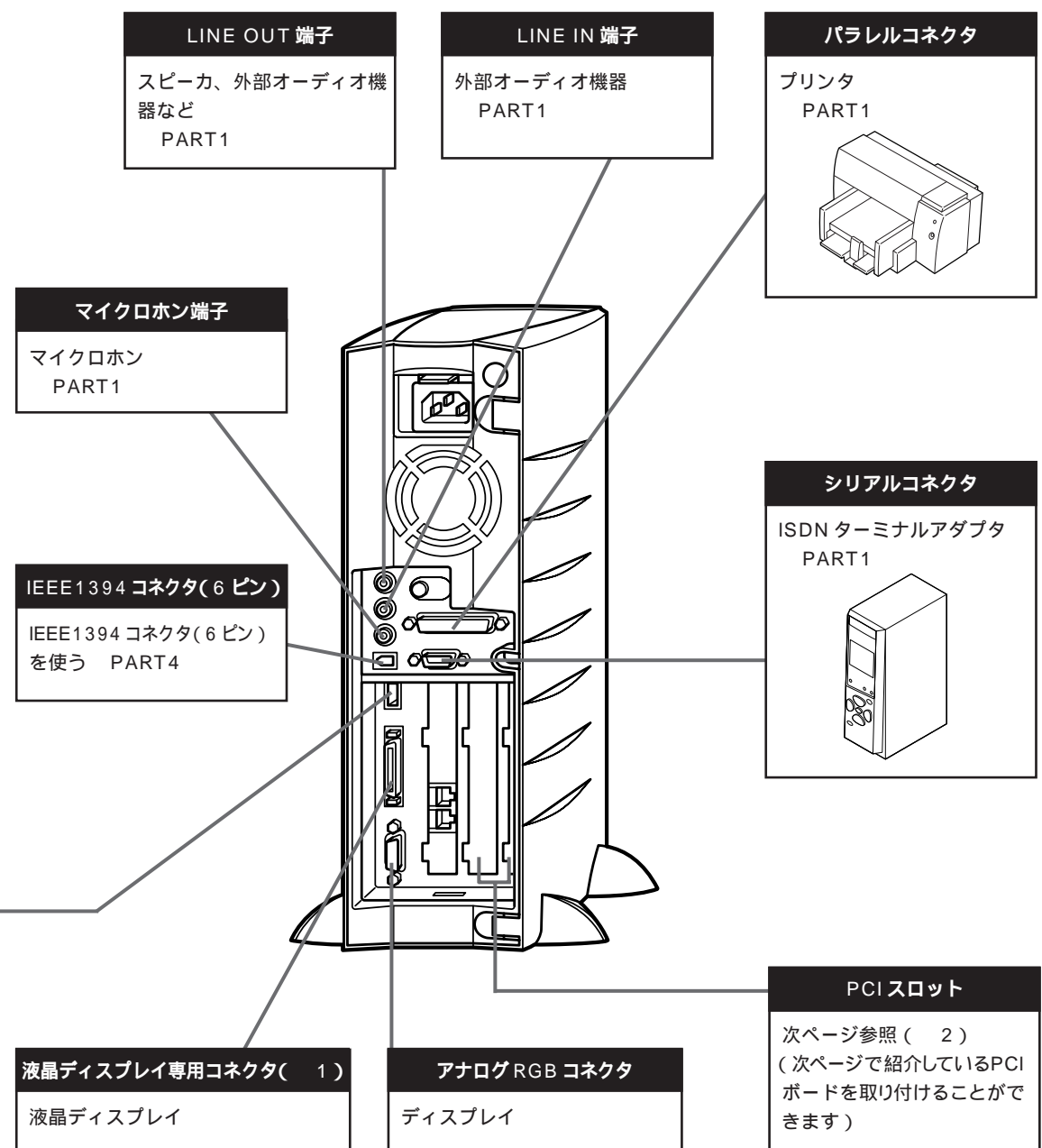
## 本体前面に取り付けることができる周辺機器

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。



・USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

## 本体背面に取り付けることができる周辺機器



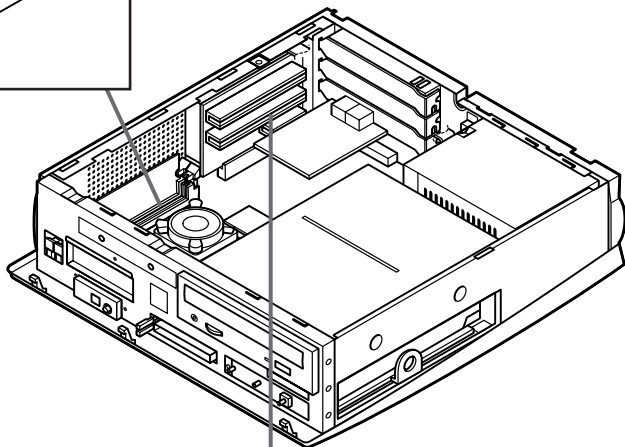
1 セットの液晶ディスプレイを接続する専用コネクタです。VT866J/67Dの場合、添付の「USB増設ケーブル」をこのコネクタに取り付けて USB 対応機器を接続することもできます (p.43 参照)。  
2 TV モデルは地上波 TV & データボードで 1 スロット占有済みです。VT1000J/6JD4の場合、地上波 TV & データボードと BS デジタルチューナボードで 2 スロット占有済みのため、新たに PCI ボードを取り付けることはできません。

## 本体内部に取り付けることができる周辺機器

下の図はルーフカバーを外した状態です。

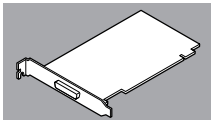
### 増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード  
PART7

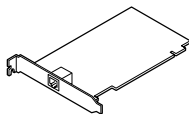


### PCI スロット

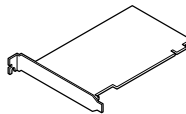
SCSI インターフェイスボード  
PART8



LAN (ネットワーク) ボード  
PART1

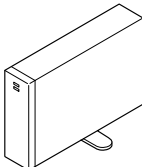


その他の PCI 対応ボード  
PART6

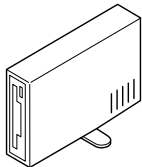


### SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

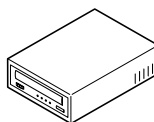
外付け用ハードディスク



MO ディスクドライブ



その他の SCSI 対応機器  
(DVD-ROM ドライブなど)



## 周辺機器を取り付けるときのポイント

周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものもあります。周辺機器を選ぶときのコツや取り付ける際の注意点を確認しておきましょう。

### 周辺機器選びで失敗しないために

#### 新製品情報をチェック

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがあります。自分の欲しい製品がないか、チェックしてみましょう。

#### このパソコンで使えることを確認

同じプリンタでも、機種によって接続方法や対応パソコンの種類などが異なり、このパソコンでは使えない場合もあります。せっかく買ってきたのにこのパソコンでは使えなかった、ということにならないように、このパソコンで使えるかどうか、購入前に確認しましょう。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、このパソコンで使える周辺機器を紹介しています。インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

NEC製以外の機器については、各メーカーや販売店にお問い合わせください。

#### 接続の規格に気を付ける

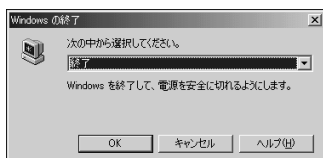
このパソコンにはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

## パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。休止状態( p.112 )になると、パソコン本体の電源ランプが消灯し、電源が切れますが、Windowsは終了していません。休止状態から復帰させ、Windowsを終了して電源ケーブルを抜いてから、周辺機器を取り付けてください。

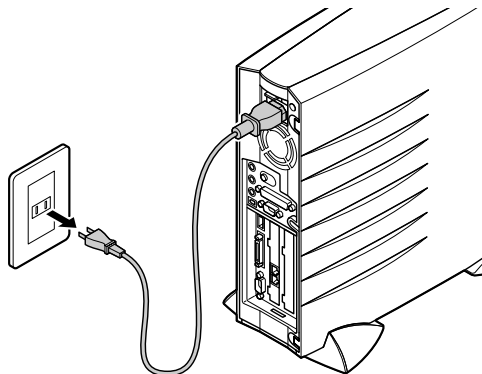
1

Windows を終了する



2

電源ケーブルを抜く



3

取り付け作業を始める

## 電源を入れたまま取り付けられる周辺機器

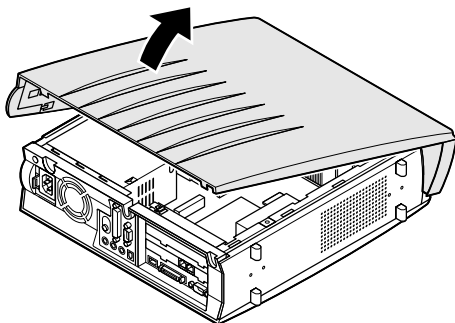
USB対応機器やIEEE1394対応機器、PCカードは、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできます。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

## メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

パソコンの動作を速くするために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。

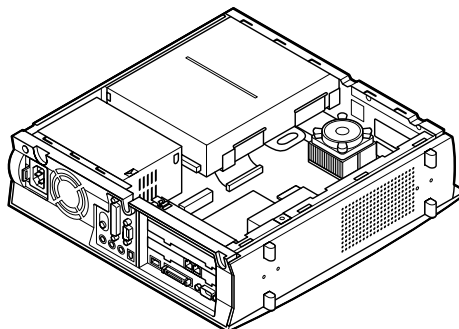
1

パソコン本体のルーフカバーを外してから



2

取り付け作業を始める



 参照 カバーの開け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」( p.31 )

## 取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

ヘッドホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。しかし、ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。たとえば、

- ・ USB対応機器やプリンタ、SCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART2を参照)
- ・ ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要があるものもある(詳しくはPART9を参照)
- ・ ターミナルアダプタやプリンタ、スキャナなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

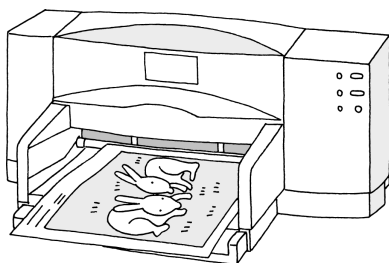
# プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷できます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

## プリンタの種類

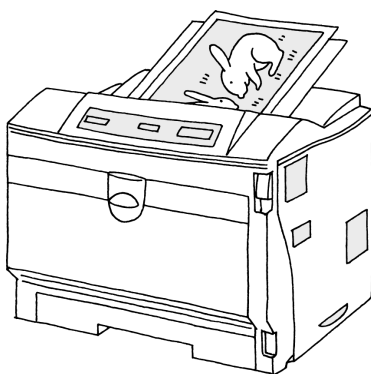
プリンタには次のような種類があります。用途に合ったプリンタを選びましょう。

### インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にしたインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラー印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

### レーザープリンタ(ページプリンタ)



コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。

### ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときにこのタイプを使います。



## プリンタを使えるようにする

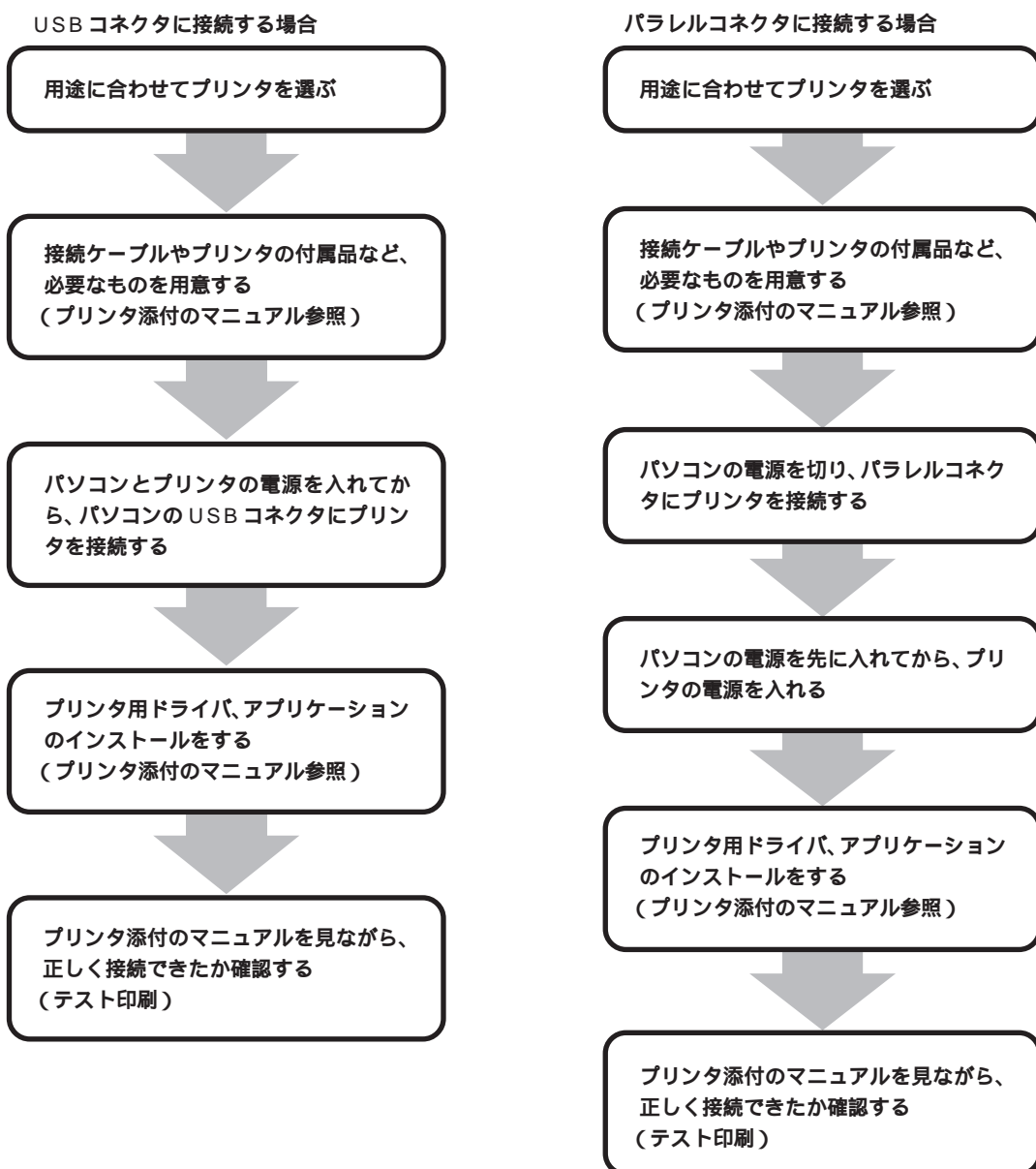
プリンタが使えるようになるまでの手順は次のとおりです。  
プリンタは、本体のUSB コネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

ほとんどの場合、接続した後で、専用のドライバやアプリケーション(プリンタに添付してあるもの)のインストールが必要になります(接続するだけですぐに使えるプリンタもあります)。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

### 用語

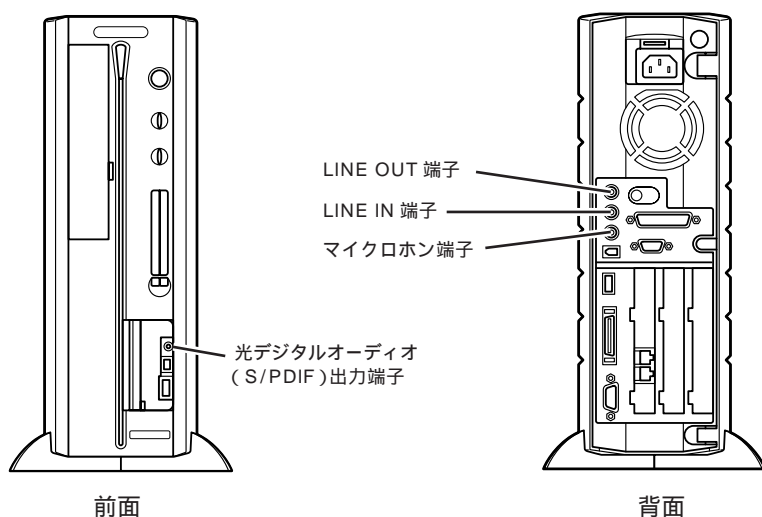
#### ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)します。



## AV 機器を接続する

このパソコンでは、パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、光デジタル対応のオーディオ機器に録音したり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。



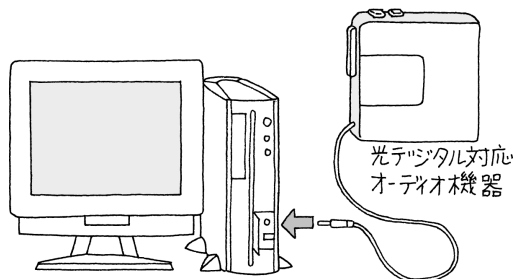
### 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子

この端子にMDデッキやAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して音を聴いたり、パソコンで再生した音をオーディオ機器にデジタル録音できます。

MDにデジタル録音するには、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」を使います。

参照

Jet-Audio Player について  
「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」



## 出力される音源

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

- ・WAVE 音源
- ・MIDI 音源

また、ドルビーデジタル5.1チャンネル出力(ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です)にも対応しています。なお、DTS出力には対応していません。

## S/PDIF の出力設定の変更方法

「スタート」「設定」「コントロールパネル」「ヤマハ DS-XG 設定」の「デジタル出力」タブでデジタル出力モードを変更します。

OFF : この端子、ディスプレイのスピーカ、LINE OUT端子から音声のみを出力します。

ON(デジタルソースのみ)

: この端子に光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタル信号を出力します。ヘッドホン、スピーカを接続したときは音声のみを出力します。光デジタル信号で出力されるのは、WaveやMIDI等のデジタルソースのみです。

ON(すべて)/通常出力は消音

: この端子から光デジタル信号のみを出力します。ディスプレイのスピーカ、LINE OUT端子から音声は出力されません。すべての音声は光デジタル信号で出力されます。

ON(ダイレクト)

: このパソコンでは使用できません。

## オーディオ機器を接続するときの注意

- ・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- ・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- ・デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- ・この端子の形状は光ミニ端子(丸形)です。ケーブルのプラグ形状によっては使用できないものがありますので、ご購入時に確認してください。
- ・このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。

## Jet-Audio Player の設定の変更方法


以下の手順にて、Jet-Audio Playerの「デジタル出力」設定を変更してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Jet-Audio Player」の順にマウスポインタを合わせ、「Jet-Audio Player」をクリックする。

「Jet-Audio Player」が起動します。



## ✓チェック!!

- ・ご購入の機種によって表示されるサウンドドライバ名は異なります。ドライバ名は「サポートセンタ」の「パソコンの情報」の「詳細」で確認できます。
- ・コントロールパネルに「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンが表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。
- ・ディスプレイのスピーカが使えるのは、液晶ディスプレイセットモデルのみです。

「Jet-Audio Player」の「ラック制御」パネルの (細かい設定)をクリックする。

「細かい設定」ウィンドウが表示されます。

「デジタルビデオ」タブをクリックし、「DVD エンジンの環境設定」をクリックする。

「オーディオ出力」タブが選択されているのを確認し、「デジタル出力」の をクリックし、 (オン)にする。

「OK」ボタンをクリックする。

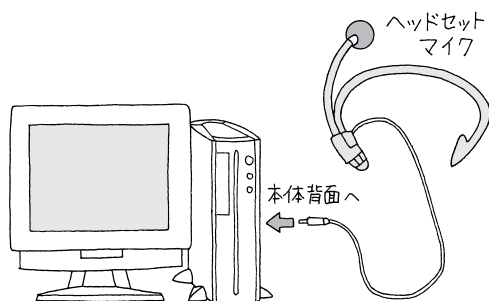
「OK」ボタンをクリックする。

「設定を変更するには、Jet-Audio Playerを再起動してください。」と表示されたら、「OK」をクリックし、「Jet-Audio Player」を終了する。

「Jet-Audio Player」再起動後、設定が有効になります。

## マイクロホン端子

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。マイクロホン端子は、本体背面にあります。



### 音量の調節

マイクロホンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節します。「ボリュームコントロール」は、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテインメント」「ボリュームコントロール」をクリックして起動できます。

### ハウリングについて

マイクロホンを液晶ディスプレイのスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

### 取り込んだ音声の利用

マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存できます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテインメント」「サウンドレコーダー」をクリックして起動できます。

### マイクロホンを使って音声入力をする

「SmartVoice4.0」などの日本語音声認識ソフトをインストールして、このパソコンにマイクロホンを接続すると、音声で文字入力やパソコンの操作ができるようになります。また、このパソコンに添付されているアプリケーションのなかで、「音声対応」となっているものもマイクロホンで音声操作ができます。詳しくは、アプリケーションのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

### ✓チェック!!

このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付のマイクロホンを、別途購入してください。


### ✓チェック!!

ディスプレイのスピーカが使えるのは、液晶ディスプレイセットモデルのみです。

TVモデルには、SmartVoice4.0が添付されています。TVモデル以外の方でSmartVoice4.0をお使いになる場合は、別途購入していただく必要があります。

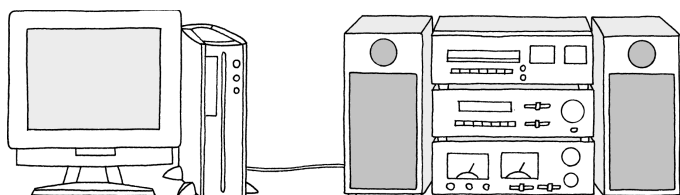
SmartVoice4.0は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールしてください。

### 📖参照

SmartVoice4.0のインストール方法について  「サポートセンター」- 「アプリケーションの追加と削除」- 「SmartVoice」

## LINE IN 端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、外部オーディオ機器から出力される音をパソコンで聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。



## LINE OUT 端子

この端子に外付けスピーカーや外部オーディオ機器を接続して、パソコンから出力される音を聴いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

### ✓チェック!!

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

## ヘッドホン端子

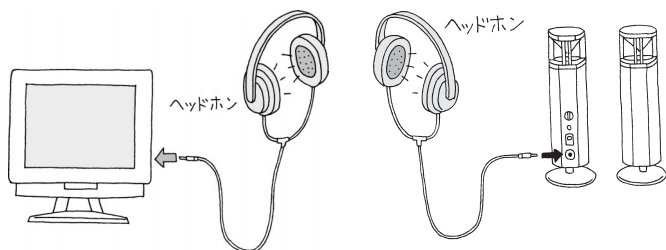
この端子にイヤホンやヘッドホン接続して、パソコンから出力される音を聴くことができます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、電器店などで「ステレオ標準プラグ」ステレオミニプラグ変換プラグを購入してください。キーボードの【】【】ボタンで調節しても音量が小さすぎるような場合は、Windowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

### ✓チェック!!

- ・ヘッドホン接続するときは、音量を小さくしてから接続してください。
- ・円筒形スピーカのヘッドホン端子に接続したときは、液晶ディスプレイ右側面のボリュームつまみを下に回して、ディスプレイのスピーカから出力される音を消してください。

液晶ディスプレイセットモデルの場合  
ヘッドホンは液晶ディスプレイのヘッドホン端子に接続します。

円筒形スピーカがセットの場合  
ヘッドホンは円筒形スピーカのヘッドホン端子に接続します。



## 映像出力端子(VT866J/67Dを除くTVモデルのみ)

映像出力端子は、本体背面にあります。この端子にテレビを接続すると、パソコンの画像やDVD-Videoの映像を大画面でお楽しみいただけます。

### テレビに映像を表示させる


次の手順でテレビに映像を表示できます。なお、あらかじめテレビの電源は入れておいてください。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリックする。

「コントロールパネル」の「画面」をダブルクリックする。

「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックする。

「TwinView」タブをクリックする。

「TwinView モード」欄の「クローン」を  (オン) にし、「適用」をクリックする。

テレビに画像が表示され、モニタイメージ1、2がプロパティに表示されます。

モニタイメージ2をクリックして「出力デバイス」をクリックする。

「形式の変更」をクリックする。

「TV形式の変更」画面が表示されます。

「国名」を「日本」(「形式」は「NTSC-J」)に選択し、「OK」をクリックする。

「OK」をクリックする。

-1 「Windowsがデスクトップを選択した設定に切り替えます。この作業には数秒かかります。～」と表示された場合には、「OK」をクリックする。

-2 「ディスプレイモードが切り替わりました。この設定を保存しますか?」と表示された場合には、「はい」をクリックする。

モニタイメージ2をクリックし、「第1ディスプレイ」をクリックして、「適用」をクリックする。

「Nvidia Control Panelを終了する必要があります。」と表示されます。

「OK」をクリックする。

「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」を閉じる。

再び上記 ~ の手順で「TwinView」タブを開く。


「TwinView モード」欄の「標準(TwinViewは無効)」を  (オン) にし、「OK」をクリックする。

ここで「TVのみ」表示に切り替わります。

「OK」をクリックして「画面のプロパティ」を閉じる。

これで映像をテレビに表示できるようになります。なお、ご使用後は本体とテレビの電源を切り、映像出力端子からビデオケーブルを外してください。その後再び本体を起動すると、本体に接続しているディスプレイに映像が表示されます。

### 参照

- ・映像出力端子 付録の「本体の各部の名称」(p.133)
- ・DVD-Videoを見る  「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

### チェック!

- ・接続には別売のビデオケーブルが必要です。
- ・S映像入力端子のあるAV機器に接続してください。また、TVモデル(VT866J/67Dを除く)の場合、添付の「VIDEO変換コネクタ」を使えば、RCA端子のあるAV機器にも接続できます。
- ・この端子に接続した機器で表示できる解像度は、640×480、800×600、1,024×768ドットです。
- ・テレビに映し出すと、小さな文字などが判読できなくなる場合があります。

# ターミナルアダプタ


ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ(ISDNターミナルアダプタ)について簡単に説明します。

## ISDN回線について

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ・ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。

デスクトップにあるをダブルクリックすると、「カンタンISDN」の紹介ページが表示されます。ここでは、ISDNの基礎知識やISDN回線にするメリットなどISDNについて幅広く解説しています。また、今すぐここからISDNの申し込みを行うこともできます。ここからISDNにお申し込みいただくと、さまざまな特典を受けることができます。

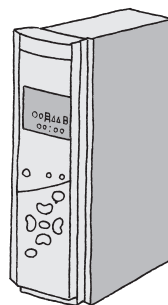
2001年7月末日までにお申し込みいただいた方に限ります。

## ターミナルアダプタを使う

ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ・ISDN回線の契約をしていること
- ・DSUが内蔵されていること(DSUが内蔵されていない場合は、別途用意してください)
- ・ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USBコネクタかシリアルコネクタに接続します。

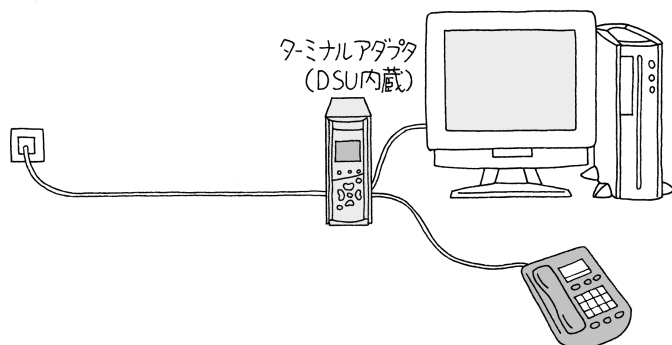


### ✓チェック!!

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応している必要があります。



USB対応のターミナルアダプタは、本体のUSBコネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ(AtermIWX70)とマルチモバイルカード(AtermRC45)を利用することもできます。こうすると、ターミナルアダプタから離れた場所にパソコンを設置できるため、たとえば1階にしかモジュラーコンセントがなくても2階の部屋でインターネットを楽しむことができるようになります。



ISDN回線に契約していない場合は、契約する  
(デスクトップにあるISDNから契約することもできます)

ターミナルアダプタ(必要に応じてDSUも)、必要  
なケーブル類を用意する

ターミナルアダプタに添付のマニュアルを参照して、  
必要なドライバ、アプリケーションをインストール  
する

ターミナルアダプタに添付のマニュアルとこのマ  
ニュアルを参照して、パソコンにターミナルアダプ  
タを接続する

インターネットの設定をISDN回線用にする

# デジタルカメラ

デジタルカメラ(デジタルスチルカメラ)で撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込むには、いろいろな方法がありますが、ここではPCカードスロット経由で取り込む方法で説明します。取り込んだ画像は、いろいろなアプリケーションで活用できます。

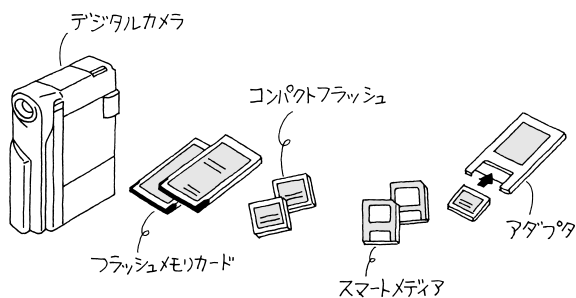
## 画像データを取り込む

デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込む方法は、デジタルカメラによって異なります。ここではメモリカードを使う方法を説明します。デジタルカメラで撮影した写真は、画像データとしてメモリカードにいったん保存されます。デジタルカメラによってメモリカードの種類はさまざまですが、次の2つのタイプに分けることができます。

- ・ PC カードスロットにそのままセットできるもの(フラッシュメモリカードなど)
- ・ PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要なもの(コンパクトフラッシュやスマートメディアなど)

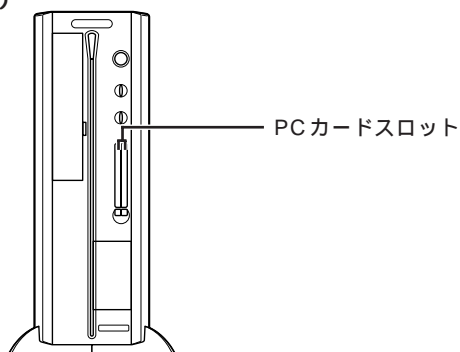
お使いのデジタルカメラのメモリカードについて詳しくは、デジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。


この他にも、USBケーブルをパソコン本体に接続して画像を取り込むタイプのものもあります。



パソコン本体の電源を入れる

デジタルカメラから画像データの入ったメモ리카ードを取り出し、PC カードスロットにセットする(必要に応じて市販のPCカードスロット用のアダプタを使う)



デスクトップの「マイコンピュータ」からFドライブ  をダブルクリックし、画像が保存されているフォルダを開き、画像データが保存されていることを確認する

「表示」「縮小表示」をクリックすると画像が縮小表示されるので、どんな写真が確認できます。

Fドライブ(PCカード)からCドライブ(パソコンのハードディスク)にデータをコピーする


デスクトップの「マイドキュメント」-「My Pictures」フォルダにコピーすると、縮小表示された画像の一覧を見ることができます。また、ウィンドウ左側に表示されるボタンを使って、画像を回転したり印刷したりすることもできます。

### 取り込んだ画像データを活用する

パソコンに取り込んだ画像データは、大きさや色を変えたり、文章を入れたりすることができます。TVモデルでは、SmartGalleryでこれらのデータを管理すると便利です。また、このパソコンに添付されている筆王を使うとはがき作成に利用することもできます。



 参照

PCカードの取り扱い方 「PART5 PCカードを使う」(p.51)

 **チェック!!**

購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、PCカードはFドライブになります。

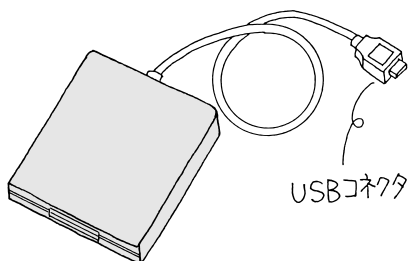
 参照

- ・ SmartGalleryについて 『TVモデルガイド』(TVモデルのみ)  「添付ソフトの使い方」-「SmartGallery」
- ・ 筆王について  「添付ソフトの使い方」-「筆王」

## その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的良好に使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

### 3.5 インチフロッピーディスクドライブ



3.5インチフロッピーディスクドライブは、もらったフロッピーディスクのデータを読み取ったり、このパソコンのデータをフロッピーディスクに書き込んだりするために必要な周辺機器です。

フロッピーディスクは、記憶容量がハードディスクの数千分の1以下しかありませんが、文字や数字が中心のデータをやりとりするには、もっとも手軽に使える記録メディア(媒体)です。最近では、インターネットや電子メールでデータをやりとりすることが多くなりましたが、インターネットに接続していない人へデータを渡すときには、フロッピーディスクが便利です。

3.5インチフロッピーディスクには「2HD」(1.44Mバイト)と「2DD」(720Kバイト)の2種類の規格がありますが、一般に販売店で売られているのは「2HD」(1.44Mバイト)が主流です。

このパソコンでは、USBに対応したフロッピーディスクユニット(PK-UP009)が使えます。

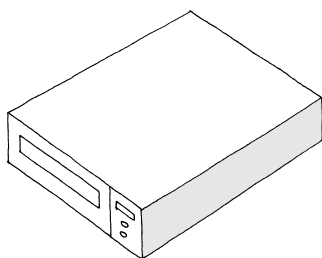
#### ✓チェック!!

1.2Mバイトのフロッピーディスクを外付けのフロッピーディスクユニットで使いたいときは、フロッピーディスクユニットが1.2Mバイトに対応しているかどうかを確認してください。詳しくは、フロッピーディスクユニットに添付のマニュアルをご覧ください。

#### ✓チェック!!

このパソコンに添付の「フロッピーディスクユニットプレゼント申込書」にてお申し込みいただいたお客様へ、もれなくフロッピーディスクユニットをプレゼントいたします(2001年11月30日(必着)まで)。お申し込み方法など、詳しくは、このパソコンに添付の「フロッピーディスクユニットプレゼント申込書」をご覧ください。

## DVD-ROM ドライブ



CD-ROM の約 7 倍にあたる 4.7G バイト(片面の場合)のデータを記録できる読み出し専用の DVD-ROM を再生できるドライブです。DVD-ROM は映画や音楽などを楽しむメディアとして普及がはじまっています。DVD-ROM ドライブでは、DVD-ROM や CD-ROM のほかに、CD-R/RW ドライブで保存した CD-R や CD-RW などとも利用できません。

## 外付け用ハードディスク

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、ハードディスクの容量が足りなくなってきました。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。機種によって接続の規格が異なります。SCSI インターフェイス対応のものは、PC カードスロットに SCSI カードを取り付けるか、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けて接続します。

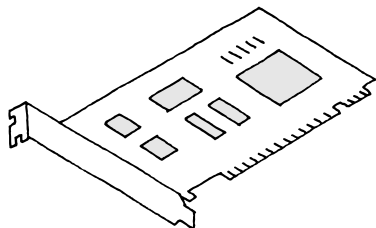
## MO ディスクドライブ

3.5 インチ MO ディスク(光磁気ディスク)を扱うことができるドライブです。3.5 インチ MO ディスクは、日本国内で普及している大容量メディアの 1 つです。記憶容量は 128M バイト、230M バイト、540M バイト、640M バイト、1.3G バイトの 5 種類があり、ドライブの種類によって扱えるディスクが異なります。また、ドライブは機種によって接続の規格が異なります。SCSI インターフェイス対応のものは、PC カードスロットに SCSI カードを取り付けるか、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けて接続します。

このほかに PD、Zip、Jaz などの大容量メディアもあり、データを読み書きするには、それぞれのメディアに対応したドライブが必要になります。

## PCI ボード

PCI ボードには次のようなものがあります。



### SCSI インターフェイスボード

このパソコンに外付け用ハードディスクや、MOディスクドライブなどの SCSI インターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

### 3D グラフィックアクセラレータボード

3D グラフィック、2D グラフィックを高速描画することができるボードです。CAD や 3D グラフィックス、3D ゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2D アクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも画面を高速に描画することができます。

### LAN ボード

LAN ボードはこのパソコンを LAN (Local Area Network) に接続するための PCI ボードです。LAN は同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LAN でコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LAN に接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されている LAN ボードの多くは 100BASE-TX または 10BASE-T という規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。また、LAN ボードと同じ機能を持つものに LAN カードがあります。LAN カードは PC カードスロットに取り付けます。

### チェック!!

PCI ボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらの PCI ボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

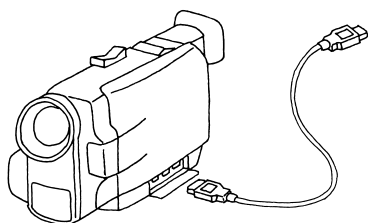
### 参照

PCI ボードの使い方 「PART6 PCI ボードを使う」(p.61)

### 参照

SCSI インターフェイスボードを使う 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.75)

## デジタルビデオカメラ



このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。

また、DV 端子 (IEEE1394 コネクタ) 付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も取り込むことができます。


デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART 4 IEEE1394 対応機器を使う」(p.47) および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに添付されている VideoStudio で映像の編集ができます。

### ✓チェック!!


VideoStudio を使うには添付のアプリケーション CD-ROM からインストールを行います。TV モデルは、ご購入時の状態でインストールされています。

### 📖参照

- ・ IEEE1394 について 「PART 4 IEEE1394 対応機器を使う」(p.47)
- ・ VideoStudio について  「添付ソフトの使い方」- 「VideoStudio」- 『TV モデルガイド』(TV モデルのみ)

TV モデルでは、添付されている SmartGallery/BusBrain を使うと、デジタルビデオカメラのデータを管理するのに便利です。

### 📖参照

SmartGallery/BusBrain について  「添付ソフトの使い方」- 「SmartGallery/BusBrain」- 『TV モデルガイド』(TV モデルのみ)





## 2

## 機器を取り付ける前に

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

# 接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。

## 新しい周辺機器を接続すると

何か画面が表示されて、しばらくすると下のよう画面が出て止まった



周辺機器に添付されているマニュアルを見ながら、周辺機器に添付のドライバなどをインストールする(p.27 参照)

ドライバは正しくインストールできましたか？

Yes

これで接続した周辺機器は使えます。

何か表示されたが自動的に閉じた

何も表示されない

接続した周辺機器が正常に使えるかどうかを確認する

接続した機器は正常に使えますか？

Yes

No

ドライバのインストールのしかたは正しかったか、周辺機器のケーブルや、PCIボード、PCカードがしっかりと差し込まれているか確認して、もう一度取り付け直してください。

接続した機器は正常に使えますか？

Yes

No


プラグ&プレイに対応していないか、このパソコンに対応していない(Windows Meへの未対応含む)か、故障の可能性があります。ご購入元または周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

## ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。


ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

### プラグ & プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます(  をクリックしていただきます)。



### ・パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま  をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。



#### 用語

**ドライバ**  
情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。



#### 用語

**プラグ & プレイ**  
パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。つなぐだけですぐ使えることから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

## ・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。



## プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合

Windows Meには、新しくドライバを追加した際のトラブルを防ぐため、追加しようとしているドライバがWindows Meで正しく動作するものかどうか、チェックする機能があります。正しく動作することがMicrosoftによって保証されているドライバには、Microsoftデジタル署名が付けられています。デジタル署名についてのメッセージが表示された場合は、周辺機器のメーカーにデジタル署名のついたドライバを入手できないか確認するか、Windows Update を実行してみてください。

## ドライバをインストールするときの注意

ドライバのインストール後、Windowsを再起動する必要があるものがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

## ドライバのアップデートについて

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることがあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)や各周辺機器のメーカーのホームページを時々チェックし、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要があります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。


周辺機器に添付のドライバをインストールするときは、ドライバがWindows Meに対応しているかどうか確認してください。Windows Meに対応していないドライバをインストールすると、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Windowsを再起動する必要があることがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

周辺機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、外付けのUSB対応フロッピーディスクユニットを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

## 周辺機器の取り外しと再接続

プリンタや外付けのフロッピーディスクユニットなどのUSB対応機器、デジタルビデオカメラなどのIEEE1394対応機器、メモリカードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。

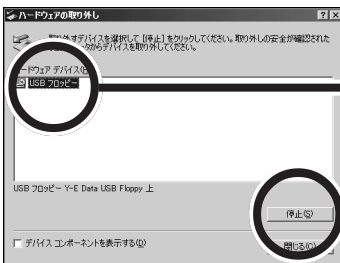
ただし、タスクトレイにが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、このパソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行うときは、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1

タスクトレイのをダブルクリック



「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。

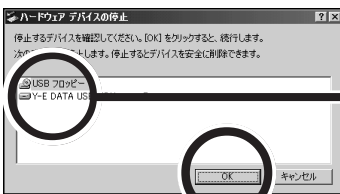


2

「ハードウェアデバイス」の一覧から取り外す周辺機器を選んで

3

「停止」をクリック



4

取り外す周辺機器が選択されていることを確認し、

5

「OK」をクリック

「\*\*\*は安全に取り外すことができます。」と表示されます。



6

「OK」をクリック

これで周辺機器は取り外せます。

同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの指示にしたがってください。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

### ✓チェック!!

外付けのフロッピーディスクユニットを取り外す際も、この手順にしたがってください。

### 📖参照

- ・USB対応機器の取り外し PART3の「USB対応機器を取り外すときの注意」(p.44)
- ・IEEE1394対応機器の取り外し PART4の「IEEE1394対応機器を取り外すときの注意」(p.50)
- ・PCカードの取り外し PART5の「PCカードを取り出す」(p.57)

# 機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

## ⚠ 警告



雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

## ⚠ 注意



本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、



コンセントから抜いてください。パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。

CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

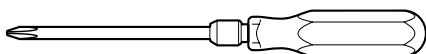
## 本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりと行ってください。

### 用意するもの

#### プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端の  
ものを使って  
ください



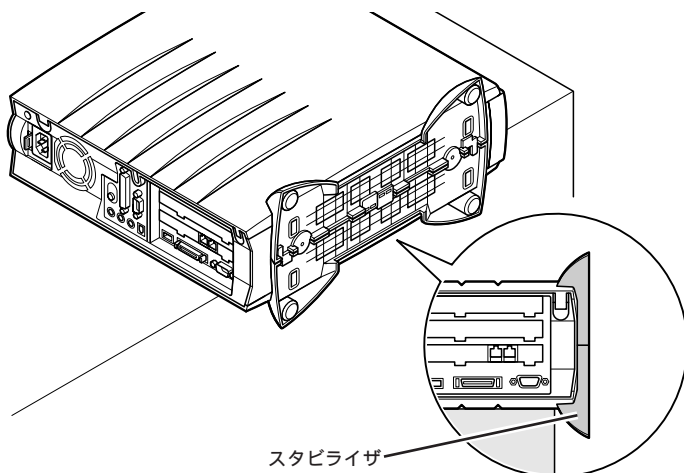
ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

### ルーフカバーの外し方

- 1 本体と、プリンタなどの周辺機器の電源を切る
- 2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く
- 3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

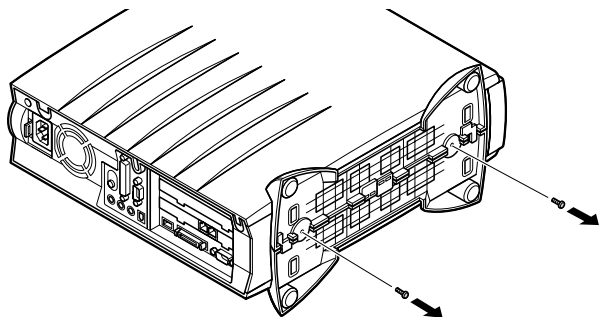
4

本体の左面(正面から見て左側)を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



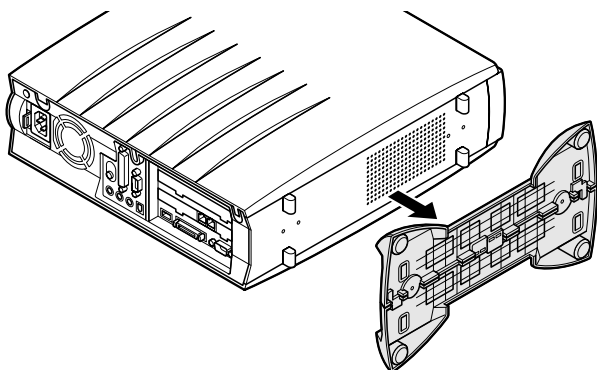
5

用意したドライバーで本体底面のネジを2本外す



6

スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、本体を安定させるためや机やテーブルなどを傷つけたりしないために、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

#### ✓チェック!!

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

#### ✓チェック!!

外したネジをなくさないように、大切に保管してください。

#### ✓チェック!!

スタビライザを落下させないように、スタビライザを手に持って取り外してください。

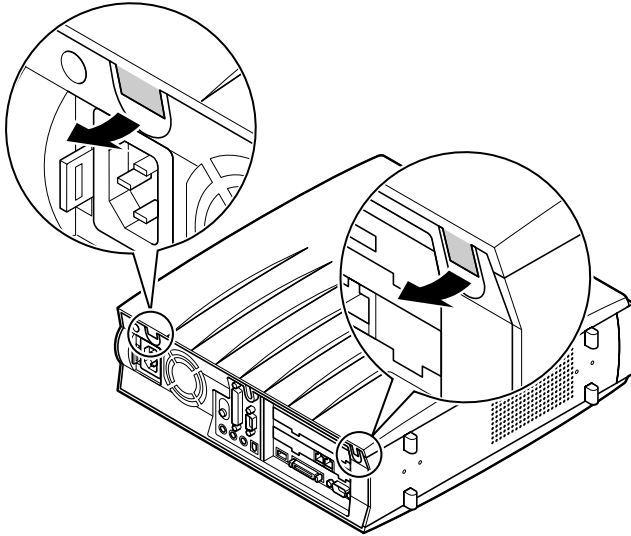


7

ダミーカードを取り出す

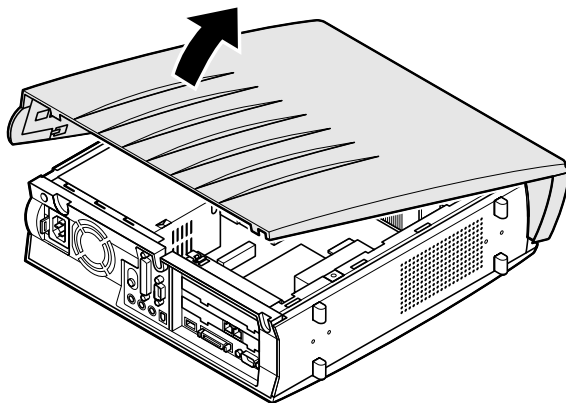
8

下の図のように本体背面のフックを外す



9

フックの部分を持ったまま矢印の方向にルーフカバーを持ち上げる



10

そのままゆっくりルーフカバーが垂直になるまで持ち上げて、正面下側のツメに注意して取り外す

☰ 参照

ダミーカードの取り出し方 PART5  
の「PCカードの入れ方と出し方」  
(p.53)

✔ チェック!!

- ・フックを外すときは、指をはさんだり、切ったりしないよう注意してください。
- ・本体背面のフックを強くひっぱらないようにしてください。フックが破損することがあります。

✔ チェック!!

ルーフカバーを取り外す際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。

✔ チェック!!

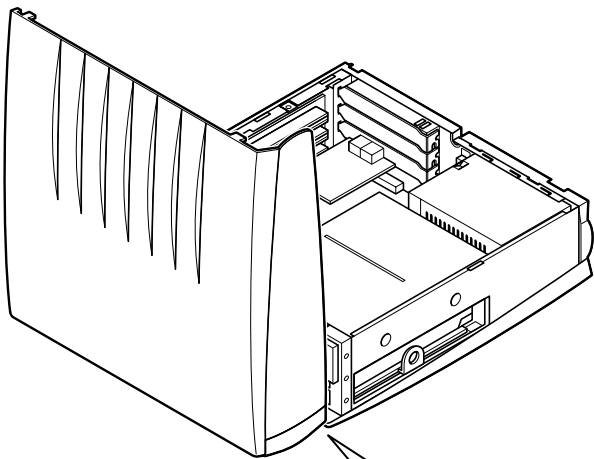
ルーフカバーを取り外す際は、ゆっくりと外してください。勢いよく外すとカバーやツメが破損することがあります。

## ルーフカバーの取り付け方

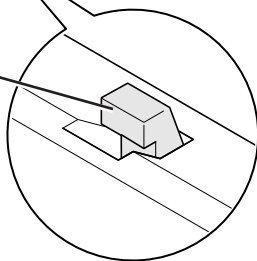
機器の取り付けが終わって、ルーフカバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1

ルーフカバーを垂直状態にして、本体側のツメにカバー正面裏側の穴をはめ込む

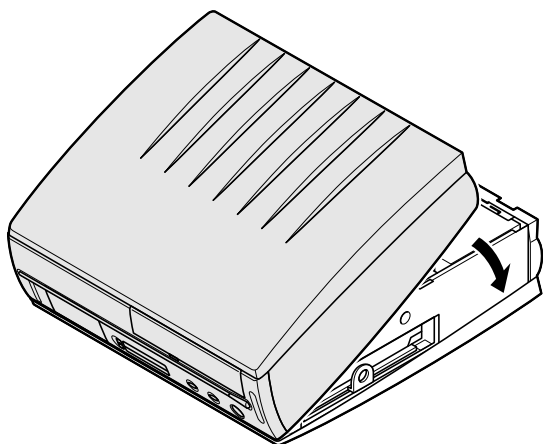


本体側のツメ(3ヶ所)にカバー正面裏側の穴をはめ込む



2

ルーフカバーをゆっくりと下げる

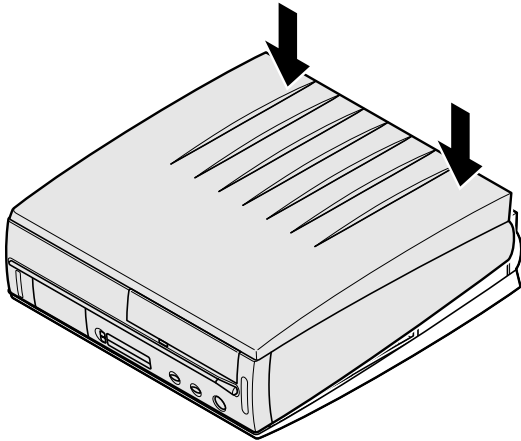


### ✓チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、ゆっくりと取り付けてください。勢いよく取り付けるとカバーやツメが破損する場合があります。

3

上から軽く押して本体背面のフックをはめ込む



4

「ルーフカバーの外し方」の手順4～6(p.32)で取り外したスタビライザをもとどおりに取り付ける

5

ダミーカードを取り付ける

6

「ルーフカバーの外し方」の手順3(p.31)で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

📖 参照

スタビライザの取り付けについて  
『はじめにお読みください』PART2  
の「パソコン本体にスタビライザを  
取り付ける」

📖 参照

ダミーカードの取り付け方 PART5  
の「PCカードを取り出す」(p.57)

📖 参照

ケーブルの接続 『はじめにお読み  
ください』



P A R T

# 3

## USB 対応機器を使う

USB コネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスビー

## USB とは

USBは、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。



### インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

## USBなら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のままで接続します。

本体とディスプレイの電源を入れて  
Windowsを起動する( p.40 )



必要に応じてUSB対応機器側の  
設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。



USBコネクタにプラグを差し込む( p.41 )  
パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する( p.44 )

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。  
すぐに使い始めることができます。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。



USB対応機器を使用するときの注意  
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.46)

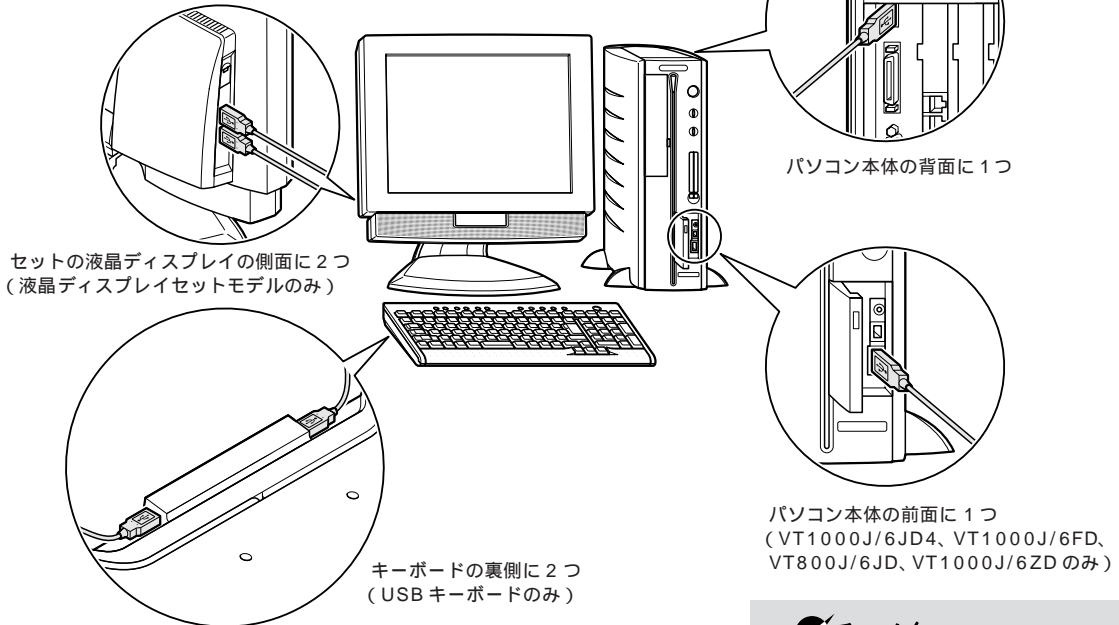
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面に1つ(VT1000J/6JD4、VT1000J/6FD、VT800J/6JD、VT1000J/6ZDのみ)、本体の背面に1つ、USBコネクタが用意されています。また、セットの液晶ディスプレイの側面に2つ(液晶ディスプレイセットモデルのみ)のUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、たくさんの機器を同時に使用することもできます。



USBキーボードの場合は、キーボードの裏側にも2つのUSBコネクタが用意されています。ここにもUSB対応機器を接続できますが、機器によっては接続できない場合があるので、注意が必要です。

標準で用意されているUSBコネクタの数

	USBコネクタの数	実際に使える数
VC866J/6FD VC800J/6XD	3個	3個
VT1000J/6JD4 VT1000J/6FD VT800J/6JD	4個	4個
VT1000J/6ZD	4個	2個( 1 )
VT866J/67D	3個	1個( 1 )/2個( 2 )

- 1 通常、USBコネクタには添付のキーボードやマウスが接続されているので、空いているコネクタの数は少なくなります。
- 2 本体背面の液晶ディスプレイ専用コネクタに添付の「USB増設ケーブル」を取り付けて、USBコネクタを1つ増やすことができます。

なお、標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USBハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

### ✓チェック!!

モデルにより、本体、ディスプレイの形状は多少異なります。

### 📖参照

各USBコネクタへの差し込み方  
このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.41)

### ✓チェック!!

キーボード裏側のUSBコネクタには、「ハイパワーデバイス」は接続できません。

### 📖参照

ハイパワーデバイス このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.45)

### 📖参照

USBハブについて このPARTの「USBハブを使う」(p.46)

# USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ですべてのUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

## 警告



雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

## 接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

### 接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されている場合は、用意しておきます。フロッピーディスクでドライバが添付されている場合は、外付けのUSB対応フロッピーディスクユニットを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか、USB対応機器のメーカーにお問い合わせください。

### パソコンの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態ですべての機器を接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。



USB対応機器を使用するときの注意  
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.46)

## チェック!!

- USB対応機器によっては、このパソコンにあらかじめドライバが用意されているものがあります。
- USB対応機器に、Windows 95やWindows 98対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をWindows Meで使うために専用のドライバが別に必要となる場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。
- USBキーボード裏側のUSBコネクタに接続するときには、USB機器のマニュアルを読んで、その機器が「ハイパワーデバイス」なのかどうか調べておいてください。「ハイパワーデバイス」は、キーボードのUSBコネクタには接続できません。



ハイパワーデバイス このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.45)



## USB コネクタにプラグを差し込む

1


### パソコン本体の前面、背面、液晶ディスプレイの USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこの USB コネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。




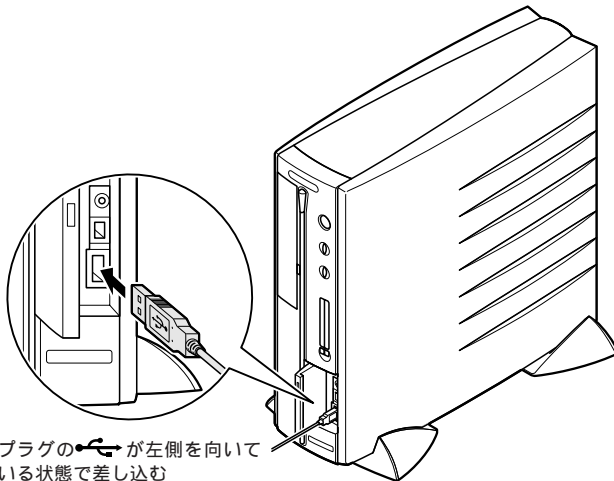
プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る




取り付けた機器によっては、タスクトレイに  が追加される

### 本体前面の USB コネクタを使う

本体前面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。



プラグの  が左側を向いている状態で差し込む

### ✓チェック!!

USB キーボードを使用している場合は、USB キーボードをパソコン本体から外した状態で USB 対応機器を接続しないでください。


Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.27) をご覧ください。

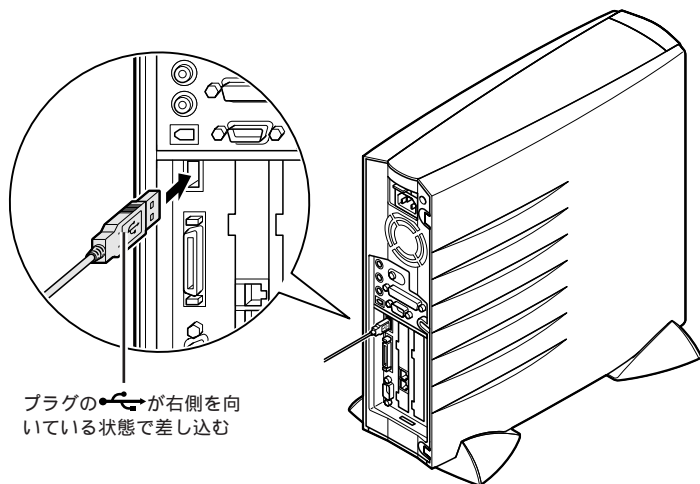


### ✓チェック!!


本体前面の USB コネクタが使えるのは、VT1000J/6JD4、VT1000J/6FD、VT800J/6JD、VT1000J/6ZD のみです。

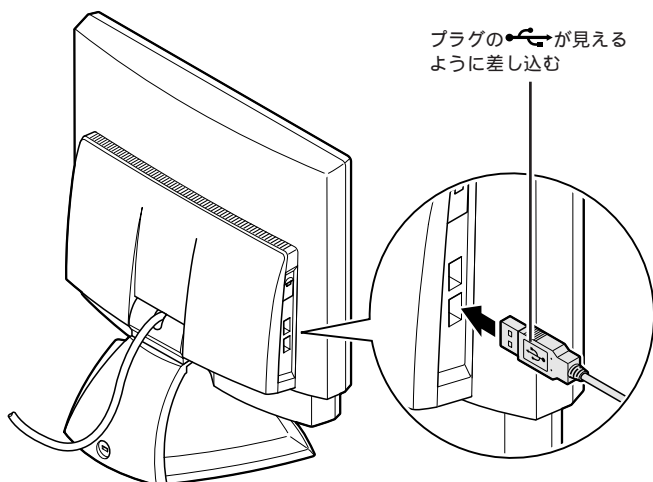
## 本体背面のUSBコネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



## 液晶ディスプレイ側面のUSBコネクタを使う(液晶ディスプレイセットモデルのみ)



液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークが見えるようにコネクタに差し込みます。

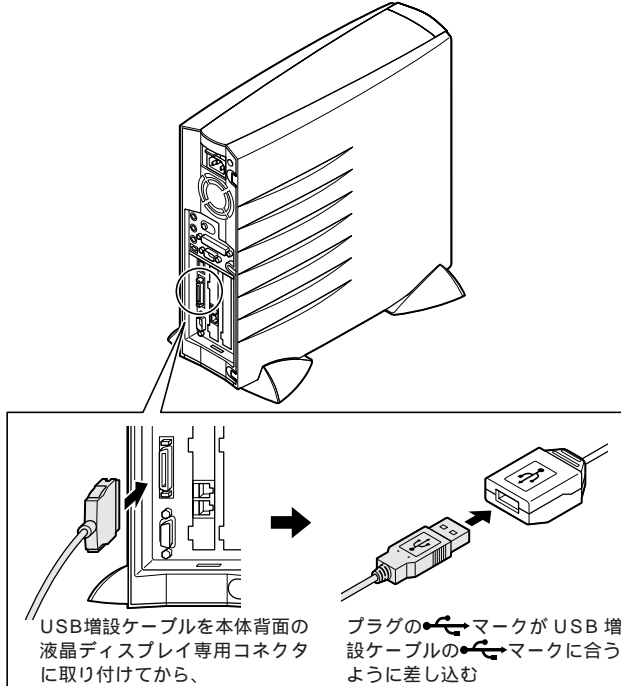



USBコネクタは2つ並んでいます。どちらのコネクタに差し込んで構いません。また、USB対応機器を2つ同時に接続できます。

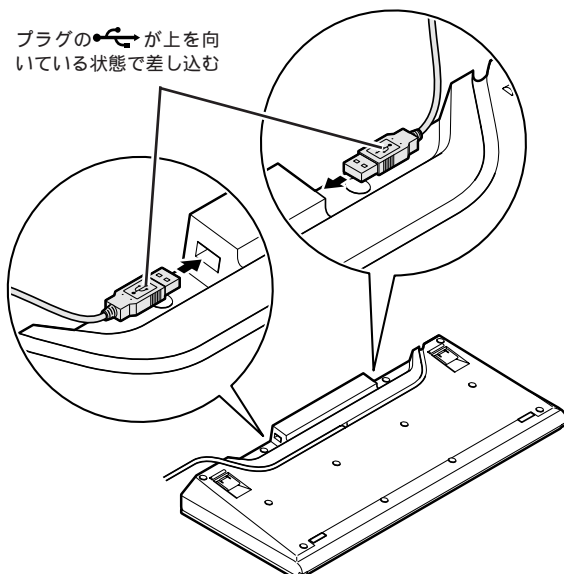
**添付の USB 増設ケーブルを使う(VT866J/67D のみ)**

本体背面の液晶ディスプレイ専用コネクタに、添付の USB 増設ケーブルを取り付けて、USB コネクタを 1 つ増やすことができます。

添付の USB 増設ケーブルの USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークが USB 増設ケーブルの  マークに合うように差し込みます。

**キーボード裏側の USB コネクタを使う(USB キーボードのみ)**

USB キーボード裏側の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを上に向けてコネクタに差し込みます。



USB キーボードが添付されているモデルの場合、本体背面の USB コネクタには、通常、添付の USB キーボードが接続されています。

USB キーボードの裏側には、図のように 2 つの USB コネクタが用意されていますが、通常、一方のコネクタには、添付の USB マウスが接続されています。周辺機器を接続する場合は、空いている方のコネクタに接続してください。

**✓チェック!!**

キーボード裏側の USB コネクタには、「ハイパワーデバイス」を接続できません。ハイパワーデバイスの USB 対応機器は、別の USB コネクタに接続してください。

**📖参照**

ハイパワーデバイス この PART の「ハイパワーデバイスについて」(p.45)

## 正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

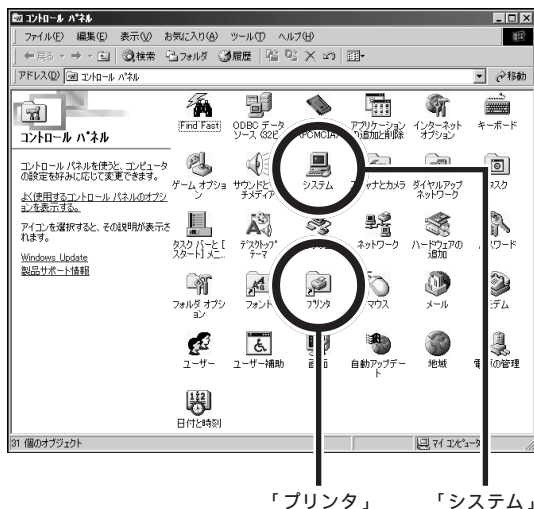
### USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。



### その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。

コントロールパネルの画面



## USB 対応機器を取り外すときの注意

外付けのフロッピーディスクユニットなど、USB対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.29)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

### ✓チェック!!

コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

### 📖参照

デバイスマネージャについてPART10の「デバイスのリソース設定の変更」(p.100)

# USB 対応機器をお使いになる上で

ここでは、USB 対応機器をお使いになる上でのポイントや注意してほしいことを説明します。

## ハイパワーデバイスについて

USB 対応機器は、その機器が動作するために必要な電流の取り方によって、次の 3 つのタイプに分かれます。

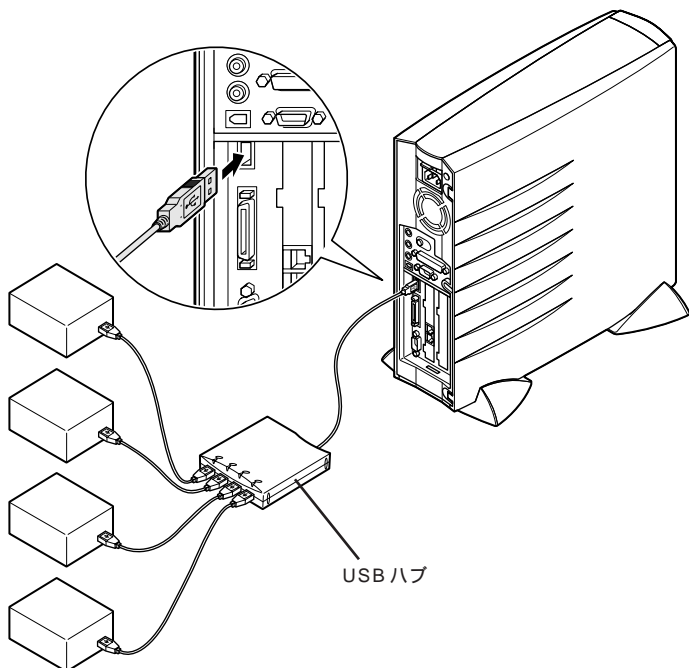
- ・セルフパワーデバイス  
独自に電源を持っている機器です。USB コネクタからは 100mA 以下の電流を消費します。
- ・ローパワーデバイス  
自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、消費するのは 100mA 以下と比較的少量です。
- ・ハイパワーデバイス  
ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流(最大 500mA)を消費します。

USB キーボードが添付されているモデルの場合、キーボード(USB バスパスワードハブ付きキーボード)の裏側にある USB コネクタに接続できるのは、このうち「セルフパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」のみです。「ハイパワーデバイス」はパソコン本体か、USB セルフパワーバスに接続してください。

ハイパワーデバイスの例としては、主にフルカラーモバイルスキャナやフルカラーイメージスキャナ、デジタルビデオカメラなどがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

## USB ハブを使う

別売のUSBハブ(PK-UP002など)を使えば、1つのUSBコネクタを複数のUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSBハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USBハブの数も含む)までの周辺機器を接続することができます。



### ✓チェック!!

USBハブにキーボードやUSB対応機器を接続する場合、本体に先にUSBハブを接続してから接続してください。USBキーボードを別売のUSBハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体のUSBコネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いているUSBコネクタにUSBハブを接続して認識させる
3. USBハブにキーボードを接続する

PK-UP002の場合、4つのUSB対応機器を接続することができます。

USBハブの詳しい使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。

USBハブには、CRTディスプレイの下に置くことのできるタイプ(PK-UP003)もあります。

### ✓チェック!!

複数のUSB機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

## USB 対応機器を使用するときの注意

- USBコネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- USBデバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSBコネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中、復帰中には、USBコネクタの抜き差しを行わないでください。
- USBキーボードにUSB対応機器を接続するときは、必ず本体にキーボードが接続された状態で行ってください。
- USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをこのパソコンに接続してから、USBハブにUSB対応機器を接続して使用してください。USBハブにUSBデバイスを接続したまま、USBハブをこのパソコンに接続すると、正常にUSB対応機器を認識できないことがあります。
- USBのI/Oリソースの変更を行った場合は、システムの再起動を行ってください。
- デバイスマネージャでUSBホストコントローラ(HC)を削除または、「使用不可」にするとキーボードが使用できません。USBHCの削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

P A R T

# 4

## IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394 コネクタがあります。IEEE1394 コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394 対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をパソコンに取り込むときに便利です。

アイトリプルイーイチサンキュウヨン

## IEEE 1394 について

このパソコンには、IEEE 1394のコネクタがあります。はじめに、IEEE 1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

### IEEE 1394 って何？

IEEE 1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための新しい規格です。

転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をそのつど切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ&プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタルに転送されます。

#### 用語

IEEE(アイトリプルイー)  
米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE 1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

#### 用語

##### プラグ&プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。



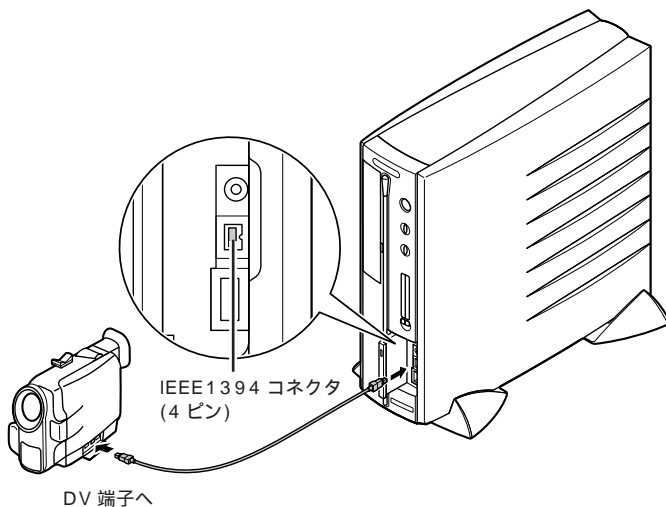
# IEEE 1394 対応機器 を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE 1394 コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE 1394 ケーブルを使ってパソコンの IEEE 1394 コネクタとデジタルビデオカメラの IEEE 1394 コネクタ (DV 端子) を接続するだけです。

## デジタルビデオカメラを接続する

IEEE 1394 ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続します。このパソコンの本体正面には、IEEE 1394 コネクタ (4 ピン) があります。



IEEE 1394 コネクタに接続できる周辺機器には、ほかに外付け用ハードディスク、MO ディスクドライブなどがあります。

デジタルビデオカメラによっては、IEEE 1394 に対応した端子のことを DV 端子と呼びます。

### ✓チェック!!

DV 端子 (4 ピン) とこのパソコンの IEEE 1394 コネクタ (6 ピンまたは 4 ピン) を接続するには、別売の IEEE 1394 ケーブルが必要です。DV 端子 (4 ピン) と本体背面の IEEE 1394 コネクタ (6 ピン) の接続には、別売の IEEE 1394 ケーブル (PK-CA109) が使えます。

### ✓チェック!!

接続の際にはプラグの向きやコネクタのピン数をよく確認してください。また、接続の際には周辺機器に添付のマニュアルもご覧ください。

IEEE 1394 コネクタは、入力用、出力用といった 2 種類のコネクタにはなっていません。デジタル信号の流れによって自動的に入出力が切り替わります。

TV モデルには、デジタルビデオカメラのデータも管理できる SmartGallery/BusBrain が添付されています。

### 📖参照

SmartGallery/BusBrain について  
🔍 「添付ソフトの使い方」 - 「SmartGallery/BusBrain」 『TV モデルガイド』(TV モデルのみ)

## 映像の取り込み、編集をするには

デジタルビデオカメラの映像は、「VideoStudio」を使って取り込み、編集ができます。VideoStudioには、Video Wizardというウィザード形式で映像を取り込めるアプリケーションもあります。Video Wizardは、「スタート」ボタン「プログラム」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」「Ulead Video Wizard」をクリックして起動できます。





基本的にはこのボタンの順に沿って作業する

作業に必要な情報はここに表示される

## IEEE1394 接続ケーブルを接続する

IEEE1394 接続ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルを共有したり、データの移動が高速にできます。接続にはホームネットワークの設定が必要です。ホームネットワークの設定をするには、「ホーム ネットワーク ウィザード」を使います。「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「通信」「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして、表示された画面にしたがって設定を行ってください。


## IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意

IEEE1394 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.29)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

## チェック!!

VideoStudioを使うには添付のアプリケーション CD-ROM からインストールを行います。TVモデルは、ご購入時の状態でインストールされています。

## 参照

VideoStudioのインストール方法  
「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「VideoStudio」

## チェック!!

このパソコンには、本体正面にIEEE1394コネクタ(4ピン)、本体背面にIEEE1394コネクタ(6ピン)があります。接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

次のホームページで、このパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」のアドレス(URL)

<http://121ware.com>

PART

# 5

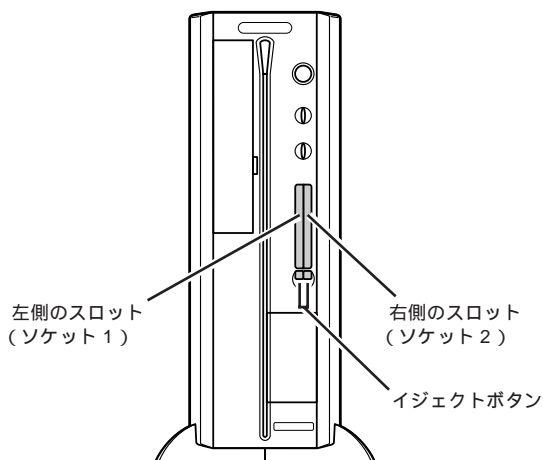
## PCカードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

# PC カードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。このパソコンには、図のように左右2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE またはTYPE のPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE のPCカードを1枚、セットして使用できます。



## CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。

このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

### 参照

PCカードを使用するときの注意  
このPARTの「PCカードを使用するときの注意」(p.59)

### チェック!!

PCカードスロットには保護のためにあらかじめダミーカードがセットされています。

PC Card Standard 準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE、TYPE、TYPEの3種類に分けられます。

- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 3.3mm
- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 5.0mm
- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 10.5mm

### チェック!!

- ・このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)の使用中は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。ご購入時には、約20分間何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。

### 参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART11の「省電力の設定を変える」(p.115)

## PCカードの入れ方と出し方

PCカードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PCカードスロットにセットできます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

### ⚠ 注意



けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

### ✔ チェック!!

PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・濡らさない
- ・重いものを載せない
- ・ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・曲げない
- ・PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

## PCカードをセットする前に

- ・PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。
- ・PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- ・PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。このパソコンでは、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を左側に向けて差し込んでください。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・休止状態またはスタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。休止状態またはスタンバイ状態時のデータが消えて、正常に復帰できなくなってしまうことがあります。

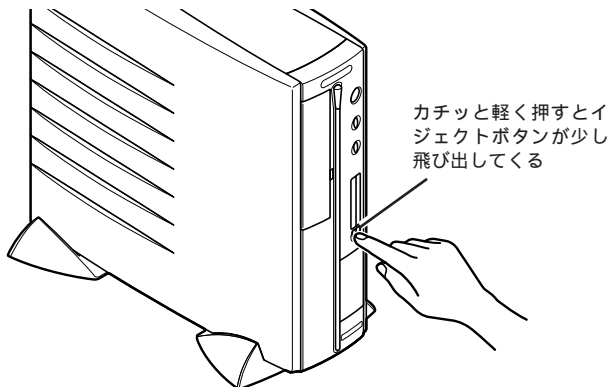
## PC カードをセットする

1

パソコンの電源が入っていること、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

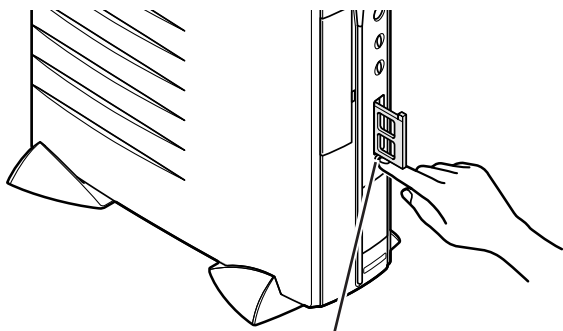
2

イジェクトボタンを軽く押す



3

もう一度イジェクトボタンを押す



PC カードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

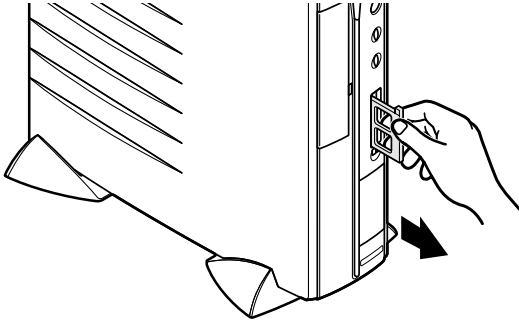
### ✓チェック!!

PCカードをセットする前に、このパソコンで使える PC カードかどうかもう一度確認してください。

PC カードスロットには保護のために、あらかじめダミーカードがセットされています。

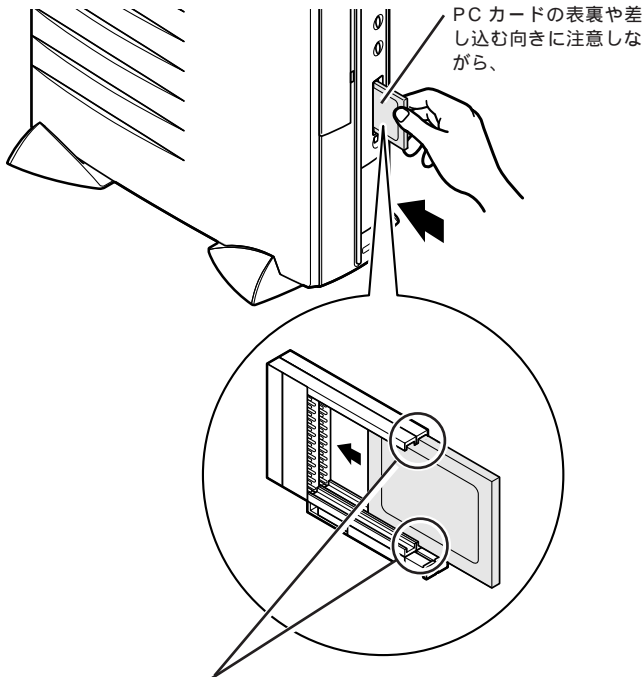
4

出てきたダミーカードを、まっすぐに静かに引き抜く



5

用意したPCカードを図のように持ち、PCカードスロットに静かに差し込み、



ガイドに沿ってPCカードをまっすぐに差し込む

**チェック!!**

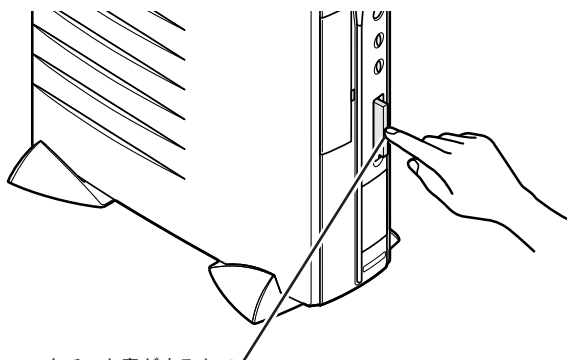
取り出したダミーカードは、PCカードスロットを使わないときに、差し込んで保護するためのものです。大切に保管しておいてください。

**チェック!!**

PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています(p.53参照)。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

6


PCカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする



カチッと音がするまで  
PCカードを完全に押し込む

PCカードを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る




PCカードの種類によっては、  
タスクトレイにが追加される

### PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。  
なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

### PCカードのデータを見る

PCカードのデータは、デスクトップの「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、Fドライブになります。なお、デスクトップの「マイドキュメント」の中の「My Pictures」フォルダ内に画像データを移動させると、縮小表示された画像を見ることもできます。また、データが入っているフォルダの設定を「表示」-「縮小表示」で変更しても、データを一覧表示できます。

### ✓チェック!!

コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

### 📖参照

ドライバのインストールについて  
PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.27)



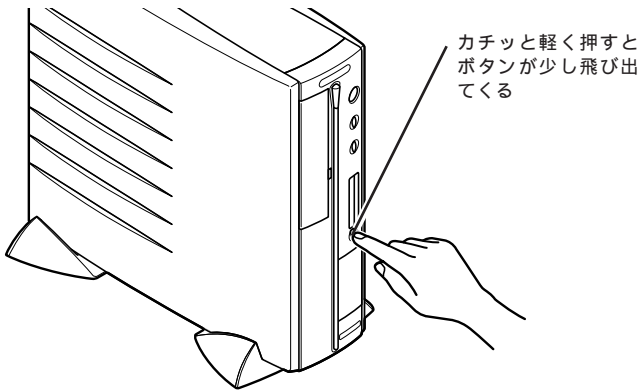
## PCカードを取り出す

1

「周辺機器の取り外しと再接続」(p.29)の  
手順 1 ~ 6 を行う

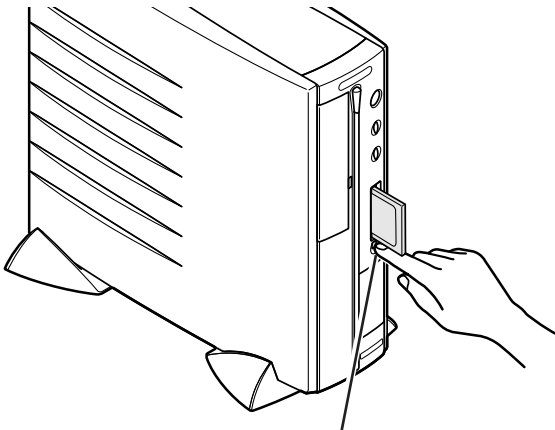
2

イジェクトボタンを軽く押す



3

もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンを  
しっかり押し込むとセットされていた PC  
カードが少し飛び出す

✓**チェック!!**

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

✓**チェック!!**

- ・ PCカードを2枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。
- ・ PCカードを2枚セットしている場合、イジェクトボタンを押すときに、手順1で指定したPCカードとソケット番号の対応を間違えないようにしてください。どちらのロットが分からなくなったときは、「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」で確認できます。

📖参照

PCカードスロットのソケット番号の確認 このPARTの「PCカードスロットについて」(p.52)

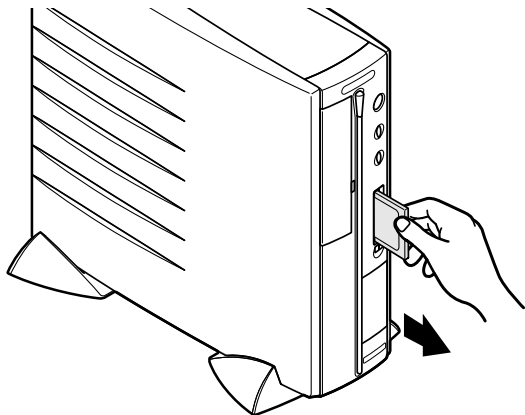
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていたPCカードが、少しだけ飛び出します。

✓**チェック!!**

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

4

出てきた PC カードを、まっすぐに静かに引き抜く

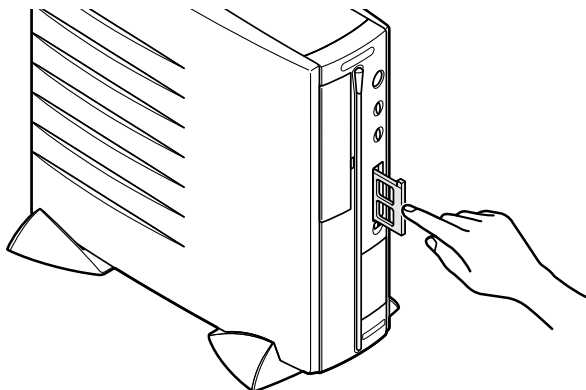


5

「PC カードをセットする」の手順 2 ~ 4 (p.54 ~ 55) で取り出したダミーカードを PC カードスロットに静かに差し込む

6

ダミーカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする



### ✓チェック!!

PC カードを取り出したときに「予期しない PC カードの取り外し」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

PC カードを取り出したら、ダミーカードをセットします。

### ✓チェック!!

ダミーカードを PC カードスロットに差し込むときは、「T」印がある方を左側のスロットに、「B」印がある方を右側のスロットにセットしてください(本体を縦置きにしているとき)。

### ✓チェック!!

コネクタが破損する恐れがありますので、押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

## PCカードを使用するときの注意

- ・アプリケーション使用中はPCカードのセットや、取り出しはしないでください。
- ・「PCカードを取り出す」(p.57)の手順を行わずに、PCカードスロットからPCカードを取り外しても、警告が表示がされないことがあります。
- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- ・このパソコンでは、ZVポート対応のPCカードは使用できません。
- ・マルチファンクションカード(LANとモデムなど2つの機能を兼ね備えたPCカード)とATAカードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット(ソケット2)にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット(ソケット1)にATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生することがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- ・PCカードスロットにATAカードをセットにしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- ・休止状態またはスタンバイ状態にするときには、必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)を使う場合は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。このパソコンは、購入時には20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。

### 参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART11の「省電力の設定を変える」(p.115)



P A R T

# 6

## PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクなどの SCSI インターフェイス対応機器の増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

# PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

## いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

### SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

### LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

### 3D グラフィックアクセラレータボード

3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

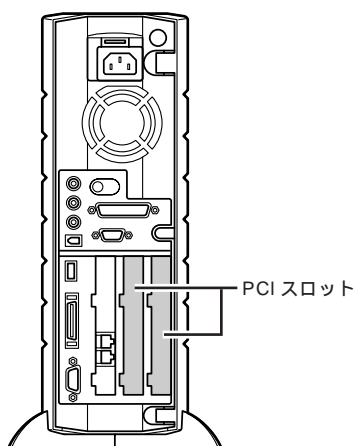
PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

## PCI スロット

このパソコンでは、下の図のように、2つ(TVモデルを除く)のPCIスロットを使用できます。

スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。



### 参考

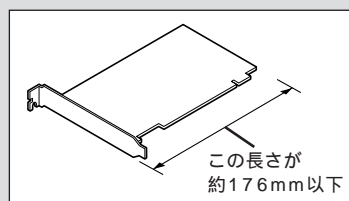
SCSI インターフェイス対応機器  
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.75)

### チェック!!

- ・セットの液晶ディスプレイは、本機の液晶ディスプレイ専用コネクタにしか取り付けられません。アクセラレータボードにディスプレイを接続する場合は、別途ディスプレイが必要です。
- ・1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

### チェック!!

- ・TVモデル(VT1000J/6JD4を除く)では、PCIスロットを1つ使用できます。VT1000J/6JD4では、新たにPCIボードを取り付けることはできません。
- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



# PCI ボードの取り付け と取り外し

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法と取り外す方法を説明します。

## ⚠ 注意



PCIボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

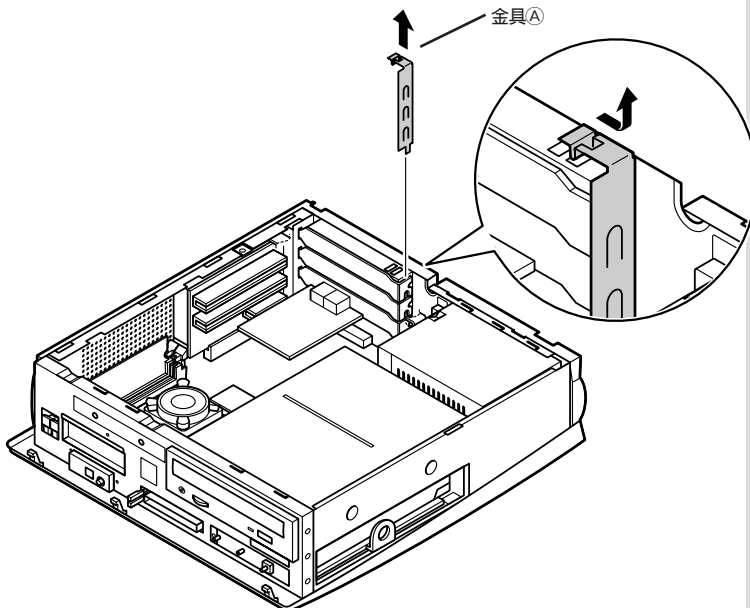
## PCI ボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

下の図のように金具①を上へ引き抜くようにして取り外す



## ✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCI ボードを取り付けるときには、必ず PCI ボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## 📖 参照

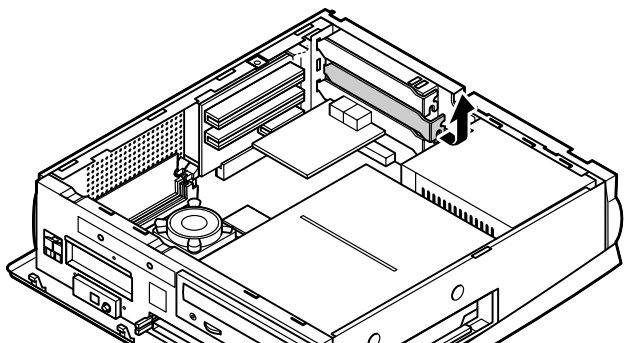
ルーフカバーの外し方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」( p.31 )

## ✔ チェック!!

- ・ 金具①を取り外すときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。
- ・ 電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・ 机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・ TV モデルでは、PCI スロットに地上波TV&データボードが標準で取り付けられているため、新たに追加できる PCI ボードは 1 枚だけです( VT1000J/6JD4 では、新たに PCI ボードを追加できません)。標準で取り付けられている PCI ボードを取り外して、別の PCI ボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。
- ・ FAX モデムボードは、専用スロットに取り付けられているため、別の PCI ボードを取り付けることはできません。

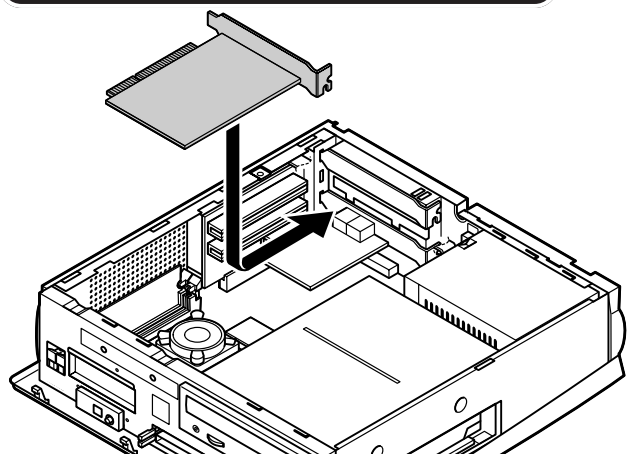
3

### 3 スロットカバーを取り外す



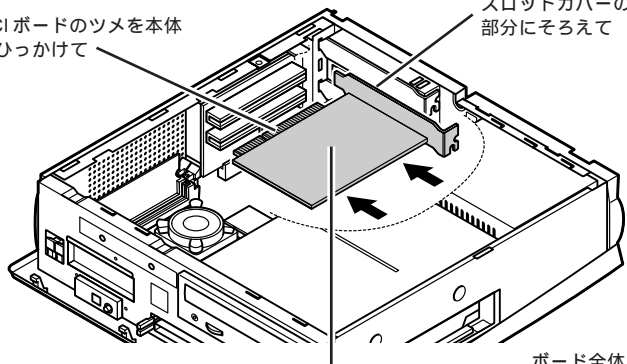
4

### 4 PCIボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む



PCIボードのツメを本体  
にひっかけて

スロットカバーの  
部分にそろえて



ボード全体に均等に  
力を加えて強く押し  
込むようにすると

### ✓チェック!!

- ・スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- ・PCIボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。

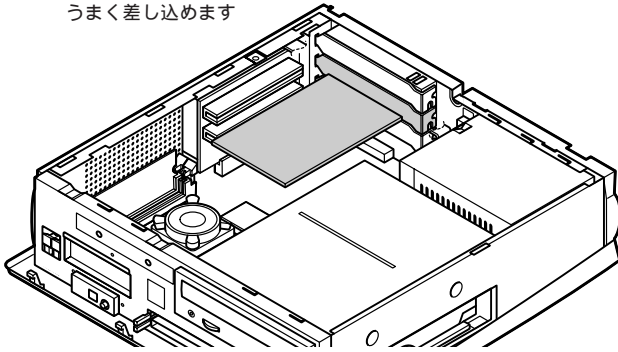
PCIボードをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIスロットにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

### ✓チェック!!

しっかりと差し込んでおかないと、故障の原因になります。



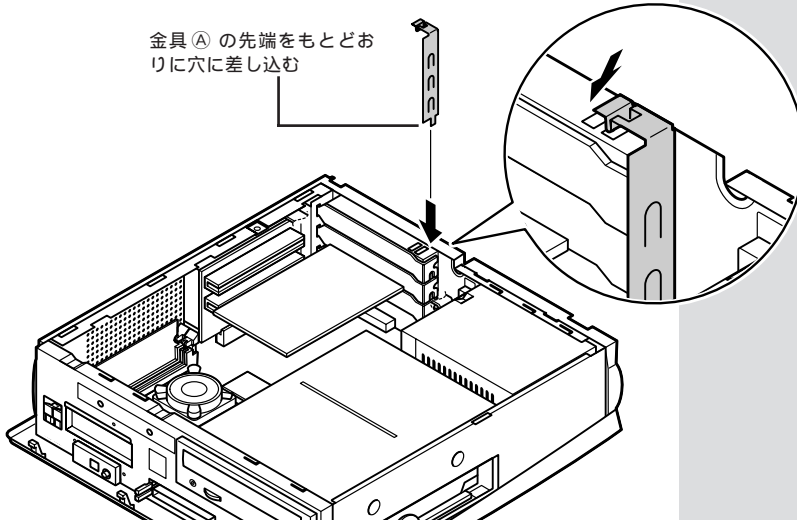
うまく差し込めます



5

手順2で外した金具④を使って、PCIボードを固定する

金具④の先端をもとどおりに穴に差し込む



6

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2  
の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

## PCIボードの取り外し方

PCIボードの取り外しは、PCIボードを取り付けるときと逆の手順で行ってください。

### **チェック!!**

FAX モデムボードも、PCI ボードと同じ方法で取り付けられています。FAX モデムボードの取り付け、取り外しは、PCI ボードと同じように行うことができます。ただしFAX モデムボードは、専用スロットに取り付けられているため、別のPCI ボードをこのスロットに取り付けることはできません。

P A R T

# 7

## メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

# メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設RAMサブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。

どのくらいメモリを増やすかを決める( p.69 )

## 必要なものを準備する

必要な増設RAMサブボード等を準備します。

増設RAMサブボードを取り付ける( p.70 )

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。

メモリが増えたかどうか確認する( p.73 )

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

## このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことができます。

増設RAMサブボードの種類(VT1000J/6JD4、VT1000J/6FD、VT800J/6JD、VT1000J/6ZDの場合)

型名	メモリ容量
PK-UG-M031	64Mバイト(PC133)
PK-UG-M032	128Mバイト(PC133)
PK-UG-M033	256Mバイト(PC133)

増設RAMサブボードの種類(VC866J/6FD、VC800J/6XD、VT866J/67Dの場合)

型名	メモリ容量
PK-UG-M015	32Mバイト(PC100)
PK-UG-M016	64Mバイト(PC100)
PK-UG-M017	128Mバイト(PC100)

DIMM(ディム)は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

### ✓チェック!!

このパソコンでは、「SIMM(シム)」と呼ばれるタイプの増設RAMサブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

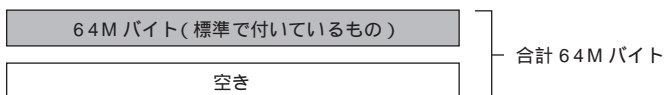
## メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに下の表のとおりRAMサブボードが付いています。

型名	標準	最大
VC800J/6XD	64Mバイト × 1	256Mバイト (128Mバイト× 2)
VC866J/6FD VT866J/67D	128Mバイト × 1	256Mバイト (128Mバイト× 2)
VT1000J/6JD4 VT1000J/6FD VT800J/6JD VT1000J/6ZD	128Mバイト × 1	512Mバイト (256Mバイト× 2)

### 標準で64Mバイトのメモリが付いている場合の増やし方

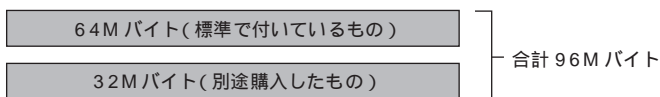
ここでは、標準で64MバイトのRAMサブボードが付いている場合(VC800J/6XD)を例に、メモリの増やし方を説明します。



空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で256Mバイト(128Mバイトの増設RAMサブボード× 2枚)まで増やすことができます。

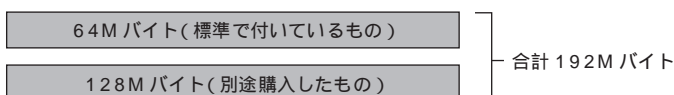
#### ・例1: 96Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに32Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で付いている64Mバイトのメモリと合わせて96Mバイトにすることができます。



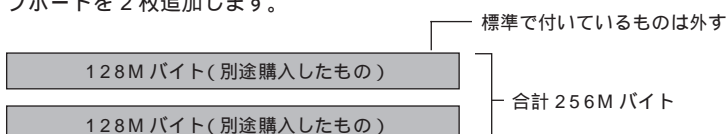
#### ・例2: 192Mバイトにする場合

128Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。



#### ・例3: 256Mバイト(VC800J/6XDの最大)にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、128Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。



増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

### ✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準のRAMサブボードは大切に保管してください。

# 増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMサブボード(RAMサブボード)の取り付け方と、取り外し方を説明します。

## ⚠ 注意



発火注意

増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。



けが注意

増設RAMサブボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

## ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

## 増設RAMサブボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

## ✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

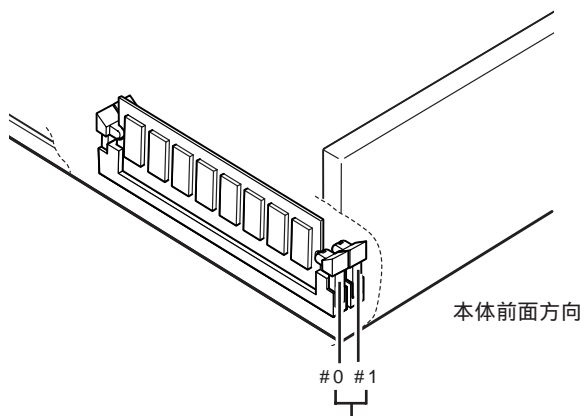
## 📖 参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

## ✔ チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

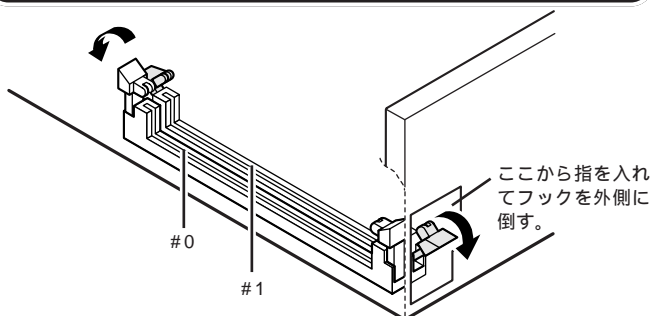
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。本体外側に近い方から、#0、#1と呼びます。

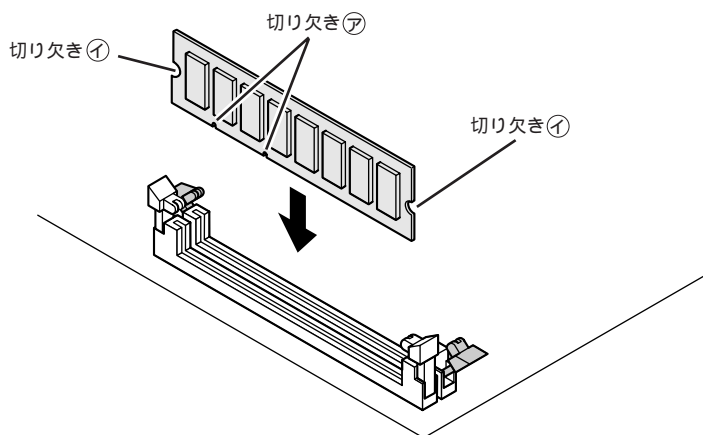
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



3

切り欠き㊦の方向に注意して、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む



**チェック!!**

お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。



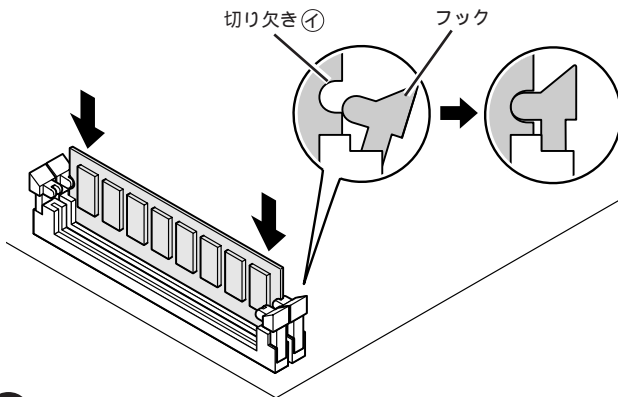
**チェック!!**

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㊦の位置を確認してから差し込んでください。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

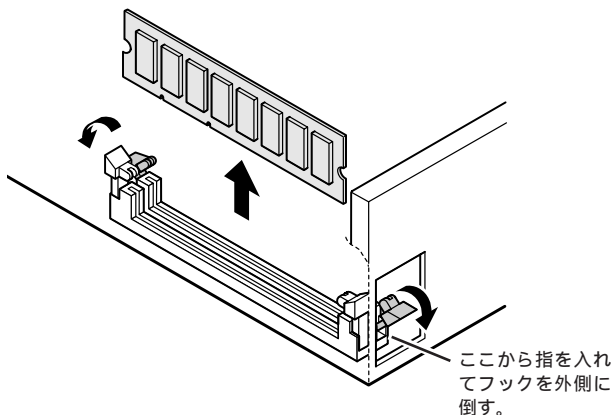
## RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き①をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

### ✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

### 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

### ✓チェック!!

- ・電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#0のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。

### ✓チェック!!

- ・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- ・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)



# 増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

## 確認のしかた

1

### サポートセンタを起動する

アクティブメニュー NX の「サポートセンタ」をクリックします(キーボードの【サポート】ボタンを押して起動することもできます)。



「サポートセンタ」の画面が表示されます。

2

### 「パソコンの情報」をクリック



メモリはWindows Meの「システム情報」からも確認することができます。  
(「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」)

3

## メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する  
(ここでは、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

## チェック!!

- ・ここでは、増やした後の全メモリ容量より数 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後にディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

## メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

メモリが正しく取り付けられているか？

このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

P A R T

# 8

## SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI(スカジー)機器を使うには、PCIスロットに対応した SCSI インターフェイスボードまたはPCカードタイプの SCSI カードが必要です。ここでは、SCSIの基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

# SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードを取り付ける必要があります。ここでは、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードの取り付け方について説明します。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

## 必要なものを用意する( p.79 )

SCSI 機器のほかに、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータなどが必要です。

## 本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける( p.80 )

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。

## SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する( p.81 )

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。

## SCSI 機器の電源を入れる

## パソコン本体の電源を入れる

### ✔チェック!!

- ・SCSI カードは CardBus 対応のものをお使いください。
- ・SCSI カードの取り付け方は、一般の PC カードと同様です。

### 📖参照

- ・CardBus 対応 PC カードについて PART5 の「PC カードスロットについて」(p.52)
- ・SCSI カードを取り付ける PART5 の「PC カードの入れ方と出し方」(p.53)

### ✔チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

### 📖参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART11 の「省電力の設定を変える」(p.115)

### 📖参照

SCSI ID この PART の「SCSI ID について」(p.78)

# SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

## チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

## 参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART 11 の「省電力の設定を変える」(p.115)

## 接続できる SCSI 機器

SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

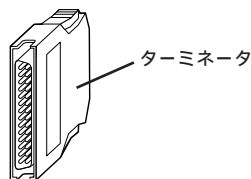
- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・DVD-RAM ドライブ
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・CD-R/RW ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク) などドライブ
- ・PD ユニット
- ・Zip ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ

## SCSI に関する基礎知識

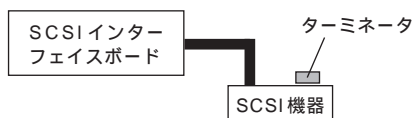
### SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大 7 台)の機器をつなぐことができます。

また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



SCSI 機器が 1 台の場合



SCSI 機器が 3 台の場合



ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

## SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI ID という0～7の認識番号で区別します。このSCSI ID が重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

## SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

## SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・SCSIインターフェイス
- ・SCSI-2インターフェイス
- ・Ultra SCSIインターフェイス
- ・Ultra Wide SCSIインターフェイス

SCSI-2インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

### チェック!!

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

## 用意するもの

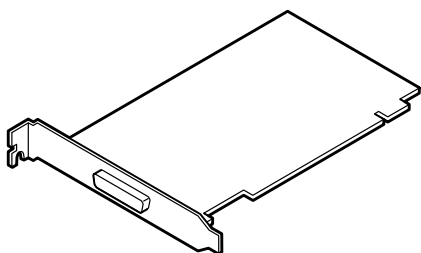
市販の SCSI インターフェイスボードや SCSI 機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

### 接続する SCSI 機器とそのマニュアル

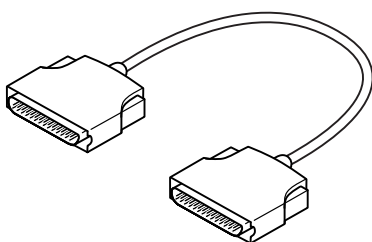
#### SCSI インターフェイスボード

PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードが 1 枚必要です。このパソコンで使用できる SCSI インターフェイスボードには、次のようなものがあります。

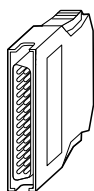
- ・Ultra SCSI インタフェースボード( Wide 対応 )( PK-UG-X007 )
- ・Ultra SCSI インタフェースボード( PK-UG-X014 )



#### SCSI 機器接続ケーブル



#### ターミネータ( 終端 BOX )

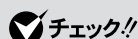


このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」の SCSI インターフェイスボード( 長さが約 176mm 以下のもの )です。

また、SCSI カードを使うこともできます。SCSI カードは PC カードスロットに差し込みます。



参照  
ハーフサイズ PART6 の「PCI スロット」( p.62 )



SCSI 機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応している SCSI インターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。



参照  
SCSI インターフェイスの種類 前ページの「SCSI インターフェイスの種類」

ターミネータ( 終端 )機能を内蔵しているタイプの SCSI 機器を接続するときは、ターミネータ( 終端 BOX )は不要です。詳しくは、SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

# SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

## ⚠ 注意



PCI ボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

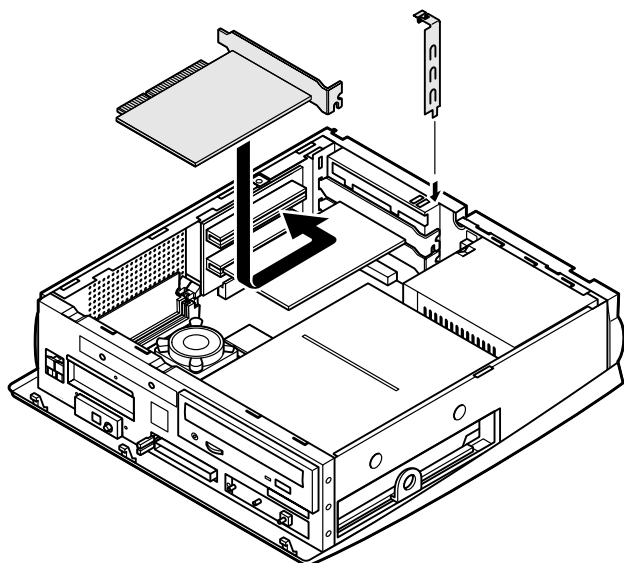
1

正しい手順で本体のルーフカバーを取り外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットのスロットカバーを取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、固定します。



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

## ✔ チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

## 📖 参照

ルーフカバーの外し方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」( p.31 )

## ✔ チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

## 📖 参照

ボードの取り付け方について詳しくは「PART6 PCI ボードを使う」( p.61 )

## ✔ チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。

## 📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 PART 2 の「本体の開け方と閉め方」( p.31 )



## SCSI 機器を接続する

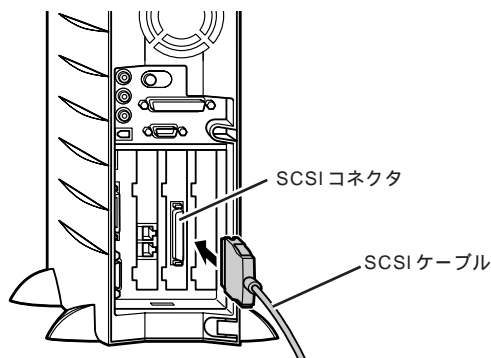
SCSI インターフェイスボードを取り付けたら、SCSI ケーブルを使ってパソコン本体と SCSI 機器を接続します。

1

SCSI 機器の SCSI ID を設定する

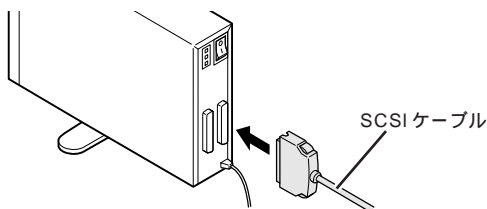
2

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



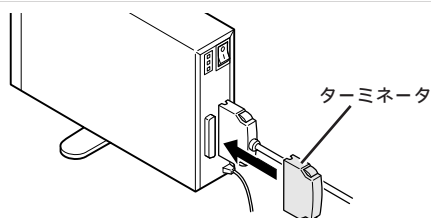
3

SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



4

SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

### ✓チェック!!

- ・接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・SCSI ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

# SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

## 電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ったから SCSI 機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

## ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

## ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付ける SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

## SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

## SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

### 参照

使用できるケーブルについて SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

### 参照

正しく認識されない場合の対処 PART 10 の「リソースに関する問題」(p.99)、「サポートセンター」-「トラブル解決 Q&A」-「周辺機器」または Windows ヘルプ

## 9

## ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

# ハードディスクを増設するには

このパソコンにハードディスクを増設する方法はいくつかありますが、ここではSCSIインターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続する手順を説明します。

## 必要なものを用意する( p.85 )

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要です。

## 本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける( p.86 )

本体のPCIスロットに、SCSIインターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

## 増設ハードディスクをボードの SCSI コネクタに接続する( p.86 )

取り付けたSCSIインターフェイスボードのコネクタに、SCSI機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

## 増設ハードディスクの電源を入れる

## パソコン本体の電源を入れる

## ハードディスクをフォーマットする( p.88 )

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。

### ✓チェック!!

- ・このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
- ・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換するとサポートの対象外になります。

### 📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付け 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.75)

### 📖参照

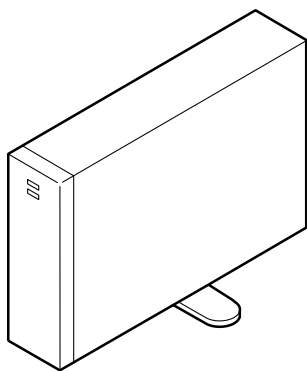
フォーマットのしかた このPARTの「ハードディスクをフォーマットする」(p.88) ハードディスクに添付のマニュアル

## 用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

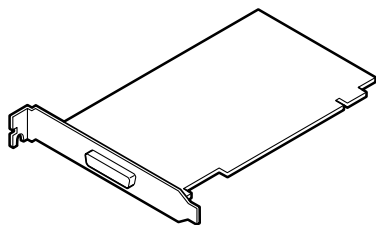
### ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



### SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART8の説明や機器に添付のマニュアルをご覧になり、あらかじめ必要なものを用意してください。SCSIインターフェイスボードにはPCカードスロットにセットできるタイプ(SCSIカード)もあります。



### ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

#### 参照

SCSIインターフェイスボード  
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.75)

# 本体にハードディスクを接続する

パソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付けた後で、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

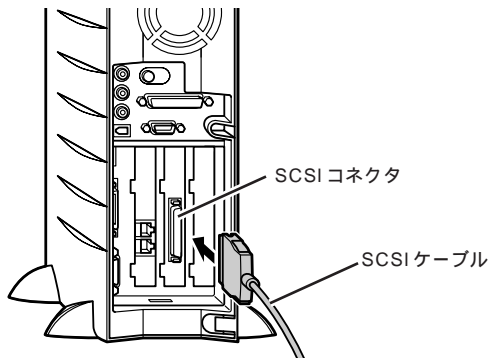
正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

3

接続しようとするハードディスクの SCSI ID を確認し、必要ならば設定を変更する  
0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

## 📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」 (p.75)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

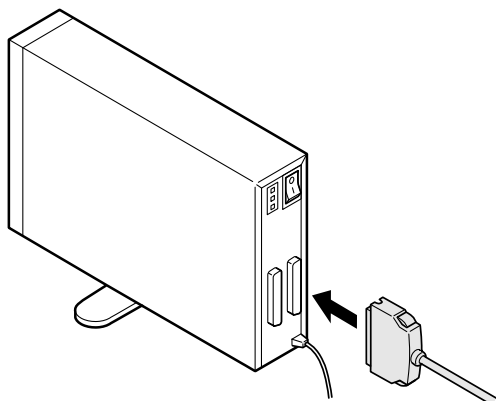
## ✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

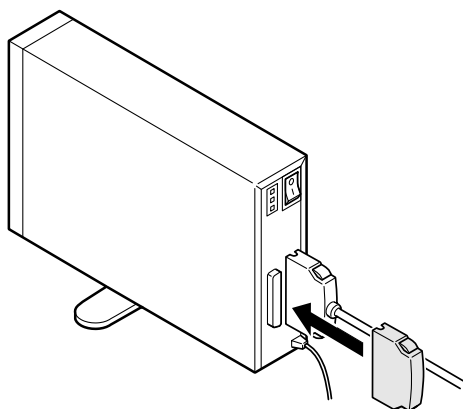
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

#### ✓チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

#### 📖参照

ターミネータについては PART 8 の「SCSIに関する基礎知識」(p.77)

#### ✓チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

SCSIハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどもご覧ください。

# ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

## 領域作成の準備をする( p.90 )

以前使っていたことのあるハードディスクを接続した場合は、あらかじめ、そのハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。



## 領域を作成する( p.92 )

パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域(パーティション)に分けて別のドライブのように扱うことができます。



## 増設したハードディスクを確認する( p.94 )



## ドライブをフォーマットする( p.95 )

データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



## スキャンディスク( p.96 )

ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

### ✓チェック!!

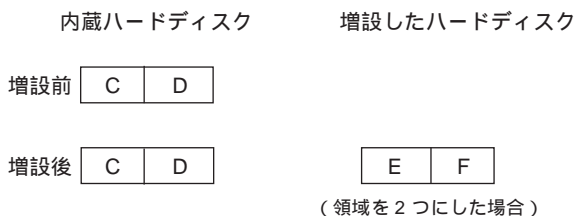
- ・すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、CD-R、CD-RW、MOディスクなどにバックアップしておいてください。
- ・すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ・ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして、「プロパティ」で半角英数字に入力し直すかボリュームラベルを削除してください。
- ・本体内蔵ハードディスク内に論理MS-DOSドライブを持たない拡張MS-DOS領域があるときは、ハードディスクを増設する前に削除してください。



## 増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常(基本 MS-DOS 領域を作成しない場合)は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割りあてられます。

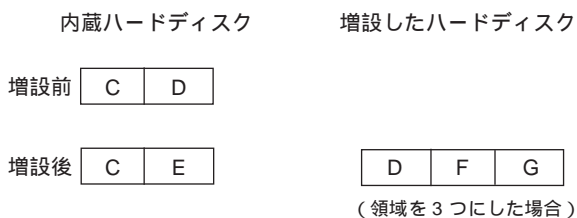
基本 MS-DOS 領域を作成しない場合



ハードディスクの領域を確保するときに基本MS-DOS領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を一度確認してください。

内蔵ハードディスクの先頭ドライブ  
 増設したハードディスクの先頭ドライブ  
 内蔵ハードディスクの残りのドライブ  
 増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合



ハードディスクを増設してドライブ番号が追加されると、CD-ROMドライブ(購入時はEドライブ)などのドライブ番号も変更されます。CD-ROMドライブを指定するようなアプリケーションをお使いの場合は注意してください。

## 領域作成の準備をする

1

ハードディスクの電源を入れる

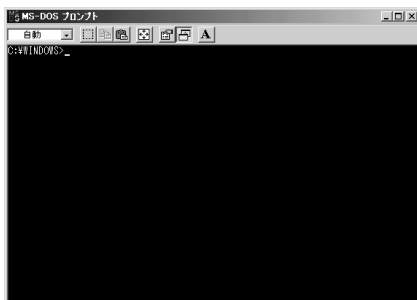
2

パソコンの電源を入れる

3

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」-「アクセサリ」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

MS-DOSプロンプトの画面が表示される



4

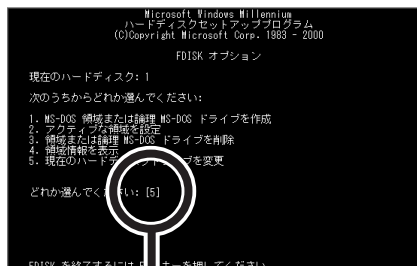
(8.4Gバイト以下のハードディスクの場合)  
キーボードから FDISK /x と入力し、【Enter】を押す  
(8.4Gバイトを超えるハードディスクの場合)  
キーボードから FDISK と入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示される。

5

キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「FDISK オプション」の画面が表示される



6

キーボードから 5 を入力し、【Enter】を押す

### ✓チェック!!

手順4でのハードディスクの容量は1Gバイト=1,000,000,000バイト換算です。

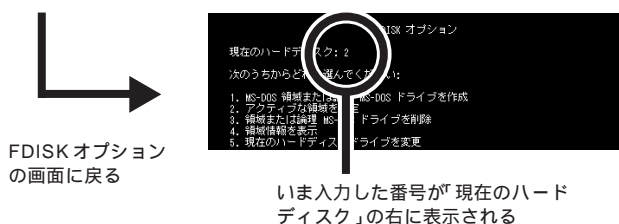
Yを選択すると、FAT32でフォーマットされます(ただし、512Mバイトより小さい領域を作成すると、ここでYを選択していてもFAT16でフォーマットされます)。Nを選択すると、FAT16でフォーマットされます(ただし、2,047Mバイト以下の領域しか作成できません)。なお、2,048Mバイト以上の領域は、FAT32でないとは作成できません。

「現在のハードディスクドライブを変更」の画面が表示される。



7  
増設したハードディスクの番号(通常は「2」)を入力し、【Enter】を押す

画面には接続されているハードディスクが一覧表示されます。この中から増設したハードディスクを探して、その番号を入力します。通常は「2」と入力します。



FDISK オプションの画面に戻る

いま入力した番号が「現在のハードディスク」の右に表示される

買って来たばかりのハードディスクを接続して使うときは、以下の手順は不要です。このまま、次ページの「領域を作成する」に進んでください。以前使っていたハードディスクを接続した場合で、ハードディスクに領域が設定されているときは、手順8からの記述にしたがって領域を削除してください。

8

キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

9

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります。続けますか(Y/N)」と表示される。

10

キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」と表示される。

11

キーボードの【Esc】を押す

FDISK オプション画面が表示される。

### ✓チェック!!

「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブをまちがえないように、十分注意してください。

### ✓チェック!!

すでに使用しているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

論理ドライブが設定されているときは、手順9の前に3を入力し、拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブをすべて削除してください。また、基本MS-DOS領域が設定されていれば、手順11のあとにそれも削除してください。

### ✓チェック!!

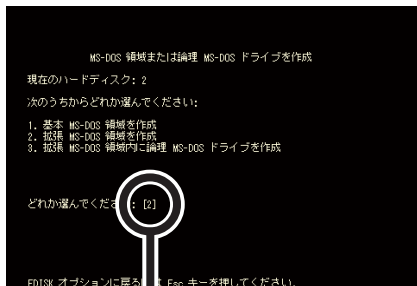
FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

## 領域を作成する

1

キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

右のような画面が表示される



2

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください。拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3

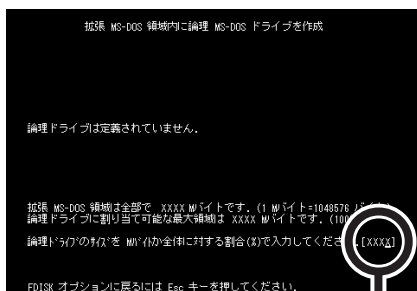
キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」と表示される。

4

キーボードの【Esc】を押す

作成するドライブのサイズを入力する画面が表示される



5

サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

### ✓チェック!!

領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使えなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

6

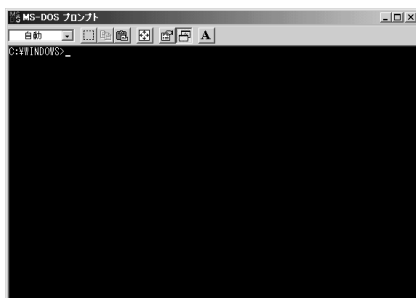
拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返  
し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割  
り当てる

「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに  
割り当てられています」と表示される。

7

キーボードの【Esc】を 3 回押す

MS-DOS プロンプト  
の画面に戻る



8

キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す

Windows Me の画面に戻る。

9

「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をク  
リックする

「Windows の終了」画面が表示される。

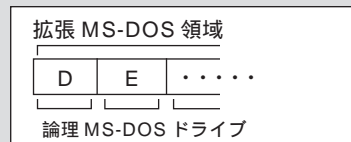
10

「再起動」を選択し、「OK」をクリックする

Windows Me が再起動する。

ここで、新しく作成した論理ドライ  
ブ名をメモにひかえておいてくださ  
い。フォーマットするときに必要で  
す。

ハードディスクの領域



参照

ハードディスクの増設によるドライ  
ブ名の変更について この PART の  
「増設したドライブのドライブ名につ  
いて」(p.89)

## 増設したハードディスクを確認する

ハードディスクを増設したあとでWindowsのマイコンピュータを見ると、増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。

1

「マイコンピュータ」をダブルクリックする

2

増設した分だけハードディスクアイコンが増えていることを確認する



「領域を作成する」(p.92)の手順で、増設したハードディスクを複数の領域に分割した場合は、その分だけハードディスクアイコンも多く表示されているはずです。

もしも表示されていない場合は、増設に失敗しています。

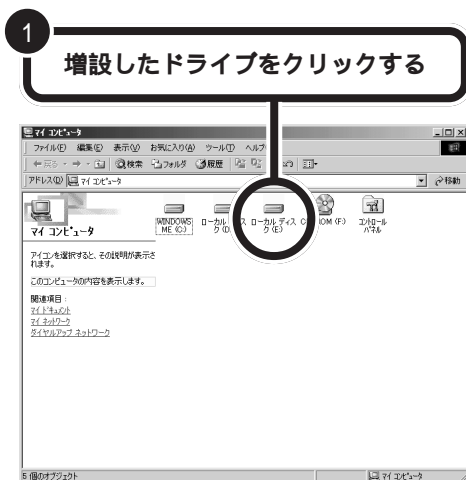
もう一度、「領域作成の準備をする」(p.90)の手順からやり直してみてください。

または、ケーブルが正しく接続できているか、確認してください。

## ドライブをフォーマットする

続いてWindows Meで、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows Meで区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



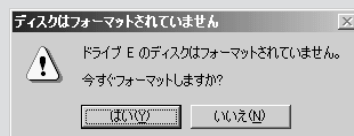
フォーマットの画面が表示される。



### ✓チェック!!

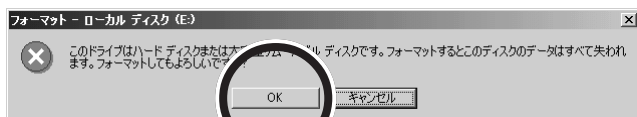
すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータのハードディスクのアイコンを次々とダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されたら、「いいえ」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

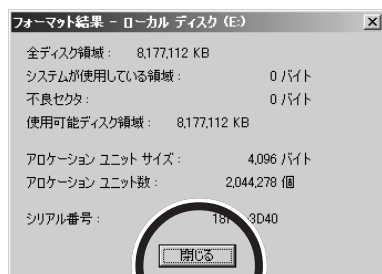
確認の画面が表示される。



5

「OK」をクリックする

しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。



6

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクの実行をうながす画面が表示される。



7

「OK」をクリックする

Windows のヘルプが表示される。

8

表示されたヘルプの内容にしたがってスキャンディスク  
を実行する

9

「フォーマット」の画面をクリックする

10

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクが正常に終了したら、フォーマット作業は終わりです。

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。



P A R T

# 10

## 機器を取り付けた後で

手順通りに作業したのに周辺機器が使えないときや、パソコンが動かなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。

**困ったときのチェックポイント**  
**リソースに関する問題**

# 困ったときの チェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

## 周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？

周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したかももう一度確認してください。またそのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。

## 電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

## 取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

また、その機器がWindows Meに対応しているかも確認してください。

## ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

## 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。


## ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ(やソフト)を組み込む必要があるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンの「サポートセンタ」にあります。また、このパソコンに入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものとするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

## 参照

- ・ドライバについて PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.27)
- ・このパソコンのドライバ情報  「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「追加情報」-「周辺機器をしようとしたら...」

## 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けたら、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。


## 設定はしましたか？

接続したあとで設定の必要な機器もあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定をしてください。


## 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースの割り当ては、デバイスマネージャを使って変更します。

## 参照

リソースの問題について 次のページの「リソースに関する問題」、 「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsの「ヘルプとサポート」

## 機器を取り外すときに正しい手順で取り外しましたか？

タスクトレイにが表示されている機器は、正しい手順で取り外さないと正常にパソコンや機器が動作しなくなることがあります。

## 休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しをしませんでしたか？

休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しを行うと、休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容が失われたり、復帰できなくなったりすることがあります。周辺機器を休止状態またはスタンバイ状態にする前の状態に戻してから、電源を入れ直してください。

## リソースに関する問題

パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しでもこのリソースについて説明します。

### リソースって何？

リソースは、パソコンの中心となる「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル(IRQ)」、「DMAチャネル」に分けられます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定を割り当てなければいけませんが、リソースの数は限られており、このパソコンのご購入時には、すでにいくつかのリソースが使用されています。周辺機器を増設したら、それらの機器に空いているリソースを割り当てることになるのです。

#### ✓チェック!

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

#### 📖参照

ご購入時のリソースの割り当て PART13の「このパソコンが使用しているリソース」(p.128)

### リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は、パソコン(Windows)が自動的にこれらのリソースの設定を管理するので、自分で設定を変更したり、確認する必要はほとんどありません。

ところが、機器によっては、パソコンまかせだとうまく設定できないことがあります。設定がうまくできずに、同じリソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できなかったり、システム全体の動作が不安定になってしまいます。

Windowsなどでは、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使用できることがあります。このようにリソースを共有することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

増設したPCIボードや周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」で調べることができます。

アイコンに「！」が付いて表示されている



デバイスマネージャを表示したときに、その機器のアイコンに「！」マークや「x」マークが付いていたら、その機器の「プロパティ」を表示してみます。「デバイスの状態」の欄に「競合」を示すメッセージが表示されていたら、リソースが競合しています。

#### ✓チェック!

ご購入時の状態では、次の箇所にマークがついていますが問題ありません。

- ・PS/2 互換マウスポートに黄色の「！」
- ・USB 互換デバイスに緑色の「？」(ワイヤレスキーボードのみ)

### リソースが競合していたら

増設した周辺機器のリソースが競合していて使えないときは、リソースの割り当てを変更する必要があります。

たとえば、当面使わない機器を一時的に「使用しない」設定に変えることで、その機器が使用していたリソースを解放して、増設した周辺機器に割り当て直すことができます。また、競合している相手の機器のリソースの割り当てを変更することで使用できるようになる場合もあります。

リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

### ✓チェック!

- ・リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。
- ・機器によっては、リソースの割り当て方に制限がある場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## デバイスのリソース設定の変更

通常、プラグ&プレイ対応のデバイスは、デバイスマネージャによって、自動的に設定されています。リソース設定が変更できないデバイスはそのままにして、変更できるデバイスを設定変更します。

ここではプリンタポートのリソースを変更してみます。

- 1 「スタート」「設定」「コントロールパネル」の順にクリックして「コントロールパネル」を開きます。
- 2 「システム」をダブルクリックします。



### ✓チェック!

コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。



- 4 「ポート(COMとLPT)」をダブルクリックします。



- 5 「プリンタポート(LPT1)」をダブルクリックします。

- 6 「リソース」タブをクリックします。



「リソース」タブが表示されます。

### 📖参照

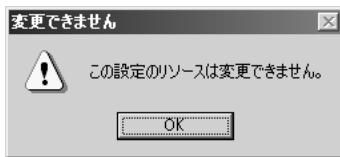
このパソコンのリソースについて PART13の「このパソコンが使用しているリソース」(p.128)

7 「自動設定」のチェックを外します。



「設定の変更」ボタンが有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/Oの範囲」または「割り込み要求」をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。



**✓チェック!**

デバイスによっては、readmeファイル(「はじめにお読みください」)に変更方法が記載されていることがあります。



P A R T

# 11

## ハードウェアの活用術

ここでは、マウス、キーボード、ハードディスクなど、このパソコンのハードウェアを使うときのポイントについて説明しています。

マウス

キーボード

ハードディスク

省電力機能


# マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。

## ✓チェック!!

コントロールパネルの「マウスのプロパティ」画面では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。

## 📖参照

- ・マウスの使い方について 「パソコンのいろは」、『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「マウス」
- ・マウスの設定  「添付ソフトの使い方」-「マウスの設定」

## スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

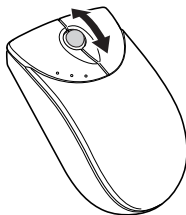
## ✓チェック!!

スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

## 画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにする。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。



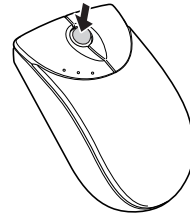
前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。

スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

## 画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。



スクロールボタンを真下に押す。

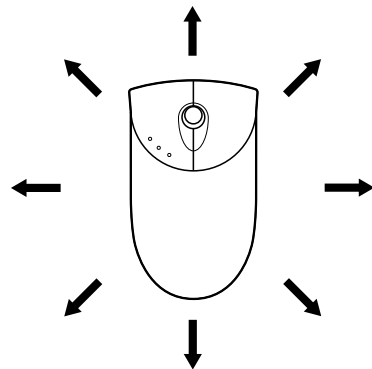


マウスポインタの形が  や  のように変わります。

## ✓チェック!!

スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

 や  が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。




マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。

もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

## ✓チェック!!

・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。

・ が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。



## ズーム機能を使う

### ✔ チェック!!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

# キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

## 参考

キーボードの使い方、日本語入力のしかた「パソコンのいろは」『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「文字入力」

## キーの役割




一般的なキーの役割です。

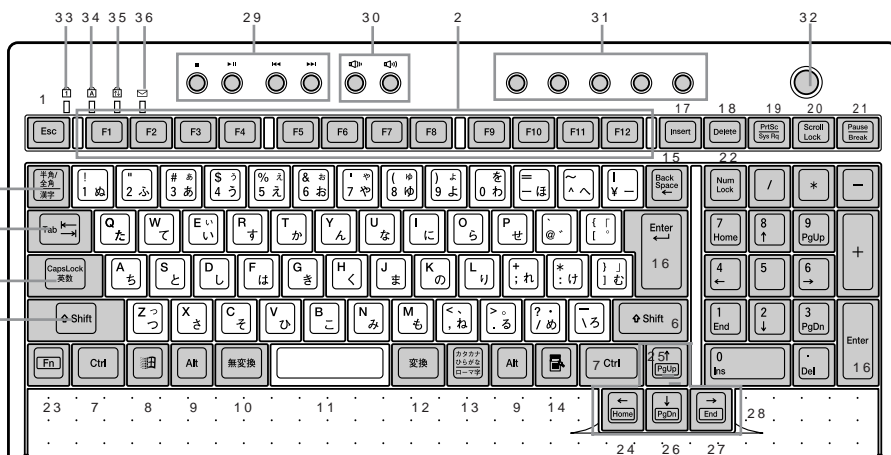
キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

- ・文字を入力するキー  
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。
- ・コンピュータに指示を与えるためのキー  
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの動きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

## キーの名称

### キーボード正面

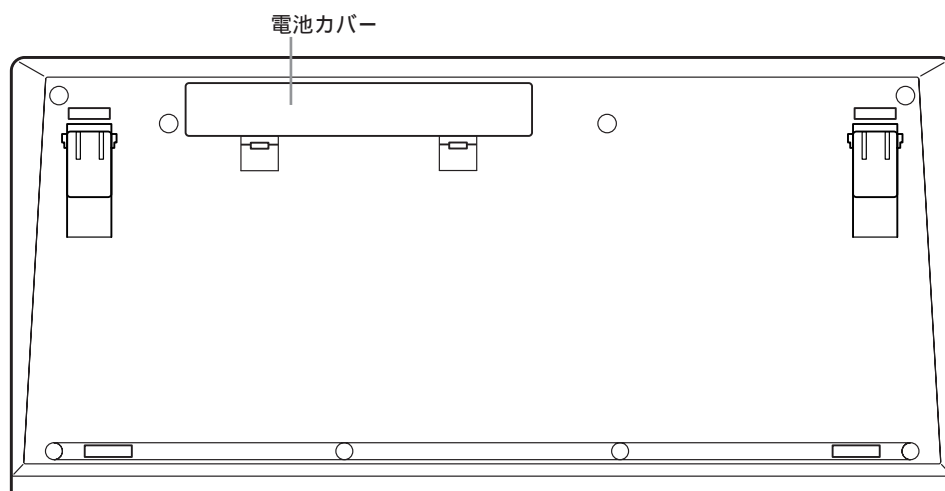
- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角 / 全角 / 漢字】: 半角 / 全角 / 漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】: カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【Insert】: インサートキー
- 18 【Delete】: デリートキー
- 19 【PrtSc/SysRq】: プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
- 20 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 21 【Pause/Break】: ポーズ / ブレークキー
- 22 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 23 【Fn】: Fn キー
- 24 【Home / 】: ホームキー / カーソルキー



- 25 【PgUp/  】: ページアップキー / カーソルキー
- 26 【PgDn/  】: ページダウンキー / カーソルキー
- 27 【End/  】: エンドキー / カーソルキー
- 28 【  】 【  】 【  】 【  】: カーソルキー
- 29 CD/DVD プレーヤボタン
- 30 ボリュームボタン
- 31 ワンタッチスタートボタン
- 32 電源スイッチ(ワイヤレスキーボードの場合)または【スリープ】ボタン(USBキーボードの場合)
- 33 ニューメリックロックキーランプ
- 34 キャップスロックキーランプ
- 35 スクロールロックキーランプ
- 36 メール着信ランプ

USBキーボード  
のみ

### キーボード裏面(ワイヤレスキーボードの場合)



### キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。

ロック状態は【NumLock】ではキーを押すたびに、【CapsLock】は【Shift】を押したままキーを押すと切り替わります。

### キーボード裏面(USBキーボードの場合)

キーボード裏面には、USBコネクタが2つあります。このコネクタには、添付のマウスをはじめとするUSB対応機器が接続できます。


#### ☑️チェック!!


このUSBコネクタには、限られた機器しか接続できません。接続できる機器については、「PART3 USB対応機器を使う」(p.37)をご覧ください、確認してください。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。


## アプリケーションキーとWindowsキーについて


アプリケーションキーとWindowsキーはWindows Meで使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

■ アプリケーションキー (  )  
アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

■ Windowsキー (  )  
Windowsキーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。


Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。


【  】 + 【 R 】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する


【  】 + 【 M 】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する

【 Shift 】 + 【  】 + 【 M 】 【  】 + 【 M 】 でアイコン化しているウィンドウを元に戻す

【  】 + 【 F1 】 Windowsのヘルプを起動する

【  】 + 【 F 】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する

【 Ctrl 】 + 【  】 + 【 F 】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する

【  】 + 【 Tab 】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

### ✓チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」ウィンドウで設定します。

#### 📖参照

キーボードの設定  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」


## Fnキーについて

Fnキーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

【 Fn 】 + 【 Pause 】 【 Break 】 を押したときと同じです ( )

【 Fn 】 + 【 PrtSc 】 【 SysRq 】 を押したときと同じです ( )

【 Fn 】 + 【  】 【 Home 】 を押したときと同じです。

【 Fn 】 + 【  】 【 End 】 を押したときと同じです。

【 Fn 】 + 【  】 【 PgUp 】 を押したときと同じです。


【 Fn 】 + 【  】 【 PgDn 】 を押したときと同じです。

( ) この操作ができるのは、ワイヤレスキーボードのみです。

### ✓チェック!!

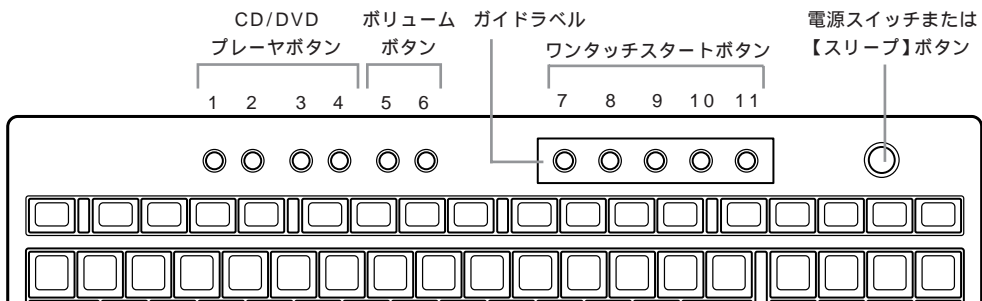
キーボードの詳細な設定については、「キーボードのプロパティ」画面で設定します。「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字入力やカーソル点滅の速度の調整、日本語入力システムの設定などができます。

#### 📖参照

「キーボードのプロパティ」で設定する  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

## ワンタッチスタートボタンの名前と役割

キーボード上部にある、ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「CD/DVDプレーヤボタン」「ボリュームボタン」「ワンタッチスタートボタン」はキーボード上部に並んでいます。



## CD/DVD プレーヤボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD-Videoディスクなどの再生をコントロールできます。

各ボタンの役割は次の通りです。

- 1 【■】: 停止
- 2 【▶▶】: 再生 / 一時停止
- 3 【◀◀】: 前のトラック / 巻き戻し
- 4 【▶▶】: 次のトラック / 早送り

### ✓チェック!!

- ・このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVD プレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。
- ・CD-R/RW モデルでは、DVD-Video ディスクは再生できません。

## ボリュームボタン

パソコンから出る音楽CDやビデオCDなどの音の大きさを調節できます。

各ボタンの役割は次の通りです。

- 5 【🔊】: ボリュームダウン
- 6 【🔊】: ボリュームアップ

## ワンタッチスタートボタン

### 7 【メール】ボタン

このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、メールボタンのご案内が表示されます)。

### 8 【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。

### 9 【サポート】ボタン

このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

### 10 【121ware】ボタン

このボタンを押すと、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」を見ることができます。

### 11 【ユーザ】ボタン

購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。(TVモデルの場合は、【テレビ】ボタンです。ボタンを押すと、「SmartVision/TV」が起動します)。

## 電源スイッチ(ワイヤレスキーボードの場合)

パソコン本体の電源を入れるスイッチ。休止状態からの復帰にも利用します。なお、電源を切るときは、Windows Meの「スタート」メニューで「Windowsの終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピューターに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

### ✓チェック!!

電源スイッチを4秒以上押し続けると強制終了しますので注意してください。

## 【スリープ】ボタン(USB キーボードの場合)

パソコン本体をスタンバイ状態にします。


## ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。

### ✓チェック!!

- ・Windows Meのセーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、電源スイッチ(または【スリープ】ボタン)の機能は使えません。
- ・【メール】ボタンと【インターネット】ボタンは、「インターネットするならBIGLOBE(BIGLOBEインターネット接続ツール)」を使ってBIGLOBEに入会すると、それぞれOutlook Expressとインターネットエクスプローラが起動するようになります。それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【メール】ボタンと【インターネット】ボタンでOutlook Expressとインターネットエクスプローラを起動させるには、ワンタッチスタートボタンの設定が必要です。

### 📖参照

ワンタッチスタートボタンの設定  「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」

## PC-9800 シリーズの キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備 考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】 または【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

# ハードディスク

ここでは、このパソコンに内蔵のハードディスクの使用上のポイントについて説明しています。

## 概要

ハードディスクは、外部記憶装置のひとつです。正確に表現すれば、実際に磁器を利用してデータを記録する円盤(ディスク)と、ディスクを高速に回転させて、データの読み書きをするヘッドやアーム、モーターなどからなる装置全体を指し、ハードディスク装置といえます。ディスクと磁気ヘッドなどの装置は、密封された容器に収められているために、他の外部記憶装置のメディアのように、記憶媒体(ディスク)自体を単独で取り出すことはできません。しかし、ディスクを高速で回転できるように、フロッピーディスクや光磁器ディスクなどに比べて、読み書きするスピードは格段に速くなります。

ハードディスクは外部記憶装置のひとつには違いありませんが、CPUやメモリとともに、パソコンの中心的な存在です。オペレーティングシステム(OS)やアプリケーションソフトなどは、すべてハードディスクに格納されます。ハードディスクのドライブ名は、通常は「C」や「D」です。Cドライブには、Windowsをインストールします。

## ハードディスクの取り扱い上の注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『はじめにお読みください』の「電源の入れ方と切り方」で説明されている手順に従ってください。
- ・温度・湿度条件を守ってください。  
温度 10 ~ 35、湿度 20% ~ 80%(ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

## 参照

ハードディスクを増設する 「PART9 ハードディスクを増設する」(p.83)

## ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる

このパソコンに内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

## 参照

バックアップ 『使っておぼえるパソコンの基本』前編PART6の「大切なデータの保管方法」、『困ったときのQ & A』PART1の「データとインターネット設定のバックアップ」、『添付ソフトの使い方』「バックアップ-NX」

# 省電力機能

パソコンを使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

## 概要

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切る場合、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

## 電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の4種類があります。

### 電源が入っている状態

パソコンの電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

### 電源が切れている状態

Windowsを終了して、パソコンの電源を切った状態です。

### 休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「休止状態」になるように設定されています。

### スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

このような、休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

#### 省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
復帰までの時間( )	約30秒	約20秒
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

( ) 復帰までの時間は、使用環境により異なるため、おおよその目安にしてください。

## ✓チェック!!

- ・アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイから復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。
- ・Windows Meで電力を節約する機能を使うための電源管理のモードは、ACPIモードです。APMモードは使用できません。

### 用語

#### ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみです。

### 用語

#### APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をBIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

## 電源ランプ、ディスプレイの表示

電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します。

#### 液晶ディスプレイセットモデルの場合

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	消灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	消灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

#### CRTディスプレイセットモデルの場合

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。



## 省電力機能を使う

### 休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできないなかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容が復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

#### チェック!

このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に休止状態になるように設定されています。自動的に休止状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード(LANカードを含む)を使用しているとき
  - ・SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続しているとき
  - ・プリンタが出力しているとき
  - ・音声や動画を再生しているとき
  - ・フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
  - ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき
  - ・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
  - ・「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」を実行しているとき
  - ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき
- また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないでください。
- ・フロッピーディスク、CD-ROMなどを入れ替える
  - ・PCカードの抜き差しをするなど、このパソコンの環境を変更する

### 休止機能

#### 休止状態にする

購入時の状態では、休止状態するには次の2つの方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「休止状態」を選ぶ  
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック  
「休止状態」を選び、「OK」をクリック
- ・一定時間後に自動的に休止状態にする  
このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的に休止状態になるように設定されています。

#### 参照

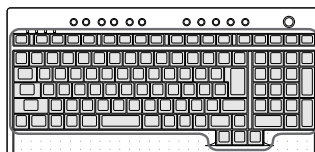
自動的に休止状態にならないように設定を変更する  
この項の「省電力の設定を変える」(p.115)

#### 休止状態にする前の状態に戻す

休止状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

- ・電源スイッチを押す
- ・FAX モデムによるリング機能を使う  
電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このときパソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー( )を押してください。



( )この中の  
いずれかのキー

## スタンバイ機能

### スタンバイ状態にする

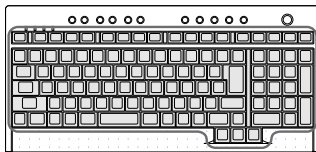
購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ  
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック  
「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリック

### スタンバイ状態にする前の状態に戻す

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

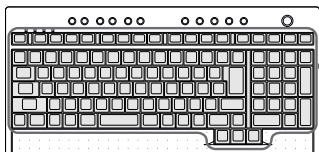
- ・マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー( )を押す



それでも画面が表示されない場合は、もう一度同じ操作をしてください。

- ・FAX モデムによるリング機能を使う  
電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このときパソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー( )を押してください。



## 省電力機能を使うときの注意

### 休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

### スタンバイ状態にするときの注意

- ・通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了させてからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・CD-ROMドライブにフォトCDなどが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

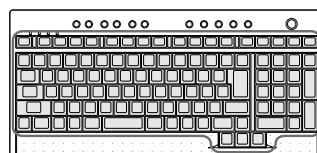
### 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

- ・パソコン本体へ周辺機器を取り付けたり、パソコン本体から周辺機器を取り外したりしないでください。
- ・スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
  - 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れた
  - 停電が起きた
  - 電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったこのような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

## 省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない
- ・休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・電源スイッチを押しても復帰しない(休止状態のみ)
- ・マウスを動かしたり、キーボードのいずれかのキー( )を押しても復帰しない。それでも画面が表示されないの、もう一度同じ操作をしたが復帰しない(スタンバイ状態のみ)



## 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときには

『困ったときのQ&A』PART2の「省電力機能」をご覧ください。

## スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。

## 省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

### 自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリック

「電源の管理」アイコンをダブルクリック

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

#### ✓チェック!!

「コントロールパネル」に「電源の管理」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

「電源設定」タブをクリック

休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。

#### ✓チェック!!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」のをにしてください。

「OK」をクリック

### その他の設定を変更する

「電源の管理」では、次の設定も変更できます。

- ・省電力の設定ファイルの変更  
省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。
- ・電源スイッチの役割  
本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。

#### 📖参照

「電源の管理」での設定 Windowsの「ヘルプとサポート」、サポートセンタ



P A R T

# 12

## さらに広がるパソコンワールド

ここでは、パソコンの使い方を広げるアプリケーションを紹介します。自分流にパソコンを使いこなすための参考にしてください。

**携帯電話と連携する**

**CD-R や CD-RW にデータを書き込む**

## 携帯電話と連携する

このパソコンでは、携帯電話に登録されている情報を編集したり、パソコンで作成した予定表や連絡先、画像などのデータを、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧したりできます。

### 携帯電話に登録されている情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録されている電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集できます。「携快電話 3N」というアプリケーションを使います。「携快電話 3N」では、着信メモディやメールの編集もできます。



### 「携快電話 3N」を使うには

・「携快電話 3N」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。このパソコンに添付のアプリケーション CD-ROM からインストールしてお使いください。

#### 参照

「携快電話 3N」のインストール 「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「携快電話 3N」

・このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルが必要になります。別売の携帯電話接続ケーブル(PC-VS-K10またはPC-VS-K11)を購入してください。なお、携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なります。ご購入の際は、販売店にてよく確かめください。

・「携快電話 3N」が使える携帯電話の機種、注意事項などの情報は、次の専用ホームページと Readme ファイルをご覧ください。

専用ホームページのアドレス

<http://www.sourcenext.com/k1/target/>

携快電話 3N の Readme ファイル

「スタート」-「プログラム」-「携快電話 3N」-

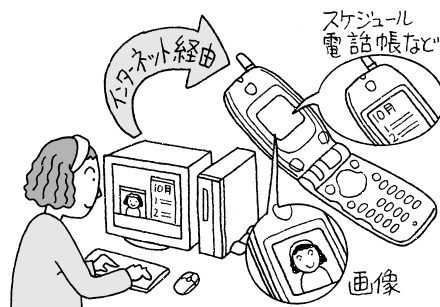
「Readme」(「携快電話 3N」をこのパソコンにインストールしてからご覧ください)

#### 参照

携快電話 3N の詳しい使いかた 携快電話 3N のヘルプまたは、「添付ソフトの使い方」-「携快電話 3N」または「携快電話 3N ご愛用のしおり」

### パソコンで作成したデータを iモード機能のある携帯電話で閲覧する

パソコンで作成した画像や予定表、連絡先などのデータをホームページに登録することで、外出先などから、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧することができます。



### 携帯電話でデータを閲覧できるようにするための準備

携帯電話でデータを閲覧できるようにするには、次の準備が必要です。

・iモード機能のある携帯電話を準備する

・パソコンをインターネットに接続できる環境にする  
プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。

・自分のホームページスペースを開設する  
FTP プロトコル(インターネット上でファイルを転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設する個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに、自分の予定表や画像などのデータを登録し、携帯電話からそのホームページを閲覧します。

準備ができたら、見たい情報の操作手順を確認してください。

## 写真などの画像を携帯電話で見る

### 携帯電話で見たい画像を用意する


デジタルカメラで撮影した写真などの画像ファイルをパソコンに取り込んでおきます。

### 携帯電話で見られるように画像を編集する

画像を編集するには、「スナップショット」を使います。スナップショットでは、各機種に対応したサイズに画像データを再編集できます。「スナップショット」は、購入時にはアプリケーション CD-ROMに入っています。このパソコンにインストールしてからお使いください。



参照

・「スナップショット」のインストール  「サポートセンター」「アプリケーションの追加と削除」「スナップショット」

・「スナップショット」の詳しい使いかた 「スナップショット」のヘルプ

### 画像データを個人ホームページに登録する

BIGLOBE に入会している場合は、BIGLOBE の i モード向けサービス「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」(有料)が利用できます。「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」では、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

その他のプロバイダに入会した場合は、開設した個人ホームページに登録します。ホームページへの登録方法は、各プロバイダに確認してください。



参照

「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」について  
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/ialbum/>(トップページ URL)  
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/ialbum/manual.html>(操作方法の URL)

### 登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力します。

「スナップショット」は、EZweb、J-SKY 機能を持つ携帯電話で見られるように、画像を編集することもできます。

### パソコンで作成した予定表や連絡先などをiモード機能のある携帯電話で見る

このパソコンで作成した予定表や連絡先などを i モード機能のある携帯電話で見るには、「NEC PC オーナーズスケジューラ」を使います。

#### ■ NEC PC オーナーズスケジューラを使う

「NEC PC オーナーズスケジューラ」は、予定表、アドレス帳などの情報を、まとめて管理するためのホームページです。自分の情報にアクセスするには、メンバー名とパスワードが必要なので、他人に勝手に見られることはありません。

自分の情報を仲間に公開すれば、グループ内で情報共有することもできます。このグループ機能を使えば、仲間との予定の調整と自分のスケジュールの管理が同時にできます。

NEC PC オーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

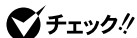
### NEC PCオーナーズスケジューラに予定表などの情報を登録する

NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、情報を登録します。



NEC PC オーナーズスケジューラの URL

[http://www.biglobe.ne.jp/nec\\_pc/imodel/schedule/](http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/)



NEC PC オーナーズスケジューラを利用するには、BIGLOBEのCYBER PLAZAメンバーシップへの登録(無料)が必要です。

NEC PC オーナーズスケジューラ(正式名称: NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBE スケジューラ)は、BIGLOBEのサービス「BIGLOBEスケジューラ」を利用して実現しています。NEC PCオーナーズスケジューラを利用する際の規約や説明文などには「BIGLOBE スケジューラ」と表示されていることがあります。



### 登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力して、NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスします。メンバー名とパスワードを入力すると、登録したデータが見られます。



NEC PC オーナーズスケジューラの操作方法  
NEC PC オーナーズスケジューラのヘルプ



## CD-R や CD-RW にデータを 書き込む

このパソコンではCD-RやCD-RWというメディア(記録媒体)に大量にデータを書き込むことができます。ここではCD-RやCD-RWにデータを書き込むときのポイントなどについて説明します。

CD-R/RW with DVD-ROM ドライブまたはCD-R/RW ドライブでは、CD-RやCD-RWという持ち運び可能なメディアに大量のデータ(650Mバイトなど)を記録できます。また、多くのCD-ROMドライブで読み込むことができるため、CD-ROMドライブのある他のパソコンとのデータの受け渡しに適しています。

### CD-R と CD-RW の特長

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROM ドライブまたはCD-R/RW ドライブでデータを書き込む(記録する)ことができるメディアには、CD-R(CD-Recordable)とCD-RW(CD-ReWritable)があります。それぞれ、次のような特長があります。

- ・CD-R(CD-Recordable)
  - 一度だけデータを書き込むことができる(書き換え不可)
  - CD-ROM ドライブで読み込みが可能
  - メディアが安価
- ・CD-RW(CD-ReWritable)
  - データを繰り返し書き換えることができる

### CD-R や CD-RW にデータを 書き込むソフトについて

CD-RWやCD-Rにデータを書き込むためには、専用のアプリケーション(ライティングソフト)が必要です。このパソコンには、次の2種類のライティングソフトが用意されています。それぞれに特徴がありますので、目的に応じて適した方をお使いください。

#### Easy CD Creator

Easy CD Creatorには、次のような特徴があります。

- ・データを書き込むときに、Easy CD Creatorを起動させる必要がある
- ・いろいろな形式のCDをガイドに沿って簡単に作成できる
- ・作成したCDを他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- ・大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- ・デジタルカメラで撮った写真データなどの受け渡しに適している



参照


Easy CD Creatorの操作について 「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Easy CD Creator 4」-「クイックリファレンス」

#### DirectCD

DirectCDは、ご購入時ではインストールされていません。DirectCDを使うには添付のアプリケーションCD-ROMからインストールを行います。



参照

DirectCDのインストール方法  「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「DirectCD」

DirectCDには、次のような特徴があります。

- ・書き込む前に、メディアをDirectCD専用フォーマットする必要がある
- ・マイコンピュータやエクスプローラ、アプリケーションなどからデータを直接書き込める
- ・作成したメディアを他のパソコンで読み込むには、CD-Rの場合は、DirectCDでの処理が必要。CD-RWの場合は、UDF Readerのインストールが必要。
- ・いろいろなデータを頻繁に書き込むのに適しているため、データのバックアップに適している



参照

DirectCDの操作について 「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Direct CD」の「Direct CD ヘルプ」または「クイックリファレンス」

## データを書き込む際の注意

- ・書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- ・データを書き込むときは、書き込み中に休止状態またはスタンバイ状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。



自動的に休止状態にならないように設定する  
PART11の「省電力の設定を変える」(p.115)

## 他のCD-ROMドライブで メディアを読み込むときの注意

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを記録したメディアを、他のCD-ROMドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したアプリケーションによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。またCD-R/RWメディアによっては、お使いのCD-ROMドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応のCD-ROMドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応のCD-ROMドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。

### **チェック!!**

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

P A R T

# 13

## 本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定する BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについて説明しています。

通常は、この設定を変更する必要はありません。

BIOS セットアップメニュー

このパソコンが使用しているリソース

# BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

## ✓チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

## BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

## BIOS セットアップメニューを使う

### BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。「セットアップを起動しています。…」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

## ✓チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOSセットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動	終了
システム時刻:	[XX:XX:XX]	項目ヘルプ		メニューバー	
システム日付:	[XXXX/XX/XX]	<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。		メニューバー	
言語:	[日本語 (JP)]	パラメータ		メニューバー	
プライマリマスタ	[XXXXX]	パラメータ		メニューバー	
プライマリスレーブ	[XXXXX]	パラメータ		メニューバー	
セカンダリマスタ	[なし]	パラメータ		メニューバー	
セカンダリスレーブ	[なし]	パラメータ		メニューバー	
キーボード機能	[使用しない]	パラメータ		メニューバー	
起動時の自己診断画面	[使用しない]	パラメータ		メニューバー	
システムメモリ:	640KB	パラメータ		メニューバー	
拡張メモリ:	x x KB	パラメータ		メニューバー	
BIOS リビジョン	XXXX	パラメータ		メニューバー	
F1 ヘルプ	項目の選択	/+ 値の変更	F9 デフォルトの設定	キーステータスバー	
Esc 終了	メニューの選択	Enter サブメニューの選択	F10 保存して終了	キーステータスバー	

### BIOS セットアップメニューの終了

- 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。  
「セットアップ確認」画面が表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。  
設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でもBIOS セットアップメニューを終了することができます。

- 起動前の設定のまま終了する場合

【 】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【 】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

## ✓チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【 】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOS セットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

### デフォルト値の設定

以下の手順で設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻すことができます。

【F9】を押す。  
「セットアップ確認」画面が表示されます。

【 】で「はい」を選んで【Enter】を押す。  
すべての設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

## BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【**↑**】、【**↓**】でメニューバーのカーソルを選択し、【**→**】、【**←**】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例:システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【**Tab**】で選択します。設定内容の値は【**+**】、【**-**】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【**Enter**】でサブメニューを表示し、【**Esc**】で元の画面に戻ります。

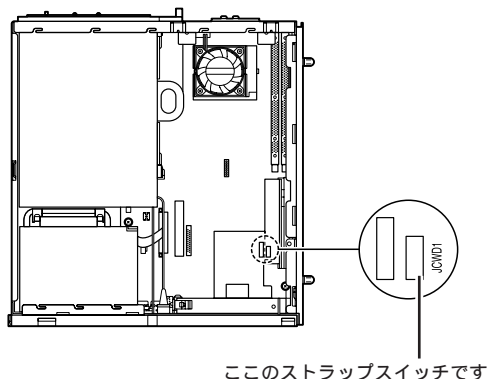
## パスワードの解除

このパソコンでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、パソコンを起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

### ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取り外すことでパスワードの解除ができます。

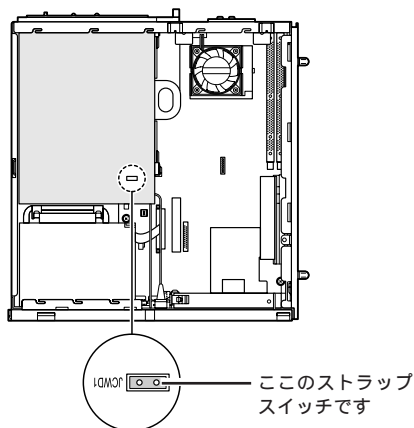
VC866J/6FD、VC800J/6XD、VT866J/67Dの場合



VT1000J/6JD4、VT1000J/6FD、VT800J/6JD、VT1000J/6ZDの場合

### ✓チェック!!

ストラップスイッチは、CD-ROMドライブの下にあります。



### パスワードの解除のしかた

#### ⚠注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

VC866J/6FD、VC800J/6XD、VT866J/67Dの場合

このパソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。

#### 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

FAXモデムボード、地上波TV&データボード(TVモデルのみ)を外す。

### ✓チェック!!

FAXモデムボード、地上波TV&データボード(TVモデルのみ)はPART6で説明しているPCIボードと同じように取り外すことができます。

#### ☞ 参照

PCIボードの外し方 PART6の「PCIボードの取り付けと取り外し」(p.63)

ストラップスイッチを上引き抜く。指でストラップスイッチを引き抜くことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

### ✓チェック!!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

手順 で外したPCIボードをもとどおりに取り付け。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

#### ☞ 参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、パソコンの電源を入れる。  
Windowsが起動します。

Windowsを終了し、パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 、 を行い、手順 で引き抜いたストラップスイッチをもとどおりに差し込む。

手順 、 と同じようにルーフカバーを外して、PCIボードをすべて外します。指でストラップスイッチをもとどおりに差し込むことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

手順 と同じようにPCIボードをすべてを取り付ける。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおりに接続する。

VT1000J/6JD4、VT1000J/6FD、VT800J/6JD、VT1000J/6ZDの場合

このパソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。

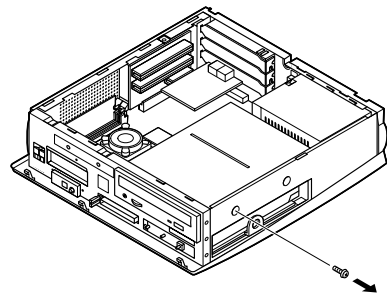
#### ☞ 参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

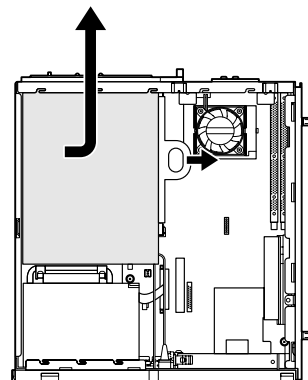
CD-ROMドライブを固定しているネジ1本を取り外す。  
ネジを取り外すには、プラス(+ )ドライバーが必要です。

### ✓チェック!!

外したネジをなくさないように、大切に保管してください。



図のようにレバーを強く右へ引きながら、CD-ROMドライブを少し右へずらし、本体前面方向へストラップスイッチが見えるところまで移動させる(CD-ROMドライブに接続されているケーブル類は取り外す必要はありません)。

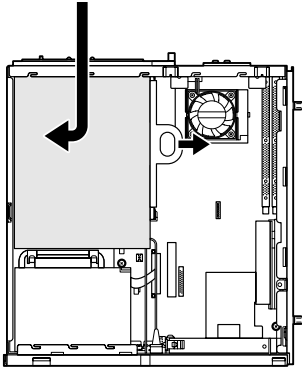


ストラップスイッチを上引き抜く。  
指でストラップスイッチを引き抜くことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

### ✓チェック!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

図のようにレバーを強く右へ引きながら、CD-ROMドライブを元の位置に戻し、レバーから指をはなす。



手順 で取り外したネジをもとどおりに取り付ける。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.31)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、パソコンの電源を入れる。  
Windows が起動します。

Windows を終了し、パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 ~ を行い、手順 で引き抜いたストラップスイッチをもとどおりに差し込む。  
指でストラップスイッチをもとどおりに差し込むことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

手順 、 と同じように CD-ROM ドライブを元の位置に戻し、ネジで固定する。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおりに接続する。

# このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)

## ✓チェック!!

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

## 割り込みレベル(IRQ)

VT1000J/6JD4 以外の場合

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	(空)
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	アクセラレータ/ACPI/IEEE1394 /地上波TV & データボード
10	サウンド/USBインターフェイス/SMBus/CardBus/FAXモデムボード
11	(空)
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

地上波 TV & データボードはTV モデルのみ。

VT1000J/6JD4 の場合

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	(空)
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	アクセラレータ/ACPI/IEEE1394 /地上波TV & データボード
10	USBインターフェイス/CardBus
11	FAXモデムボード/サウンド/BSデジタルチューナボード
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	CardBus

## DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空)
#1	(空)
#2	(空)
#3	(空)
#4	DMAコントローラ
#5	(空)
#6	(空)
#7	(空)



# 付 録

パソコンのお手入れ

本体の各部の名称

機能仕様

FAX モデムボード機能仕様

# パソコンのお手入れ

パソコンを長く使っていると、本体やディスプレイの汚れが気になるものです。また、マウス内部のローラーやボールにホコリなどがついて汚れてしまうと、マウスの操作がうまくできなくなります。日頃から、お手入れをするように心がけましょう。

## ⚠️ 注意



お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



## 準備するもの

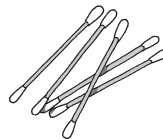
- 軽い汚れのとき  
乾いたきれいな布



- 汚れがひどいとき  
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布



- マウスをクリーニングするとき  
綿棒



## ✔️ チェック!!

OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについては、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

## ✔️ チェック!!

シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを傷めたり、故障の原因になります。

## 📖 参照

NEC のお問い合わせ先 『121ware ガイドブック』

## 電源を切って、電源ケーブルを外す

お手入れの前には、かならず、パソコンの周辺機器やパソコンの電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

## 清掃する

### パソコン

やわらかい布でふいてください。

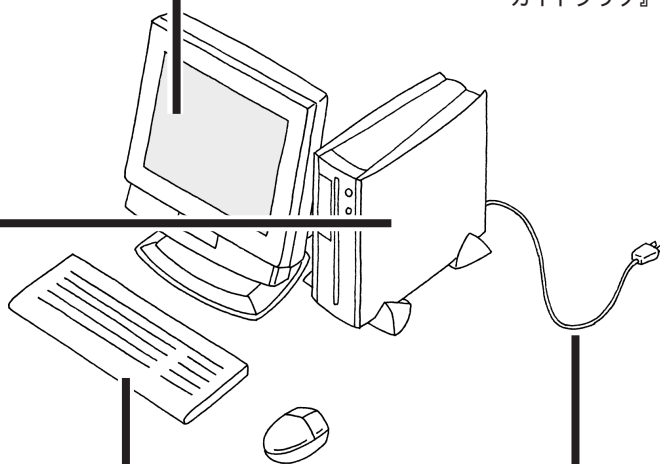
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

#### パソコンの内部

長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

### ディスプレイ

やわらかい布でふいてください。  
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。



### キーボード

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。

ゴミが取れないときは、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

### ✓チェック!!

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないください。故障の原因になります。

### 📖参照

NECのお問い合わせ先 『121ware ガイドブック』

### 電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまる場合があります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

### マウス

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

#### マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。

### 📖参照

「マウスのクリーニング」(次ページ)

## 電池切れにご注意(ワイヤレス キーボード・ワイヤレスマウスの場合)

ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの電池が切れはじめると、文字入力やマウス操作がうまくできなくなります。そんなときのためにも、いつも予備の電池を準備しておくことをおすすめします。

### ✓チェック!!

キーボードの電池が消耗するとキーを操作するたびに「ピー」というブザー音が鳴ります。そのときは、新しい電池に交換してください。

### 📖参照

電池を交換するには 『はじめにお読みください』の「キーボードとマウスの準備をする」

## マウスのクリーニング

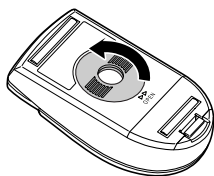
マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに、ローラーやボールに油分が付くと、故障の原因になったりします。ローラーはとくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、手順 ~ は省略して構いません。

### ✓チェック!!

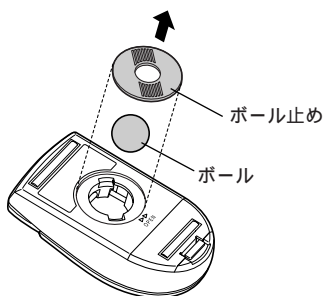
取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

パソコンの電源を切る。USB キーボードの場合は、マウスのケーブルをキーボードから外す。

マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる。



ボール止めを取り外し、ボールを取り出す。



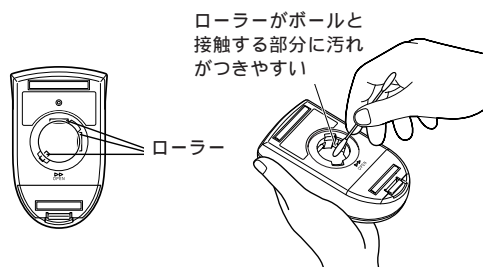
ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす。

水で中性洗剤を洗い落とす。

布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる。

マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす。

汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取る(このとき、歯ブラシに、水やはみがき粉などをつけないでください)。



ボールをマウスに戻す。

ボール止めを取り付け、手順 と逆の方向に回して固定する。

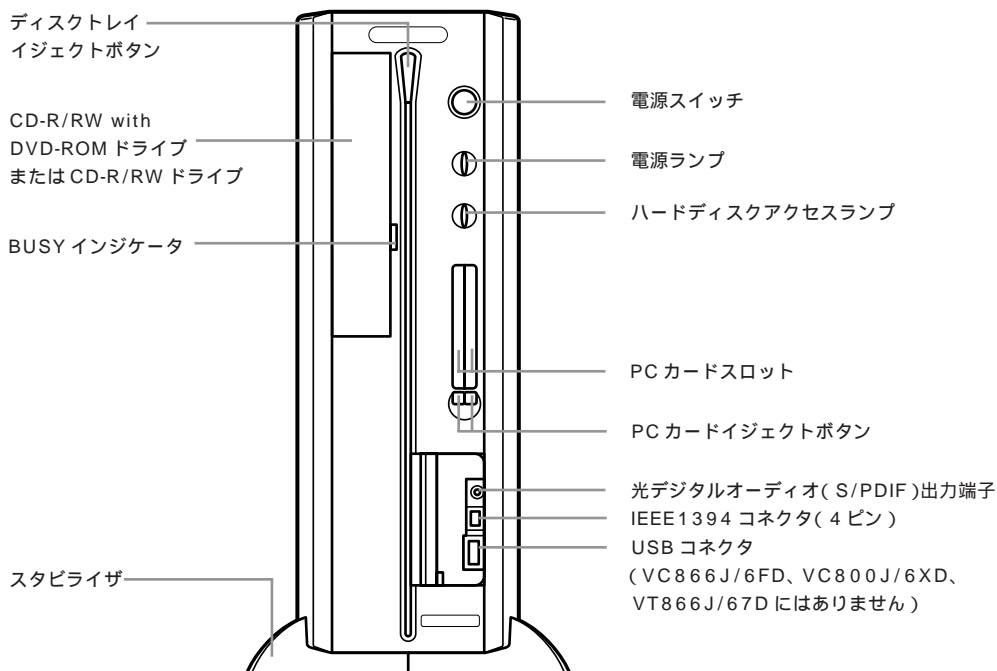
USB キーボードの場合は、マウスのケーブルをキーボードに取り付ける。

### ✓チェック!!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

# 本体の各部の名称

## 本体前面



### 電源スイッチ (🔌)

電源を入れるスイッチ。休止状態から復帰するときにも使います。なお、電源を切るときは、Windows Me の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

### ✔️ チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので、正しい方法で操作してください。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

### 電源ランプ (🔆)

電源の入/切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態ではオレンジ色に点灯します。休止状態と電源を切った状態では消灯します。

### ハードディスクアクセスランプ (💡)

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

### ✔️ チェック!!


点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

### PC カードスロット (📁)

PC カードを取り付けるスロット。2 スロットあります。あらかじめ、PC カードスロットを保護するためにダミーカードがセットされています。PC カードには、メモ리카ードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器とつなげるための SCSI カードなどいろいろな種類があります。

#### PCカードイジェクトボタン

PCカードをPCカードスロットから取り出すときに使うボタン。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(  ) MDデッキやAVアンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

#### IEEE1394コネクタ(4ピン) ( )

IEEE1394対応機器(4ピン)を接続するためのコネクタ。

#### USBコネクタ( )

USB対応機器を接続するためのコネクタ。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。なお、VC866J/6FD、VC800J/6XD、VT866J/67Dには本体前面にUSBコネクタはありません。

#### ディスクトレイイジェクトボタン( )

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

#### CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

##### ・CD-R/RW with DVD-ROMモデル

DVD-ROMやCD-ROM、音楽CDを入れるところ。またCD-R、CD-RWメディアにデータを記録するところ。

##### ・CD-R/RWモデル

CD-ROMや音楽CDを入れるところ。また、CD-R、CD-RWメディアにデータを記録するところ。

#### BUSYインジケータ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブからデータを読み出しているときに点灯します。

#### **チェック!!**

点灯中は電源を切ったり、CD-ROMなどを取り出したりしないでください。CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブの故障の原因となります。

#### スタビライザ

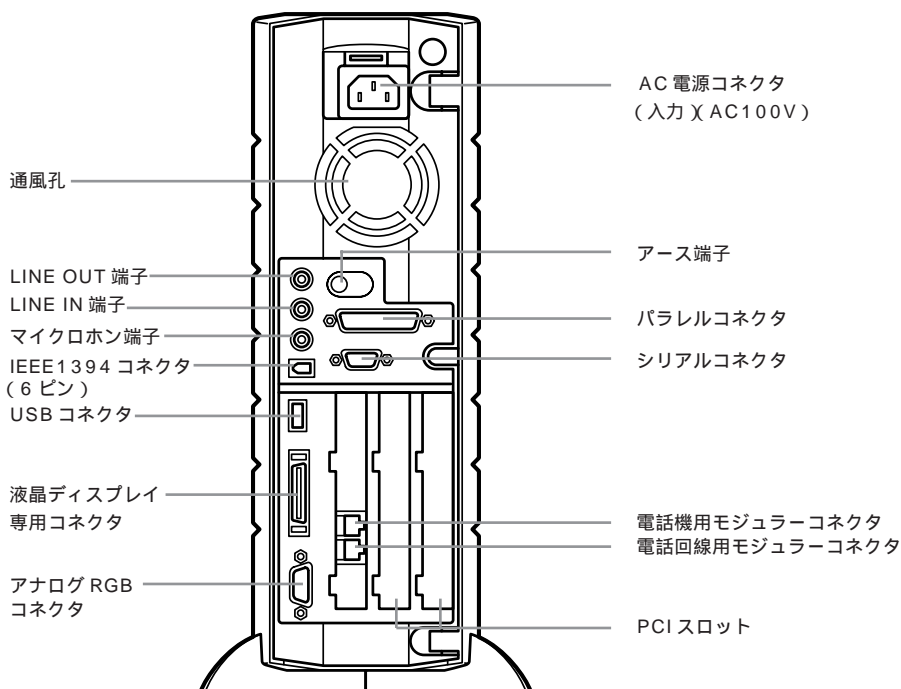
本体を安定して設置するための脚。

#### **チェック!!**

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

## 本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



AC 電源コネクタ(入力 X AC100V)  
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。  
本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

アース端子(⏏)  
アース線を接続するための端子。

平行コネクタ(☐)  
プリンタなどを接続するためのコネクタ。

### ✓チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と同時に取り付けることはできません。

シリアルコネクタ(⏏)  
周辺機器を接続するためのコネクタ。  
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

### ✓チェック!!

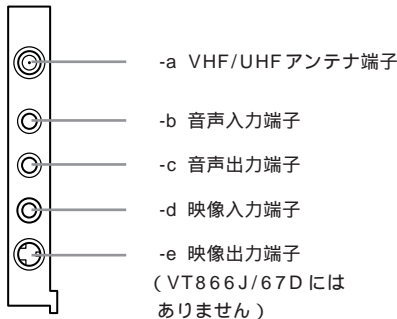
- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。PK-CA102は別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)と同時に取り付けることはできません。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

電話機用モジュラーコネクタ(☎)  
電話機を接続するためのコネクタ。

電話回線用モジュラーコネクタ(☎)  
電話回線を接続するためのコネクタ。

PCI スロット  
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、取り付けるためのスロット。高速なデータ転送ができるPCIバスに対応。  
TVモデルの場合、左側のスロットに標準で地上波TV & データボードが取り付けられています。さらにVT1000J/6JD4では、右側のスロットにBSデジタルチューナボードが取り付けられています。BSデジタルチューナボードについては、添付の『パソコンで楽しむBSデジタル放送』をご覧ください。

地上波 TV & データボード (TV モデルのみ)



-a VHF/UHF アンテナ端子 (VHF/UHF)  
 テレビ放送を受信するためのアンテナ端子。VHF と UHF の共用端子です。

-b 音声入力端子 (Stereo)  
 テレビやビデオの音声を入力するための端子。

**チェック!!**

- ・音声入力端子にビデオなどを接続した場合に、ビットキャストローダーが起動していない状態では、スピーカから音声が出力されることがあります。この場合は、ビデオなどの電源を切るか、音声入力端子から外してください。
- ・ビットキャストローダーが起動していない場合は、地上波 TV & データボードの音声入力端子は、本体の音声入力端子として扱えます。外部機器から本機に音声を入力する必要がある場合は、地上波 TV & データボードの音声入力端子に接続してください。

-c 音声出力端子 (Stereo)  
 VHF/UHF アンテナ端子、または音声入力端子に入力された音声を出力する端子。LINE ケーブルで、本体の LINE IN 端子と接続します。

-d 映像入力端子 (Video)  
 テレビやビデオの映像を入力するための端子。

-e 映像出力端子 (Video)  
 このパソコンからテレビに映像を出力するための端子。なお、VT866J/67D にはこの端子はありません。

**チェック!!**

S 映像入力端子のある AV 機器に接続してください。また、TV モデル (VT866J/67D を除く) の場合、添付の「VIDEO 変換コネクタ」を使えば、RCA 端子のある AV 機器にも接続できます。詳しくは、PART1 の「AV 機器を接続する」(p.10) をご覧ください。

**通風孔**

本体内部の熱を逃がすための孔。壁などでふさがないように注意してください。

LINE OUT 端子 (Stereo) (Stereo)  
 添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号 (Stereo) を出力するためのミニジャック端子。

LINE IN 端子 (Stereo) (Stereo)  
 市販のオーディオ機器などから、音声信号 (Stereo) を本体に入力するためのミニジャック端子。

マイクロホン端子 (モノラル) (Mono)  
 マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

IEEE1394 コネクタ (6 ピン)  
 IEEE1394 対応機器 (6 ピン) を接続するためのコネクタ。

USB コネクタ (USB)  
 USB 対応機器を接続するためのコネクタ。USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

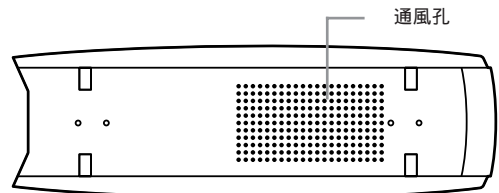
液晶ディスプレイ専用コネクタ (LCD)  
 セットの液晶ディスプレイを接続するためのコネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

アナログ RGB コネクタ (RGB)  
 アナログ RGB 対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

**チェック!!**

このコネクタに別売のディスプレイを接続して2台のディスプレイを接続してもマルチモニターサポート機能は使えません。

**本体底面**



**通風孔**

本体内部の熱を逃がすための孔。底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがらない状態になります。

**チェック!!**

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。



# 機能仕様

## VC800J/6、VC866J/6

型名		VC800J/6XD	VC866J/6FD	
型番		PC-VC800J6XD	PC-VC866J6FD	
CPU		Pentium® プロセッサ (800EBMHz)	Pentium® プロセッサ (866MHz)	
チップセット		Intel社製 810E Chipset		
システムバスクロック		133MHz (メモリバス: 100MHz)		
キャッシュ	1次	32Kバイト (CPU内蔵)		
メモリ	2次	256Kバイト (CPU内蔵)		
メインRAM	標準容量	64Mバイト 1 (SDRAM-DIMM、PC100対応)	128Mバイト 1 (SDRAM-DIMM、PC100対応)	
	スロット数	2スロット(DIMMスロット、内1スロットにメモリ実装済み) [空きスロット1]		
	最大容量	256Mバイト 2 (増設RAMサブボードにより増設可能)		
表示機能	ビデオRAM	8~11Mバイト 1		
	ディスプレイキャッシュ	4Mバイト		
	グラフィックアクセラレータ	Intel社製 82810E(AGP) [Chipset内蔵]		
	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色 3	
		800×600ドット	最大1,677万色 3	
1,024×768ドット		最大1,677万色 3		
	1,280×1,024ドット	最大1,677万色 4		
サウンド機能	音源	PCM録音再生機能: ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4~48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載(GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS) Level-1対応		
	サラウンド機能	エンハンスステレオ		
	ステレオスピーカ	添付の液晶ディスプレイに内蔵		
入力装置	キーボード	ワイヤレスキーボード ワイヤレス接続 5 6、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き		
	マウス	ワイヤレスマウス ワイヤレス接続 6 8、スクロール機能付き		
	ハードディスクドライブ 9	内蔵(約40Gバイト 10) Ultra ATA-66対応	内蔵(約60Gバイト 11) Ultra ATA-66対応、7,200rpm	
補助記憶装置	CD/DVDドライブ	CD-R/RW内蔵 12 読み込み: 最大32倍速(CD-ROM) 書き込み: 最大8倍速(CD-R)、 最大4倍速(CD-RW)	CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 12 13 読み込み: 最大4倍速(DVD-ROM)、 最大2.4倍速(CD-ROM) 書き込み: 最大4倍速(CD-R)、最大4倍速(CD-RW)	
	インターフェイス	USB 7	3(本体×1、液晶ディスプレイ×2、コネクタ4ピン)	
パラレル		1(D-sub25ピン)		
シリアル		1(D-sub9ピン)		
ディスプレイ		アナログ	1(ミニD-sub15ピン)	
		専用	1(専用30ピン) 14	
FAXモデム		2(LINE、TELEPHONE)、モジュラコネクタ		
IEEE1394 (DV)		2(6ピン×1、4ピン×1) 15		
サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力(丸形、光ミニジャック) 16、ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドホン出力(ステレオ、ミニジャック) [添付の液晶ディスプレイに有り]、マイク入力(モノラル、ミニジャック)			
通信機能	FAXモデム	データ通信: 最大56Kbps 17 (K56flex™、V.90対応)/ FAX通信: 最大14.4Kbps (V.17)、Resume On Ring機能対応		
5型ベイ	1スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済) [空きスロット0]			
内蔵3.5型ベイ	1スロット(HDDで1スロット占有済) [空きスロット0]			
拡張スロット	PCカードスロット	Type x2 (Type x1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 18		
	PCIスロット	2スロット(ハーフ×2) [空きスロット2]		
電源	AC100V±10%、50/60Hz			

## VC800J/6、VC866J/6

型名		VC800J/6XD	VC866J/6FD
消費電力	本体 19	約52W(最大125W)	約69W(最大142W)
	ディスプレイ	本体に含まれる	
エネルギー消費効率		R区分 0.015	R区分 0.016
温湿度条件		10～35、20～80%(ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体	106(W)×337(D)×315(H)mm(突起部除く) 20	
	ディスプレイ	352(W)×210(D)×372(H)mm	381(W)×210(D)×397(H)mm
	キーボード	382(W)×179(D)×40(H)mm	
質量	本体	約7.7kg	
	ディスプレイ	約5.6kg	約6.3kg
	キーボード	約0.9kg 21	
	マウス	約0.2kg 21	
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 22 23	
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 23、 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 23	
主なインストールソフト		Office2000 Personal	
主な添付品		ガイドブック、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、 乾電池(単三アルカリ：2本、単四アルカリ：2本)、保証書	
ディスプレイ	画面サイズ	14.1型(デジタルTFT液晶)	15型(デジタルTFT液晶)
	表示寸法	アクティブ表示エリア：285(W)×214(H)mm	アクティブ表示エリア：304(W)×228(H)mm
	画素ピッチ	0.279mm	0.3mm
	ディスプレイプロセッサ	Sage製 Cheetah4	
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット(自動切替) 24、デジタルRGBインターフェイス(T.M.D.S)	
USBポート 7		2ポート装備	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- ビデオ RAM はメイン RAM を使用します。表示領域として使用するのはこの一部です。
- 増設 RAM サポート(128M バイト)を 2 枚実装する必要があります。メイン RAM が 64M バイトの場合は、標準実装のメモリを取り外す必要があります。
- グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。セットの液晶ディスプレイではデザインにより 1,619 万色となります。
- セットの液晶ディスプレイでは表示不可です。
- キーボードの電池寿命はご使用の環境や方法にもよりますが、アルカリ電池で最大 300 時間です。
- 使用する環境条件により異なりますが、使用可能な距離は約 1.2m です。
- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- マウスの電池寿命はご使用の環境や方法にもよりますが、アルカリ電池で最大 120 時間です(マウスを持ちつづけていると動作状態となることがあります)。
- 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- Windows のシステムからは、容量が約 37.2G バイトと認識されます。
- Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- セットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48KHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は 33.6Kbps になります。
- ZV ポート対応カードは使用できません。
- セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
- スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、155(W)×337(D)×325(H)mm です。
- 乾電池の質量は含まれておりません。
- 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。

## VT800J/6、VT1000J/6

型名		VT800J/6JD	VT1000J/6FD	VT1000J/6JD4	
型番		PC-VT800J6JD	PC-VT1000J6FD	PC-VT1000J6JD4	
CPU		Pentium® プロセッサ( 800EBMHz ) Pentium® プロセッサ( 1.0BGHz )			
チップセット		VIA社製 Apollo Pro133A Chipset			
システムバスクロック		133MHz( メモリバス : 133MHz )			
キャッシュ	1次	32Kバイト( CPU内蔵 )			
メモリ	2次	256Kバイト( CPU内蔵 )			
メインRAM	標準容量	128Mバイト( SDRAM-DIMM、PC133対応 )	128Mバイト( VC SDRAM 1-DIMM、VC133対応 )		
	スロット数	2スロット( DIMMスロット、内1スロットにメモリ実装済み [ 空きスロット1 ] )			
	最大容量	512Mバイト 2( 増設RAMサブボードにより増設可能 )			
表示機能	ビデオRAM	16Mバイト			
	グラフィックアクセラレータ	nVIDIA™社製 GeForce 2 MX™ ( AGP )			
	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色 3		
		800×600ドット	最大1,677万色 3		
		1,024×768ドット	最大1,677万色 3		
1,280×768ドット		最大1,677万色 3	最大1,677万色 4	最大1,677万色 3	
1,280×1,024ドット	最大1,677万色 4				
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能 : ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4 ~ 48KHz、全二重対応( モノラル、量子化8ビット時 )、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載( GM演奏モード対応 )、最大同時発音数64音、Downloadable Sound ( DLS )Level-1対応			
	サラウンド機能	エンハンストステレオ			
	スピーカ	ステレオスピーカ	外付け円筒形スピーカ、添付の液晶ディスプレイに内蔵	外付けハイブリッドフラットパネルスピーカ、添付の液晶ディスプレイに内蔵	添付の液晶ディスプレイに内蔵
	サラウンドスピーカ	-		外付けサラウンドスピーカシステム ( 5.1チャンネル対応 ) 40	
入力装置	キーボード	ワイヤレスキーボード ワイヤレス接続 5 6、JIS標準配列( 英数、かな )、109キーレイアウト準拠、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き			
	マウス	ワイヤレスマウス ワイヤレス接続 6 8、スクロール機能付き			
補助記憶装置	ハードディスクドライブ 9	内蔵( 約40Gバイト 10 ) Ultra ATA-66対応	内蔵( 約60Gバイト 11 ) Ultra ATA-66対応、7,200rpm		
	CD/DVDドライブ	CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 12 13 読み込み:最大4倍速( DVD-ROM )、最大24倍速( CD-ROM ) 書き込み:最大4倍速( CD-R )、最大4倍速( CD-RW )			
映像関連機能	TVチューナー	音声多重対応、受信チャンネル : VHF( 1 ~ 12ch )、UHF( 13 ~ 62ch )		地上波放送 : 音声多重対応、受信チャンネル : VHF( 1 ~ 12ch )、UHF( 13 ~ 62ch ) BSデジタル放送 : BSデジタル放送対応 37	
	データ放送受信	地上波データ放送( bitcast、ADAMS )、文字多重放送		地上波データ放送( bitcast、ADAMS )、文字多重放送、BSデジタルデータ放送	
	映像合成表示機能	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能( 全画面表示可能 ) ただし、bitcastブラウザ使用時は240×180ドット以上( 縦横比3:4固定 )		DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能( 全画面表示可能 )、bitcastブラウザ使用時は240×180ドット以上( 縦横比3:4固定 )、SmartVision BS/TV 38 では640×360ドット ~ 960×540ドット( 縦横比9:16 )の範囲で固定サイズによる段階的リサイズが可能	
	テレビ録画機能 39	MPEG2( 高画質モード:640×480ドット、7Mbps/標準画質モード:320×480ドット、6.2Mbps )、MPEG1( 2Mbps )で録画可能。 最長録画時間( 標準画質モード ):約17時間50分( VT1000J/6FD、VT1000J/6JD4 )、約11時間10分( VT800J/6JD ) 14 15			
インターフェイス	USB 7	4( 本体×2、液晶ディスプレイ×2、コネクタ4ピン )			
	パラレル	1( D-sub25ピン )			
	シリアル	1( D-sub9ピン )			
	ディスプレイ	アナログ	1( ミニD-sub15ピン )		
	専用	1( 専用30ピン ) 16			

VT800J/6、VT1000J/6

型名		VT800J/6JD	VT1000J/6FD	VT1000J/6JD4
インターフェイス	FAXモデム	2( LINE、TELEPHONE )、モジュロコネクタ		
	IEEE1394 ( DV )	2( 6ピン×1、4ピン×1 ) 17		
	サウンド関連	光デジタルオーディオ( S/PDIF ) 出力( 丸形、光ミニジャック ) 18、ライン入力×2 (ステレオ、ミニジャック) 19、ライン出力×2( ステレオ、ミニジャック ) 19、ヘッドホン出力( ステレオ、ミニジャック ) [添付の液晶ディスプレイに有り]、マイク入力 (モノラル、ミニジャック)		光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力×2( 丸形( PCM/ドルビーデジタル )×1 20、角形( PCM/AAC )×1 21 )、LINE入力×2 (ステレオ、ミニジャック) 22 23、LINE出力×2( ステレオ、ミニジャック ) 22、ヘッドホン出力( ステレオ、ミニジャック ) [添付の液晶ディスプレイに有り]、マイク入力( モノラル、ミニジャック )
映像関連	アンテナ入力( U/V混合、75、同軸F型)、ビデオ入力( コンポジット ) 24、ビデオ出力( TV-OUT端子、S-ビデオ/コンポジット共用、ミニDIN7ピン ) 25 26		BSアンテナ入力( 75、同軸F型)、TVアンテナ入力( U/V混合、75、同軸F型)、ビデオ入力( コンポジット ) 24、ビデオ/LINE出力( S-ビデオ/コンポジット/LINE共用、ミニDIN8ピン ) 23 26 27、ビデオ出力( TV-OUT端子、S-ビデオ/コンポジット共用、ミニDIN7ピン ) 25 26、ICカードボックス接続端子( 専用13ピン)	
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 28( K56flex™、V.90対応 )/ FAX通信: 最大14.4Kbps ( V.17 )、Resume On Ring機能対応		
5型ベイ		1スロット( CD/DVDDドライブで1スロット占有済 ) [ 空きスロット0 ]		
内蔵3.5型ベイ		1スロット( HDDで1スロット占有済 ) [ 空きスロット0 ]		
拡張スロット	PCカードスロット	Type ×2( Type ×1スロットとしても使用可 )、PC Card Standard準拠、CardBus対応 29		
	PCIスロット	2スロット( ハーフ×2 )、( TVボードで1スロット占有済み ) 空きスロット1 ]		2スロット( ハーフ×2 )、( TVボードおよびBSデジタルボードで2スロット占有済み ) 空きスロット0 ]
電源		AC100V±10%、50/60Hz		
消費電力	本体 30	約78W( 最大154W )	約76W( 最大152W )	約83W( 最大112W )
	ディスプレイ	本体に含まれる		
エネルギー消費効率		R区分 0.018	R区分 0.015	
温湿度条件		10～35、20～80%( ただし結露しないこと )		
外形寸法	本体	106( W )×337( D )×315( H )mm( 突起部除く ) 31		
	ディスプレイ	393( W )×210( D )×355( H )mm	381( W )×210( D )×397( H )mm	393( W )×210( D )×355( H )mm
	キーボード	382( W )×179( D )×40( H )mm		
質量	本体	約7.7kg	約7.8kg	約8.0kg
	ディスプレイ	約6.0kg	約6.3kg	約6.0kg
	キーボード	約0.9kg 32		
	マウス	約0.2kg 32		
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 33 34		
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 34、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 34		
主なインストールソフト		Office2000 Personal		
主な添付品		LINEケーブル、ビデオ変換コネクタ( ミニDIN7ピン( S-ビデオ出力 ) コンポジット出力 )、ガイドブック、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、乾電池( 単三アルカリ:2本、単四アルカリ:2本 )、保証書		ICカードボックス、B-CASカード、LINEケーブル( 2本 )、ビデオ/LINEケーブル( ミニDIN8ピン S-ビデオ出力/コンポジット出力/LINE出力 )、ビデオ変換コネクタ( ミニDIN7ピン( S-ビデオ出力 ) コンポジット出力 )、ガイドブック、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、乾電池( 単三アルカリ:2本、単四アルカリ:2本 )、保証書
ディスプレイ	画面サイズ	15.3型ワイド( 高輝度デジタルTFT液晶 )	15型( 高輝度デジタルTFT液晶 )	15.3型ワイド( 高輝度デジタルTFT液晶 )
	表示寸法	アクティブ表示エリア: 334( W )×200( H )mm	アクティブ表示エリア: 304( W )×228( H )mm	アクティブ表示エリア: 334( W )×200( H )mm
	画素ピッチ	0.261mm	0.297mm	0.261mm
	ディスプレイプロセッサ	Sage製 JAG-D		
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、1,280×768ドット( 自動切替 )	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット( 自動切替 ) 36、	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、1,280×768ドット( 自動切替 ) 36、
USBポート 7		2ポート装備		

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1: VirtualChannel™ SDRAM の略です。VirtualChannel™ SDRAM は、従来 SDRAM と互換性を持ちながらパフォーマンスを向上させる新しいメモリです。
- 2: 増設 RAM サブボード (256M バイト) を 2 枚実装する必要があります。標準実装のメモリを取り外す必要があります。
- 3: グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。セットの液晶ディスプレイではディザリングにより 1,619 万色となります。
- 4: セットの液晶ディスプレイでは表示不可です。
- 5: キーボードの電池寿命はご使用の環境や方法にもよりますが、アルカリ電池で最大 300 時間です。
- 6: 使用する環境条件により異なりますが、使用可能な距離は約 1.2m です。
- 7: 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 8: マウスの電池寿命はご使用の環境や方法にもよりますが、アルカリ電池で最大 120 時間です (マウスを持ちつづけていると動作状態となることがあります)。
- 9: 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- 10: Windows のシステムからは、容量が約 37.2G バイトと認識されます。
- 11: Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 12: 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 13: 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- 14: 録画時間は、映像の内容によって前後する場合があります。
- 15: 高画質モードによる最長録画時間は、約 15 時間 50 分 (VT1000J/6FD、VT1000J/6JD4) 約 9 時間 50 分 (VT800J/6JD) です。
- 16: セットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 17: 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット (<http://121ware.com>) をご確認ください。
- 18: 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48KHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS (シリアルコピーマネジメントシステム) に準拠した信号を出力します。
- 19: 本体側ライン入力と TV ボード側ライン出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 20: 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48KHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS (シリアルコピーマネジメントシステム) に準拠した信号を出力します。
- 21: 市販の AAC5.1ch に対応している AAC デコーダ内蔵 AV アンプとスピーカシステムを接続することによって、BS デジタル放送の 5.1ch デジタルサラウンドを楽しむことができます。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS (シリアルコピーマネジメントシステム) に準拠した信号を出力します。なお、添付のサラウンドスピーカシステム (5.1 チャンネル対応) は AAC5.1ch には対応していません。
- 22: 本体側の LINE 入力と TV ボード側の LINE 出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 23: TV ボード側の LINE 入力とビデオ /LINE ケーブル (BS デジタルボード側のビデオ /LINE 出力へ接続) の LINE 出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 24: 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスク等へ録画することはできません。
- 25: S-ビデオ出力として利用できます。コンポジット出力として利用する場合は、添付のビデオ変換コネクタを使用することにより利用できます。
- 26: 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスクやビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません。(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)
- 27: 添付のビデオ /LINE ケーブルを接続することにより、S-ビデオ出力、コンポジット出力、LINE 出力が利用できます。
- 28: 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は 33.6Kbps になります。
- 29: ZV ポート対応カードは使用できません。
- 30: セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
- 31: スタビライザ (縦置き台) 取り付け時は、155 (W) × 337 (D) × 325 (H) mm です。
- 32: 乾電池の質量は含まれておりません。
- 33: 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 34: 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 35: 1,280 × 768 ドットおよび 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。
- 36: 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。
- 37: ハイビジョン映像 (1125i (1080i) / 750p (720p)) をパソコン上で処理しやすい 525p (480p) へ変換して表示します。
- 38: 本体にプリインストールされている BS デジタル放送受信のソフトウェア名称です。
- 39: BS デジタル放送 (VT1000J/6JD4 のみ) は、タイムシフト視聴やハードディスクへのデジタル録画には対応していません。
- 40: BS デジタル放送の AAC5.1ch には対応していません。

## セットのスピーカの機能仕様

### ・VT1000J/6FD にセットのスピーカ

最大出力 (アンプ部)	ツイータ部0.6W、ウーファ部0.9W
外形寸法	約100(W)×96.5(D)×345(H)mm(片側)
質量	スピーカ(右)約640g、スピーカ(左)約700g、 ACアダプタ約290g

### ・VT800J/6JD にセットのスピーカ

最大定格出力	1.5W + 1.5W
外形寸法	約90(W)×90(D)×236(H)mm(片側)
質量	スピーカ(右)約270g、スピーカ(左)約310g ACアダプタ(ケーブル含む)約310g

### ・VT1000J/6JD4 にセットのサラウンドスピーカシステム

サラウンドスピーカシステム(PK-SP500)の機能仕様については、スピーカに添付のマニュアルをご覧ください。

## VT866J/6、VT1000J/6

型名		VT866J/67D	VT1000J/6ZD	
型番		PC-VT866J67D	PC-VT1000J6ZD	
CPU		Pentium® プロセッサ (866MHz)	Pentium® プロセッサ (1.0BGHz)	
チップセット		Intel社製 810E Chipset	VIA社製 Apollo Pro133A Chipset	
システムバスクロック		133MHz (メモリバス:100MHz)	133MHz (メモリバス:133MHz)	
キャッシュ	1次	32Kバイト (CPU内蔵)		
	2次	256Kバイト (CPU内蔵)		
メインRAM	標準容量	128Mバイト 1 (SDRAM-DIMM、PC100対応)	128Mバイト (SDRAM-DIMM、PC133対応)	
	スロット数	2スロット (DIMMスロット、内1スロットにメモリ実装済み) [空きスロット1]		
	最大容量	256Mバイト 2 (増設RAMサブボードにより増設可能)	512Mバイト 3 (増設RAMサブボードにより増設可能)	
表示機能	ビデオRAM	8~11Mバイト 1	16Mバイト	
	ディスプレイキャッシュ	4Mバイト	-	
	グラフィックアクセラレータ	Intel社製 82810E (AGP [Chipset内蔵])	nVIDIA™ 社製 GeForce2 MX™ (AGP)	
	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色	
		800×600ドット	最大1,677万色	
		1,024×768ドット	最大1,677万色	
1,280×768ドット		-	最大1,677万色	
1,280×1,024ドット	最大1,677万色			
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能:ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4~48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載(GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS) Level-1対応		
	サウンド機能	エンハンスステレオ		
	ステレオスピーカ	外付け円筒形スピーカ		
入力装置	キーボード	USBキーボード(キーボードの左下隅に【Fn】キーがあるタイプ) USBコネクタに接続、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、スリープボタン、 ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き、 USBバスパスワードハブ(2ポート)付き 4 5		
	マウス	USBマウス USBコネクタに接続(添付のキーボードにあるUSBコネクタに接続)、スクロール機能付き		
補助記憶装置	ハードディスクドライブ 6	内蔵(約40Gバイト 7) Ultra ATA-66対応	内蔵(約60Gバイト 8) Ultra ATA-66対応、7,200rpm	
	CD/DVDドライブ	CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 9 10 読み込み:最大4倍速(DVD-ROM)、最大24倍速(CD-ROM) 書き込み:最大4倍速(CD-R)、最大4倍速(CD-RW)		
映像関連機能	TVチューナー	音声多重対応、受信チャンネル:VHF(1~12ch)、UHF(13~62ch)		
	データ放送受信	地上波データ放送(bitcast、ADAMS)、文字多重放送		
	映像合成表示機能	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)、ただし、bitcastブラウザ使用時は240×180ドット以上(縦横比3:4固定)		
テレビ録画機能	MPEG2(高画質モード:640×480ドット、7Mbps/標準画質モード:320×480ドット、6.2Mbps)、MPEG1(2Mbps)で録画可能。最長録画時間(標準画質モード):約17時間50分(VT1000J/6ZD)、約11時間10分(VT866J/67D) 11 12			
インターフェイス	USB 4	4 13(本体×2 14、キーボード×2 7、コネクタ4ピン)		
	パラレル	1(D-sub25ピン)		
	シリアル	1(D-sub9ピン)		
	ディスプレイ	アナログ	1(ミニD-sub15ピン)	
		専用	-	1(専用30ピン) 29
	FAXモデム	2(LINE、TELEPHONE)、モジュラコネクタ		
	IEEE1394(DV)	2(6ピン×1、4ピン×1) 15		
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力(丸形、光ミニジャック) 16、ライン入力×2(ステレオ、ミニジャック) 17、 ライン出力×2(ステレオ、ミニジャック) 17、ヘッドホン出力(ステレオ、ミニジャック [添付の外付けスピーカに有り])、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)		
映像関連	アンテナ入力(U/V混合、75、同軸F型)、 ビデオ入力(コンポジット) 18	アンテナ入力(U/V混合、75、同軸F型)、ビデオ入力(コンポジット) 18、ビデオ出力(TV-OUT端子、S-ビデオ/コンポジット共用、 ミニDIN7ピン) 19 20		

VT866J/6、VT1000J/6

型名		VT866J/67D	VT1000J/6ZD
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 21 (K56flex™、V.90対応) / FAX通信:最大14.4Kbps (V.17)、Resume On Ring機能対応	
5型ベイ		1スロット(CD/DVDドライブでスロット占有済)[空きスロット0]	
内蔵3.5型ベイ		1スロット(HDDで1スロット占有済)[空きスロット0]	
拡張スロット	PCカードスロット	Type x2 (Type x1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 22	
	PCIスロット	2スロット(ハーフx2)、(TVボードで1スロット占有済)[空きスロット1]	
電源		AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力	本体	約44W(最大92W)	約51W(最大99W)
	ディスプレイ	約100W	-
エネルギー消費効率		R区分 0.016	R区分 0.014
温湿度条件		10~35、20~80%(ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体	106(W)×337(D)×315(H)mm(突起部除く) 23	
	ディスプレイ	403(W)×420(D)×420(H)mm(専用回転台含む) -	
	キーボード	382(W)×179(D)×44(H)mm	
質量	本体	約7.8kg	
	ディスプレイ	約18.8kg	-
	キーボード	約1.2kg	
	マウス	約0.2kg	
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 24 25	
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 25、 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 25	
主なインストールソフト		Office2000 Personal	
主な添付品		LINEケーブル、ガイドブック、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、保証書	LINEケーブル、ビデオ変換コネクタ(ミニDIN7ピン(S-ビデオ出力) コンポジット出力)、ガイドブック、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、保証書
ディスプレイ	画面サイズ	17型(フルフラット、ダイヤモンドトン®モニター)	
	表示寸法	標準表示範囲:300(W)×225(H)mm 26 28 最大表示可能範囲:325(W)×243(H)mm 27	
	AGピッチ	0.25mm	
	水平走査周波数	31~69KHz	
	垂直走査周波数	59~86Hz	
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、 1,280×1,024ドット(自動切替)	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1: ビデオRAMはメインRAMを使用します。表示領域として使用するのは、この一部です。
- 2: 増設RAMサブボード(128Mバイト)を2枚実装する必要があります。
- 3: 増設RAMサブボード(256Mバイト)を2枚実装する必要があります。標準実装のメモリを取り外す必要があります。
- 4: 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 5: USBコネクタから消費する電流が100mA以下の機器に限ります。
- 6: 1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。
- 7: Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイトと認識されます。
- 8: Windowsのシステムからは、容量が約55.8Gバイトと認識されます。
- 9: 縦置き時、8cmCDは使用不可です。
- 10: 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。
- 11: 録画時間は、映像の内容によって前後する場合があります。
- 12: 高画質モードによる最長録画時間は、約15時間50分(VT1000J/6ZD)約9時間50分(VT866J/67D)です。
- 13: 本体の1ポートはキーボードで占有、キーボードの1ポートはマウスで占有します。
- 14: VT866J/67Dの場合、添付のUSB増設ケーブルを接続する必要があります。
- 15: 接続する周辺機器によっては、対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 16: 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。



- 17: 本体側ライン入力とTVボード側ライン出力は、添付のLINEケーブルで接続する必要があります。
- 18: 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスク等へ録画することはできません。
- 19: S-ビデオ出力として利用できます。コンボジット出力として利用する場合は、添付のビデオ変換コネクタを使用することにより利用できます。
- 20: 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスクやビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません。(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)
- 21: 56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は33.6Kbpsになります。
- 22: ZVポート対応カードは使用できません。
- 23: スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、155(W)×337(D)×325(H)mmです。
- 24: 別売のMicrosoft® Windows® Millennium Editionパッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 25: 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。
- 26: 表示するタイミングによっては表示サイズが変わる場合があります。
- 27: 接続する装置および表示する解像度によっては、表示面積を最大まで広げられない場合があります。
- 28: 1,280×1,024表示時は288(W)×230(H)mmです。
- 29: セットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

## セットのスピーカの機能仕様

最大定格出力	1.5W + 1.5W
外形寸法	約90(W)×90(D)×236(H)mm(片側)
質量	スピーカ(右)約270g、スピーカ(左)約310g ACアダプタ(ケーブル含む)約310g

# FAX モデムボード機能仕様

## 機能概要

CPU I/F	AC-linkインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤルパルス送出機能</li> <li>・リング検出機能</li> </ul>
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット</li> <li>V.90</li> <li>K56flex</li> <li>V.34</li> <li>V.32bis</li> <li>V.32、V.22bis、V.22、V.21</li> <li>V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正</li> <li>V.42bisおよびMNP5データ圧縮</li> <li>・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度</li> <li>V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2</li> <li>・TiesATコマンドセット</li> <li>AT</li> <li>Sレジスタ</li> <li>・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン</li> <li>・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択</li> <li>・フロー制御およびスピード・バッファリング</li> <li>・パラレル非同期データ</li> <li>・自動ダイヤルおよび自動アンサー</li> <li>・トーンおよびパルスダイヤリング( DTMFトーン、ダイヤルパルス制御 )</li> </ul>

## FAX 機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM:9,600/7,200bps DPSK:4,800/2,400bps FSK:300bps
送信レベル	-11~-15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## データモデム 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	PCM: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps TCM: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400bps QAM: 9,600/4,800/2,400/1,200bps DPSK: 1,200bps FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-11~-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	TiesATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型) MA(手動発信/自動着信型) MM(手動発信/手動着信型) AM(自動発信/手動着信型)
制御コマンド	TiesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

ATコマンド\*については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

\* : DTE(パソコンなどの端末機器)から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発信を行うことができる。



# 索 引

## 英数字

121ware.com .....	5
【121ware】ボタン .....	109
3.5インチフロッピーディスクドライブ .....	20
3Dグラフィックアクセラレータボード .....	22, 62
ACPIモード .....	112
AC電源コネクタ(入力)(AC100V) .....	135
APMモード .....	112
AV機器 .....	10
BIOSセットアップメニュー .....	124
BUSYインジケータ .....	134
CardBus .....	52
CD/DVDプレーヤボタン .....	109
CD-R .....	121
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ .....	121, 134
CD-R/RWドライブ .....	121, 134
CD-RW .....	121
DIMM .....	68
DirectCD .....	121
DMAチャンネル .....	128
DSU .....	16
DV端子 .....	23, 49
DVD-ROMドライブ .....	21
Easy CD Creator .....	121
FAXモデムボード機能仕様 .....	146
Fnキー .....	108
IEEE .....	48
IEEE1394 .....	48
IEEE1394コネクタ .....	23, 49, 134, 136
IEEE1394ケーブル .....	49, 50
IRQ .....	128
ISDN回線 .....	16
ISDNターミナルアダプタ .....	16
iモード .....	118
Jet-Audio Player .....	11
LAN(ネットワーク)ボード .....	22, 62
LINE IN端子 .....	14, 136
LINE OUT端子 .....	14, 136
MOディスクドライブ .....	21
MS-DOSプロンプト .....	90
NEC PCオーナーズスケジューラ .....	119, 120

PC-9800シリーズのキーボード .....	110
PC Card Standard .....	52
PCカード .....	51
PCカードイジェクトボタン .....	134
PCカードスロット .....	19, 52, 133
PCカードの設定 .....	56
PCIスロット .....	62, 135
PCIボード .....	22, 62
RAMサブボード .....	69
SCSI ID .....	78
SCSIインターフェイス .....	77, 78
SCSIインターフェイスボード .....	22, 62, 79
SCSI機器 .....	76, 77, 81
SCSI機器接続ケーブル .....	78, 79
USB .....	38
USBコネクタ .....	39, 41, 134, 136
USB増設ケーブル .....	43
USBハブ .....	46
VHF/UHFアンテナ端子 .....	136
VideoStudio .....	50
Windowsキー .....	108

## ア行

アース端子 .....	135
アナログRGBコネクタ .....	136
アプリケーションキー .....	108
インクジェットプリンタ .....	8
【インターネット】ボタン .....	109
インターフェイス .....	38
映像出力端子 .....	15, 136
映像入力端子 .....	136
液晶ディスプレイ専用コネクタ .....	136
音声出力端子 .....	136
音声入力端子 .....	136
音量 .....	13, 109

## カ行

ガイドラベル	109
キーの名称	106
キーの役割	106
キーのロック	107
キーボード	106
機能仕様	137 ~ 145
休止状態	112
携帯電話3N	118
携帯電話接続ケーブル	118
コンパクトフラッシュ	18

## サ行

【サポート】ボタン	109
周辺機器の取り外し	29
省電力機能	112
シリアルコネクタ	135
スクロールボタン	104
スタビライザ	134
スタンバイ状態	112
ストラップスイッチ	125
スナップショット	119
スマートメディア	18
【スリープ】ボタン	109
増設RAMサブボード	68
外付け用ハードディスク	21

## タ行

ターミナルアダプタ	16
ターミネータ	77, 79
地上波TV&データボード	136
通風孔	136
ディスクトレイジェクトボタン	134
デジチェーン	77
デジタルカメラ	18
デジタル署名	28
デジタルビデオカメラ	23, 49
【テレビ】ボタン	109
電源スイッチ	109, 133
電源ランプ	112, 133
電話回線用モジュラーコネクタ	135
電話機用モジュラーコネクタ	135
ドットインパクトプリンタ	8

ドライバ	9, 27
ドライブ名	89

## ハ行

ハイパワーデバイス	45
ハードディスク	111
ハードディスクアクセスランプ	133
ハーフサイズのPCIボード	62
ハウリング	13
パスワード	125
パソコンのお手入れ	130
バックアップ	111
パラレルコネクタ	135
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子	10, 134
フォーマット	88, 95
プラグ&プレイ	27, 48
フラッシュメモリカード	18
プリンタ	8
ページプリンタ	8
ヘッドホン端子	14
ボリュームボタン	109
本体の各部の名称	133

## マ行

マイクロホン端子	13, 136
マウス	104
マウスのクリーニング	132
マルチファンクションカード	59
【メール】ボタン	109
メモリ	67

## ヤ・ラ・ワ行

【ユーザ】ボタン	109
らくらくピクチャー・ミニ for iモード	119
リソース	99, 128
リソースの競合	99
領域	90, 92
リング機能	113, 114
ルーフカバー	31, 34
レーザープリンタ	8
割り込みレベル (IRQ)	128
ワンタッチスタートボタン	108, 109





## やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

パソコンの接続とセットアップをしたい	はじめにお読みください
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW を使いたい	はじめにお読みください
「パソコンのいろは」 / 「サポートセンタ」について知りたい	はじめにお読みください
マウスの使い方を知りたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
インターネットで、できることが知りたい	使っておぼえるパソコンの基本
インターネットを利用したい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
電子メールを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
BIGLOBE に入会したい	使っておぼえるパソコンの基本
ワープロを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本
アプリケーションの使い方が知りたい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
バックアップを取りたい	使っておぼえるパソコンの基本、困ったときのQ&A、サポートセンタ
プリンタを使いたい	もっと知りたいパソコン
USB 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
IEEE1394 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
PC カードを使いたい	もっと知りたいパソコン
周辺機器を取り付けたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの拡張性について知りたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの機能について詳しく知りたい	もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
パソコンのお手入れをしたい	もっと知りたいパソコン
パソコンのトラブルを予防したい	困ったときのQ&A
再セットアップしたい	困ったときのQ&A
マニュアル総索引を使いたい	困ったときのQ&A
パソコンが思うように動かない	困ったときのQ&A、サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい	サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	サポートセンタ
アプリケーションを追加 / 削除したい	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい	サポートセンタ
受けられるサポートについて知りたい	サポートセンタ
デジタルカメラやインターネットの画像を加工したい	サポートセンタ
FAX を送受信したい	サポートセンタ
テレビを見たい (TV モデルのみ)	はじめにお読みください
テレビの録画をしたい / 映像を編集したい (TV モデルのみ)	TV モデルガイド

VALUESTAR

# もっと知りたいパソコン



PC98-**NX** SERIES  
**VALUESTAR**

2版 2001年2月  
NEC  
P  
853-810130-010-A2